



## 6. 大阪万博2025年が決定（2018年7月～12月）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 洋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/16372">http://hdl.handle.net/10466/16372</a>

## 6. 大阪万博 2025 が決定 (2018 年 7 月～12 月)

7 月 1 日 なげきの展望台

福知山市に丹州観音寺というのがあり、俗称あじさい寺。関西花の寺一番札所でもある。休日を利用して出かけた。

寺全体がアジサイに覆われていて、桔梗の合間を小国鶏（にわとり）が走り、平家物語で有名な沙羅双樹の白い花が咲いている。いつから設置されているのか気になるが大きなガラスの窓に映るアジサイは迫力を増す。

「素晴らしいものがいっぱいあるなあ」と境内を回っていると、展望台への道が目にとまる。「なげきの展望台」とある。折角なので登ることにした。降りてくる人が「良かったね」とか言っているのでも「何があるのだろうか」と楽しみにしながら。結構厳しい。

ところが展望台には何も無い。ここでこの寺の住職は言う。「ここを登りきれば、『何かいいことがあるだろう』と期待しますが、何も無いのが人生です。嘆いていいですよ。しかし、『何も無い人生』の中に深い意味があるのです。『何も無い人生』こそが人間に与えられた一番の幸せなのです。その意味を感じ取ってください」。住職の話はまだ続くが、自分なりに整理してどこかの機会でも使わせてもらおうと思う。

今までにいろいろなことがあった。嬉しいこと、楽しいこと。一方で、苦労しても努力しても成果が出なかったことは多い。すべてを受け入れることが大切だ。いろいろなことを思い出しながら、改めてそのように思った。

7 月 2 日 2018 年前半の主な出来事

7 月になったので、今年になって何が良かったか振り返ってみた。

### (1) 国家資格試験の結果

看護師 127 名、理学療法士 24 名、作業療法士 25 名、管理栄養士の国家試験に 30 名全員が合格。他の国家試験の結果も例年より良かった。特に看護師の合格率には気にしていたので、関係者の努力に感謝。

### (2) 入学試験応募者

志願者倍率がここ数年 8.0 => 7.6 => 7.5 => 7.2 と漸減していたが、7.3 倍であり歯止めがかかった。入試広報の成果か。

### (3) 研究戦略の策定

外部資金獲得が漸減し、目標ラインを下回ったこともあり、戦



略とアクションプランをまとめてもらった。

#### (4) 海外留学報告の Web 公開徹底

大学・校友会・後援会・国など外部団体から支援を受けて留学した場合は自らを振り返るとともに後輩らの参考になるよう必ず報告書を公開するよう徹底した。グローバル特待生第一期生の選考もあり、学生の渡航がさらに活発になることをのぞむ。

#### (5) 米国大学のサマーキャンプ受入れ

エンブリー・リドル航空大学から教員 2 名、学生 15 名を一ヶ月受け入れた。バディ制度を導入し 41 名の学生が参加。「出島」を作らない国際交流を目指したい。海外招聘プログラムのさくらサイエンスプランでは、第一期だけで 7 件(国立・私立を含めても日本で一番多い)の採択があった。

#### (6) 国家プログラムの中間評価

リーディング大学院 SiMS が A 評価、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブが S 評価。国に採択されたプログラムに対して組織的に取り組むことが評価されている。

#### (7) 入試広報の充実

昨年に、「本学は実力に比べ、高校生に知られていない」と厳しい外部評価を受け、受験生向けの冊子、高校教員向けの冊子を新たに作成して配布。

#### (8) くすのき広場 NE x ST

学生会館前の整備がおわり、中央のくすのきを象徴とした広場の名前が決まった。将来の NEXT と巣の NEST をかけあわせたよい名称になった。

#### (9) 地震による休講

6 月 18 日通学時間帯に被災。休講の意思決定、周知や安否確認体制など概ねうまく対応できたが反省事項もあり、今後活かす。

#### (10) 府市両議会で来年度法人統合が議決

### 7 月 3 日 フランスのオルレアン大学とダブルディグリー

人間社会システム科学研究科の高垣教授が指導されてきた森田美里さんが、オルレアン大学とのダブルディグリー学位取得を目指して最終段階になり、その経緯などを話しにきてくれた。すでに公聴会を終え、フランス側の学位は授与が決定している。公聴会のあと、フランス流の祝賀会があったということでそのときの様子の写真も見せて頂いた。聞けば聞くほど、「人の縁・人のネットワーク」というものを感じる。また、高垣先生も森田さんも研究科の支援、教務職員の支援を感謝されていた。この場でも紹介しておく。

日本のフランス大使館のホームページには、フランスの大学と日本の大学のダブルデグリー制度がある事例の一覧が掲載されている。「なぜ、本学にフランスからの留学生が多いか」という質問に対する答えがこの辺りにある。本学の国際交流の特徴として大切にしたい。



7月4日 大韓民国大阪総領事様ご来校(6月29日)

この4月に着任された総領事の呉泰奎氏が、教育担当の領事である梁鎬錫氏と一緒に本学に見えた。

本学は、韓国の13の大学と国際交流協定を締結しており、以前に比べて減ったとはいえ、毎年20名前後の留学生を受け入れている。また、金烏工科大学などに学生派遣の実績もある。最近では、電子部品や食品化学に関して、韓国企業と共同研究をしている。



7月5日 くすのき広場 NExST

学生会館の前の広場。きれいに整備された。先日の除幕式では全体像が見えないので、スライドショーで。

工事で「くすのき」が弱っているなので、大切に扱ってください。大きな木陰をはやく作ってほしいですね。



7月6日 連絡

首都大戦、午前の開会式ほか全てのプログラムは悪天候による交通事情で中止。開会式を午後で調整中。天候と交通事情で決まり次第、色々なルートで連絡予定です。

7月7日 今後の主な予定

会議の多くのスタンディングテーブルで行うようになった(写真)。時間を短くしたい。机上スペースを減らした。コピーをせず、資料を供覧するようにしたい。一人だけ減らしても効果が少ないが、全学で努力すれば効果は大きいはず。さて、

7月8日 大阪女子大学同窓会 斐文会90周年記念講座・祝賀会@グランビリア大阪

11日 留学生交流会@グローバルcommons

12日 法人評価委員会@未定

17日 教育研究会議

18日 羽曳野キャンパス訪問 教職員と懇談

植物工場研究センターイベント

19日 文科省研修職員報告会

20日 高専訪問 午後天城へ移動

21日ー22日 天城学長会議



7月8日 平成30年度河村孝夫記念奨学金申請受付

故 河村孝夫 名誉教授のご遺族から多額の寄付を頂き、経済的な理由により十分に勉学に励むことの出来ない学生に対して、就学支援を行う奨学金設立した。





公的機関に多額の寄付をされたことにより、紺綬褒章および木杯一組が授与されたので、私が代理でご自宅にお届け・お渡しをするとともに、奨学金に使わせて頂けることに、改めて お礼を申し上げます。

この奨学金は、7月23日（月）～8月3日（金）が受付期間。



#### 7月9日 豪雨で被災された方にお見舞い

停滞した前線の影響による記録的な大雨が続き、土砂崩れや河川の氾濫のニュースが報じされた。被災された方には心よりお見舞い申し上げます。本学の施設には大きな被害の報告が入っていないが、大きな被災地出身の方におかれてはご家族が安全であることを願っている。

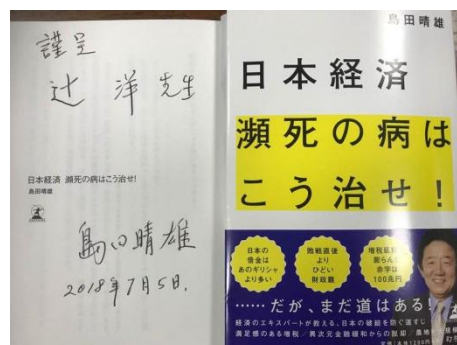
また、先日、地震発生時には、いくつかの公立大学からお見舞いのメッセージを頂いたが、公立大学に限らず、多くの教育機関でしばらく休講になるのではないかと推察する。お見舞いを述べるとともに、一刻も早い復旧の願いたい。

本学においても予定した首都大学東京との総合競技大会が中止になった。一部の競技については、親睦を深める交流戦として実施したと聞いている。準備を進めてきた体育会の学生さん、学生センターの教職員には、中止後の対応もいろいろご尽力いただいたことに感謝する。

いつ、災害が発生するかわからない。そのときに如何に対応ができるかは、日ごろからの発想力（いろいろな場合を想定して、連鎖として何がおこり、何をすべきかをシミュレーションする力）なのだろう。今回の経験も今後を活かしたい。

#### 7月10日 島田晴雄先生による関西経済論の講義(5日)

島田先生は、労働経済学がご専門で、小泉政権において内閣府特命顧問として政策支援に携わった方だ（我々がお世話になりよく知っているのはふるさと納税制度）。昨年4月から、首都大学東京の理事長に就任されていて、南大沢キャンパスで開催された昨年7月の首都大定期戦の開



会式でお会いした。そのときに、今年の定期戦にあわせて、来阪いただき、関西経済論でご講演頂くことをお願いし、快諾頂いていたのが、先日、実現した。

当日は、大雨で交通機関が乱れていて参加者を心配したが、講演の前後には雨も（一時的に）収まり、500人を超える参加者があった。米朝首脳会談と日本の選択、トランプ政権と今後の展望、欧州の激動、大国を目指す中国、これからの日本など、バランスのとれたご見識と率直なご発言に皆が話に引き込まれていた。

お忙しい中、また、足元の悪い中、ご講演頂いた島田先生、ご参加いただいた聴講生の皆様に感謝する。

#### 7月11日 斐文会 創立90周年 祝賀会

本学の前身の一つである大阪女子大学の同窓会で



ある斐文会。8日に300名近い参加者（なんと90歳以上の方が23名）を得て、ホテルグランピア大阪で開催された。直前の大雨で開催を心配したが、遠隔地からも万難を排して参加いただいたようだ。統合前に教鞭をとっていた教員、現職の教職員卒業生も参加し、さらに夫婦で参加されていた方もおられた。

総会のあと、辻本好美さんという方の尺八コンサート。こきりこ節や竹田の子守歌に加え、オリジナルな洋風のものも楽しんで聞かせて頂いた。私が会報に寄稿したものを読んでくださった方も多くおられ、持参して頂いたかたもおられ感激した。（会報は次）

本学の混声合唱団 EWA CHOR による学歌の斉唱の時には一緒に口ずさんでおられる方がたくさんおられた（エバコールは15日に伊丹ホールでコンサートをするようなので出かけようかと思っている）。

#### 7月12日 【7/15(日)総社市日帰り：先着30名】災害ボランティア募集

先日来の豪雨災害によって犠牲となられた方々に哀悼の意を表し、被災されたすべての方々にお見舞い申し上げます。

学生から相談があって、情報を収集していたところ、岡山県総社市でボランティアを受け入れることがわかり、また、貸切バスが手配できたので、大阪市立大学と共同で学生ボランティアを募集することにした。中百舌鳥キャンパスを早朝7時集合、21時ごろ解散。

現地への引率、事前（7/13 18時）・事後研修等については、本学学生センターのボランティア・市民活動センターが担当。詳細については学内ポータルに（今回応募できない場合もボランティアに対する考え方がわかると思うので見てほしい）。短時間で準備をしてくれた関係者に感謝。以前、3.11でボランティアをしてくれた当時の学生の伝統が生きている。

#### 7月13日 後援会会長に 前川寛和 名誉教授が 就任

学生生活の向上と大学の発展に寄与することを目的として、後援会を設置している。そして、

- ・課外活動に対する援助
- ・福利厚生に対する援助
- ・就職活動に対する援助
- ・教育研究環境等の整備に対する援助

を行っていただいている。学生の保護者に入会をお願いしていて、H30年度は87%の方に入会頂いた。

課外活動については、クラブの運営費（学外施設使用助成を含む）、チャレンジ君事業、大学祭の支援、総合競技大会の支援などを行っている。福利厚生は、100円朝食やTOEIC受験料助成。就職支援は、保護者のためのオープンキャンパスや支援ガイドの配布。環境整備は、グローバルリーダー人材育成奨学金制度など。そのほか、国際交流促進に対する援助や広報活動も行っている。

#### 7月14日 「新法人の中期目標（素案）」について

大阪府・大阪市より連名で2018年5月10日付「公立大学法人大阪の中期目標策定に係る意見聴取について」により意見照会があったので、公立大学法人大阪府立大学・公立大学法人大阪市立大学の連名で2018年6月29日付で回答した。素案の7番目の目標では、

…………… 大阪府立大学と大阪市立大学の統合による新大学実現へ向けた取組の推進

世界的な大学間競争を勝ち抜き、より強い大阪を実現するための知的インフラ拠点として存在感を高めるため、「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）を踏まえ、世界に展開する高度な研究型の公立大学を目指し、大阪府、大阪市及び両大学間で緊密に連携を図りながら、2022年度を目途とする両大学の統合による新大学の実現に向け準備を進める。

とある。連名で回答した意見では、「夢のある魅力ある大学にする」という点から、

財政支援、キャンパス構想、新大学設置スケジュールについて、学内の意見も聞いて丁寧に述べた。「夢のある魅力ある大学」というのは、単なるパッチワークではない。

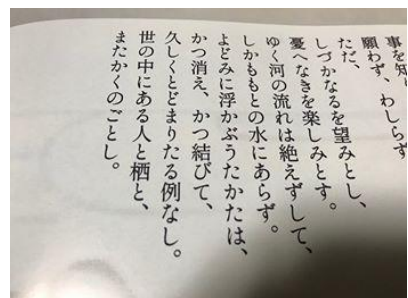
### 7月15日 混声合唱団 EWA CHOR のジョイントコンサート

入学式や学位記授与式で斉唱してくれる EWA CHOR。ドイツ語で「永遠の声」という意味だそうだ。先日、大阪女子大学の同窓会である斐文会の90周年記念祝賀会にも来てくれた。

そのとき、大阪市大、阪大、関大の合唱団とジョイントコンサートを開催することを知り、「方丈記」を唄うというので聞きに行った。聴きに行っても楽しめたし、詩(?)からも考えることができて良かった。

私は、方丈記に曲がついていることを知らなかった。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という有名な調べが、美しい混声で流れる。「よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし」と続く。確かにそうだ。昔、国語の教科書で読んで以来だと思う。「世の中にある人とすみかと、またかくのごとし」。

先日、観音寺で沙羅双樹の花を見たが、自分の人生を振り返りながら、「無常」ということを改めて考えた。



### 7月16日 さくらサイエンスあらたに3件採択

24	大阪大学	B	2018/08/16	2018/09/05	中華人民共和国	西安交通大学	大学院生6名、教員1名	ナノ観察試験と理論シミュレーションとの融合
25	大阪大学	A	2018/07/17	2018/07/26	中華人民共和国	北京航空航天大学	大学院生7名、教員1名	最先端加速器実験および射出器体験プログラム
26	大阪府立大学	A	2018/10/16	2018/10/24	ベトナム社会主義共和国	ベトナム国家大学ホーチミン市校自然科学科大学	大学生6名、大学院生2名、教員3名	環境問題の改善に貢献する人材の育成
27	大阪府立大学	C	2018/09/03	2018/09/08	ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学	大学生8名、教員2名	最先端クリーンルームにおける微細化工体験プログラム
28	大阪府立大学	A	2018/10/22	2018/10/28	ブラジル連邦共和国	パラナ・カトリック司教大学	大学生7名、教員4名	機械工学、メカトロニクスおよび知能情報科学の融合領域における最先端科学技術の体験プログラム
29	岡山大学	A	2019/01/16	2019/01/25	中華人民共和国	西安交通大学	大学生4名、大学院生3名、教員3名	有機機能性材料の開発に関する共同研究

平成30年度第二回の審査があり、本学から3件の採択があった。今回から、南米も支援対象になり、はじめてブラジルの大学生の招へいもできることになる。

教員個人として受け入れる段階から、教育組織として受け入れる段階にし、さらには教職員が分担して受け入れるような体制を確立してほしい。受け入れの枠組みを構築し、申請者にとって負担感な



く、多くの幅広い府大生に異文化交流の機会を設け、そこから、海外に関心をもち、出かけようという府大生をどんどん出す。こんな交流にしたい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

#### 7月17日 市大・府大総合競技大会の優勝杯

一ヶ月少し前の話であるが、6月9日（土）、10日（日）に中百舌鳥キャンパス中心に開催された第43回の大会。23競技があり、結果は15勝8敗で、本学の総合優勝。通算では24勝16敗2分け（1中止）。

この大会は、昭和51年から毎年、市大と本学で交互に開催されている。少しでも多くの方の眼にとまるように、優勝杯を学長室に展示させてもらうことにした。（ちなみに首都大学東京との定期戦の優勝旗も置きたかったが、今年は豪雨で中止となったため、叶わなかった）

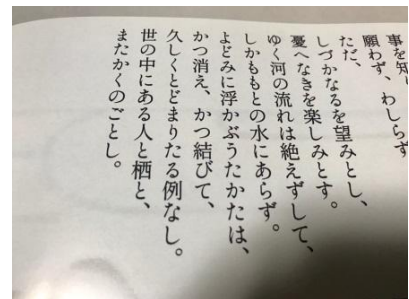


#### 7月18日 方丈記

高校野球の予選が各地で始まった。伝統校という言葉聞き、そこには何か重みがあるように感じる。一方、その伝統校も少しずつ変わる。そんなもの当たり前と言えそうなのだが何か気になる。なぜだろう。

先日の方丈記で、「ゆく河の流れは絶えずして」の「河」を教育だとすると、毎年卒業生を送り出し、入学式を迎えるので、決して、いつも同じ生徒がいるわけではない。教職員という視点でも毎年転出や退職があり、転入や採用があるのだから、メンバーは入れ替わる。「久しくとどまる」ことはないのだ。

一方で、その「河」は流れ続ける。少子化が各地で進んでいて、小学校など統廃合が進んでいるが、「かつ消え」とか「かつ結びて」というところも何か奥が深い。「ゆく河の流れは絶えず」。よく覚えておこう。



#### 7月19日 水分補給をしよう

キャンパスの気温もすごく上がっている。要注意だ。「自分だけは大丈夫」といつい思ってしまう。ここに落とし穴がある。水分を手元にもって、いつでも補給できるようにしてほしい。扇子やウチワは、気温が体温よりあがったときには効果が少ないかもしれない。しかし、エアコンの効いたところで少し使うだけで楽になることがある。

体育会の皆さん、サークルの皆さん、ボランティアの皆さん、よく注意してください。



#### 7月20日 アウリオン

図書館の広報誌が発行された。巻頭は10年ぶりの改訂「広辞





苑」。私には難問ばかりだったが、10個のクイズで楽しめる。

表紙の色は？どの文字で始まる項目が多い？外箱の背景の写真で使われていないのは森か海か銀河か？今回改訂された第七版を10万部印刷するにはどれくらいの時間がかかる？など。答え合わせも掲載されている。

何か困ったことがあれば図書館。調べごともし。気晴らしもし。未知を求めてもよし。

### 7月21日 7月豪雨 義援金箱設置

本学では、先日、大阪市大とともにバスをチャーターして総社市にボランティアを派遣したが、さらに、ボランティア・市民活動センターの学生が中心となって募金活動（義援金）を始めた。

募金箱は以下の場所にある。

- ＜中百舌鳥キャンパス＞ ・学生課（A3棟1階）
- ・広報課（A11棟2階）
- ・ボランティア・市民活動センターV-station（B12棟2階）
- ・生協購買（B14棟1階）・生協食堂 fu・dining（B12棟1階）

＜羽曳野キャンパス＞ ・事務所（L棟1階）

＜りんくうキャンパス＞ ・事務所（1階）

なお、集まった募金は日本赤十字社を通じて被災者に届く。



### 7月22日 ここ数日の動き

連日、35度を超えている。体力が落ちていると感じなくても注意しなければ危ない。

18日 羽曳野キャンパス訪問

植物工場研究センター主催のレタス試食会、コアプロ録画事前準備、新任教員、昇任教員、子育て教員と続けて懇談。管理職と暑気払い。

19日 竹山堺市長来校。昼食後、講演会。関西経済論修了式。代表者に修了証書を授与。学内散策中、写真のグッズの存在を知る。工学研究科暑気払い。

20日 高専訪問。今後の方向について意見交換。その後、伊東に移動。

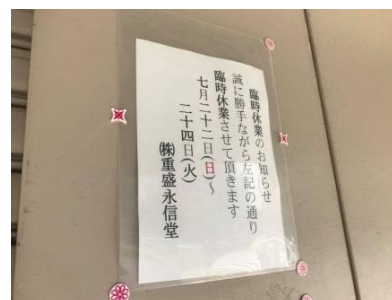
20日～22日 二泊三日で学長会議、国公私立を超えた課題の共有と意見交換。学ぶところ多々あり。

22日 元上司の古希のお祝い@新横浜



### 7月23日 人形焼

本学の卒業生である東野圭吾さんの作品に新参者というのがある。加賀恭一郎刑事が人形町で犯人を追うが捜査の合間に人形焼を食べようと列に並ぶが直前で売り切れる。テレビではこのシーンが何回もあった。



その近くに行くことがあったので食べようと思ってきたらなんと臨時休業。どうもなかなか食べられないものようだ。思わず一人で笑ってしまった。

東野圭吾さんの著作は図書館に揃っている。府大生は是非読んで欲しい。一冊読むとまた読みたくなるのは間違いない。

## 7月24日 レタス食べ放題@羽曳野キャンパス

植物工場研究センターが「人工光で栽培したレタスのレシピ」を求めている。レシピを考えるだけでなく、「試食も歓迎」「食べ放題」ということで、先日、羽曳野キャンパスに出かけた。当日は、栄養療法学専攻の学生たちが中心に、いろいろ準備をしてくれていた。

私としてはゆっくりレシピの説明も受け、多くを味わいたかったが、挨拶をしたり、学生さんと話したり、次の予定が詰まっていたりで、少し慌ただしかった。残念！

学生さんから SNS のアップの許可を取る時間がなかったので、今回は手だけでご容赦。今週、中百舌鳥キャンパスでもある。定期試験で忙しいかもしれないが、どこかで食事をするなら、ぜひ、こちらに参加してほしい。府大をよりよく知るためにも。

### 記

#### ☆中百舌鳥キャンパス

日時：25日（水）、26日（木） 10時40分～14時25分

場所：C21棟2階研修室

■各日12時10分より先着100名様の方は敷島製パン(株)のパンが試食できます。レタス食べ放題！パンやサンドイッチの具材を持ち寄って、お越しく下さい。

## 7月25日 地域リハビリテーション学コース

人生100年時代に向けて、大学には社会人向けのリカレント教育が期待されている。本学では、100を超える公開講座に加え、履修証明プログラム「地域リハビリテーション学コース」を開設している。

今回、第6期の応募をしていたところ、定員30名を上回る35名の応募があった。国の支援を受けて立ち上げてきたが、その支援が終了すると、大学で収支を管理して継続していかなければならない。内容に魅力があってこそ、応募者があって継続が可能となる。総合リハビリテーション学研究科の教員はもちろん、学外の専門家、学内の経済学研究科・人間社会システム科学研究科・



看護学研究科など他の部局も協力してプログラムが構成されている。関係者の努力・協力によるところが大きい。

このプログラムでは、e-learning の講義があり、次回から私も一回分担当させてもらうことになった。収録は8月になってからだが、先日、その録画スタジオ（写真）を見学し、また、過去の事例を見せてもらった。暑い日が続くがしっかり準備をしようと思う。

7月26日 松井知事のご講演：8月9日（木）13時～

6月21日に予定していた松井一郎大阪府知事の関西経済論でのご講演。18日にあった地震のため、予定を変更していた。日程調整をお願いしていたところ、次で「2025年万博を大阪・関西へ」と題してお話し頂けることになった。中百舌鳥キャンパスUホール、関西経済論を受講していなくてもOK（学生も含め、誰でも）。



7月27日 校友会メルマガアーカイブ

先日スカイツリーに上った。意外と訪問者が少なく、すぐ上がることができた。改めて驚く巨大なアンテナだ。

大学の活動を広報したり、大学に対する期待を広聴したりするため、小さくてもいいので、多くのアンテナを持ちたいと思う。卒業生に情報発信している一つは、メルマガだ。アーカイブはWebで観ることもできる。

初代の発信者は「モズオ」さん。今は「なみはやみ」さんをお願いしている。この姉妹誌として、学内向けの「全員広報宣言ニュース」も配信を始めた。広報の仕方のうまい事例もどんどん共有してほしい。

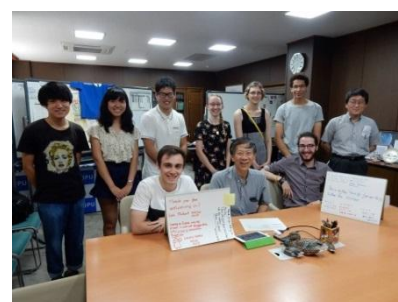


7月28日 フランスからの交換留学生と懇談（26日）

大阪府とフランスのヴァルドワーズ県は姉妹協定を結んでいる。その関係で、同県のセルジーポントワーズ大学や EISTI（情報）、ENSEA（電気）、SUPMECA（機械）、EBI（バイオエンジニアリング）などの大学院大学と交換留学の実績が多い。

今年 EISTI からは、3名が工学研究科、3名が人間社会システム科学研究科で4か月来日しており、そのうち5名が、交流責任者の吉岡教授、府大生チューターと一緒に来てくれた。彼らは希望者多数の中から選抜された学生だ。

二人は富士山に登っていたほか、それぞれ研究室活動、課外活動を楽しんでいるようだ。メッセージボードにコメントを書いてももらったあと、記念撮影を行った。何人かは、ダブルデグリー取得のため、再度一年来るといふ。府大生も逆にどんどんヴァルドワーズ県に出かけてほしい。フランス語の勉強でもいいし、専門の勉強でもいい。短期でもいいし、彼らに会い観光するのもいい。願わくば、ダブルデグリーに挑戦してくれるとなおいい。





## 7月29日 当面の主な予定

暑い日が連日続く。まもなく学生は夏休み。大学院入試のある学生もいる。

- 7月30日 法人評価委員会@大阪赤十字会館、31日 来客（神奈川工大）
- ・ 8月1日 新規採用職員辞令交付&懇談、7日 記者懇談会@I-site なんば
- 8日 トビタテ9期生、翔け4期生懇談
- 9日 地域保健学域2回生講義@羽曳野、松井一郎特別講演@Uホール
- 10日 学長顕彰、優秀教職員表彰式典、府原子炉問題審議会@府庁
- 23日 来客（ビジネスフロンティア高）、24日 来客（泰日工業大学）
- 27日 科研費セミナー、30日 学会基調講演@インドネシア@バリ島
- 31日 インドネシア留学生同窓会@バリ島

## 7月30日 演台の府大ロゴ

一年前にドイツのフンボルト大学で招待講演をする機会をもらった。そのとき演台に大学のロゴと名称があり、「これだ!」と思った。広報経由で、生産技術センターの協力を得て（三次元プリンターで制作）、順次整備してもらってきたが、新たに次の4か所に整備された。

- ・りんくうキャンパスホール
- ・羽曳野キャンパス講堂（写真）
- ・I-site なんば（各室共通備品の演台）
- ・中百舌鳥サイエンスホール

これで次と合わせて9か所になる。

- ・Uホールの司会台と演台
- ・A11棟3F大会議室
- ・I-wing なかもず
- ・学術交流会館多目的ホール

整備されてしまうと特別の景色ではないが、少しでも広報していきたいという気持ちからできたことを知っておいてほしい。

## 7月31日 【募集】「平成30年7月豪雨」災害ボランティア（第2回）

去る15日、大阪市大と一緒に日帰りの災害ボランティアを募集して、行ってもらった。定期試験もほぼ終わるので、今回、一泊二日で、志願する大学生、大学院生を募集する。

担当は、ボランティア・市民活動センター。7日夕刻に事前研修あり。今回の活動は、大阪市立大学及び県立広島大学と共同で実施する。応募方法他概要は以下。

[日程] 8月9日（木）7:00 ～ 10日（金）

[集合・解散場所] 中百舌鳥キャンパス

[現地までの交通手段] 貸切バスで往復

[宿泊場所] 県立広島大学・広島キャンパス ※キャンパス内の和室での寝袋宿泊を予定（男女別）

[活動場所]（予定） 広島県三原市内

[活動内容] 被災家屋の家具搬出、泥かき、泥出し、洗浄作業等

[参加費] 600円（災害特例型ボランティア保険代金として）

[持ち物] 汚れてもいい作業着、着替え、帽子、タオル、雨具、両手が使えるカバン

（リュック等）、飲み物、1日目の昼食、洗面具、寝袋、保険証のコピー

※ 作業時に必要な装備品（長靴（踏み抜き防止インソール付き）、ゴーグル、防塵マスク、作業用軍手及び寝袋については、大学より貸与可能。



8月1日 辞令交付

8月1日付で新たに6名の方を職員として採用した。

---訓示-----

ようこそ、公立大学法人大阪府立大学へ。大阪市立大学との法人統合をはじめ、大量の業務が山積している中、優秀でモチベーションの高い6名の方を新たにお迎えでき、大変心強く思っています。法人を代表して皆様を歓迎するとともに、三つのお願いをしたいと思います。

一つ目は、大学の理念と大切にしている視点を覚えておいていただきたいと思います。すでに面接試験の時に準備してご存知かもしれませんが、本学は「高度研究型大学―世界に翔く地域の信頼拠点」を基本理念とし、多様・融合・国際という三つの視点を大切にしています。ご存知ですか？これから何度も何度も目や耳にするとしますので、入職した職場の理念・大切な視点として覚えておいていただきたいと願っています。一緒にこの理念・大切にしている視点について「どうアクションすべきか」を語ってほしいと思います。(翔くは、飛翔の「翔」と書きますが、正確には「はばたく」とは読みませんので、配属されたらパソコンに用語登録してください)

二つ目は皆さんにも府大の広報・広聴のアンテナになって頂きたいということです。残念ながら府大の知名度はその実力に比べとても低いのが実情です。学生はじめ社会からの要望を聞ききれていないと感じています。全員広報宣言といって広報課だけでなく、教職員全員が大阪府立大学の歴史(過去)も現在も今後の計画も知り、組織としての活動、教職員だけでなく卒業生・在学生含めた活動を共有し、府大のプレゼンスを向上するようお願いいたします。私も府大のアンテナの一つでありたいという想いで、名札にシールをつけたり facebook で私たちの優れた点や卓越さを毎日情報発信したりしています。皆様にもお願いします。

最後の三つ目は同期でよく情報交換をしてほしいと思います。今年度4月に入職された方もいます。今年度採用の教員も多数います。職場に配属になると、その部署のことしかわからなくなってしまうがちです。職場の間で仕事の押し付け合いがあったり、仕事のヌケが起こったりしがちです。いろいろな横のつながりがあれば、こういう課題を解決できると思っています、その仕組みを工夫しています。同期というのは強力な仕組みであり、願わくば職員という枠を超えて同期の教員とも相談できるようにしてください。

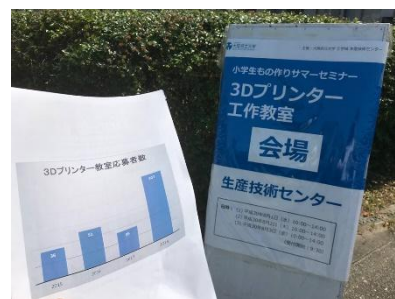
以上三つのお願いをもって皆様の今後の活躍を期して、私の挨拶と代えさせていただきます。

8月2日 サマーラボ「3Dプリンタ教室」

生産技術センターに行ったら子どもの声がする。保護者と一緒に小学生が3Dプリンタを使って楽しそうに学習していた。

大阪市立大学と従来個別に開催していたいろいろな小中学生向け体験学習プログラムを、両大学でまとめて広報して参加を求めてきた。「地域における次世代人材育成」の一つであり、夏休み期間を活用し、児童生徒の知的好奇心と将来の進路選択に資するためのものだ。

1-3日は、本学の生産技術センターが企画した3Dプリンタ教室。過去(無料)で36人、51人、35人の応募だったのが、有料にしたにもかかわらず応募者は107人に増えた。大阪府内だけでなく、明石、西宮、京都、奈良などからも応募があった。



抽選に漏れた方には申し訳ないが、参加した生徒には楽しい思い出と今後の夢の素にしてほしい。

#### 8月3日 大学統合の議案の件

知事・市長の定例記者会見があり、9月議会で「22年度を目途とする新大学の実現に向け努力する」と明記した議案を出すという方向がなされている。これに伴い、メディア報道もなされているが、両大学がどう考えているかについては示されないようだ。

この中期目標の素案については、5月10日付け両大学に意見聴取されていて、大学の公式ページにもアップしている。これを受けて両大学では、6月29日付けで回答をしている。

我々の意見には、大きく3つあって

- (1) 財政支援について
- (2) キャンパス構想について
- (3) 新大学設置スケジュールについて

である。意見について、最後に次のようにまとめている。

「両法人といたしましては、前述しました財政支援の実現もあわせ、最終的な新大学のキャンパスとそれぞれの機能(教育研究組織)、さらにその実現へ向けた段階的プラン が明確になり、受験生に新大学の教育内容等を十分に理解してもらえる期間も確保しつつ、魅力ある新大学の開学にふさわしい新共通教育(基幹教育)棟の完成並びに既存キャンパスの一部と都心キャンパスからなる全体のキャンパス整備計画が確定したことをもって新大学の開学時期を位置づけるべきと考えます。」

このように、両大学は「新大学の開学には一定の条件を満たすべきである」と公開していることを改めてこの場でも伝えておきたい。我々は、府市に中期目標の素案に対する両大学の意見を適切に配慮するように求めている。



#### 8月4日 灼熱対策

2日、3日と来客もなかったのを靴を含め、カジュアル着で勤務した。楽だ。やめれなくなりそう。

キャンパスの日陰を選びながら、帽子をかぶり、サングラスをし、ペットボトルと塩キャンディを持参して歩いていると「どうしたんですか?」と何回も聞かれる。ちょうどC10棟で1Fから5Fに引っ越ししている部署があったので、「引っ越し手伝いに来ました」というと、ダンボールを示された。

当面全学会議がないので、公式にはアナウンスしないが、学内では、ビジネスカジュアルを超えて、スーパーカジュアルで勤務し、少しでも体への負担を軽減するよう工夫してほしい。

#### 8月5日 ゴールとプロセス

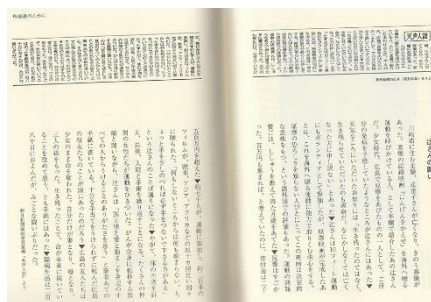
本日から全国高校野球選手権大会が始まった。100回目の記念大会だ。過去の名勝負を見て懐かしく思う。

さて、それぞれのチームは目標をもってこの大会に臨んでいるはずだ。予選を突破して甲子園出場を目指した学校もあれば、打倒〇〇を目指した学校もあろう。それぞれの目標を達成するために

何をすべきかを考え、スケジュールを立て、いくつかのマイルストーンを設定し、進捗を管理しているだろう。

このような大会で、仮に複数校が優勝を目標にしても一つのチームしか達成できない。運不運も間違いなくある。だから、私は目標を設定するにせよ、それを達成するかどうかは重要視したくない。むしろ、それに向かってどういうプロセスを経たのか、誰がいつまでに何をしなければならぬかを共有し、その進捗をモニタリングし、問題があればそれを解決していくというプロセスが大切だと思う。

ゴールとプロセスは不可分ではなく、プロセス管理なしでゴールを議論しないように注意したい。



### 8月6日 理性による核廃絶の願い

8月6日は原爆忌だ。ことしで73回目になる。私の母親が広島市の郊外で被爆しているのです、私は被爆2世。子供の頃から、(ここではとても書けないような)原子爆弾の恐ろしさ(悲惨さ)を何回も聞いて育った。

母は女学校に通っていて、当日、夏休みにもかかわらず学校をあげて、市中心部の軍需工場の応援に行くことになっていたが、たまたま病欠して郊外の自宅にいた。そのため、友人は皆亡くなったにもかかわらず、一人だけ生き残らせたと感じていたようだ。(そのとき病気にならず工場に行っていたら、私は生まれていなかった)

戦後、日本の科学者は第二次世界大戦で大きな反省をしている。理系文系に関係なく、軍事研究をしてしまった反省だ。多くの研究は平和利用もできれば軍事利用もできるデュアルユースであることは否定できない。奥の深い課題であるが、一度戦争が起これば、どれだけ悲惨なことになるかは、経験したものにはわからないのかもしれない。少し考えれば、少し調べれば、経験していなくてもわかるはずなのに。ここ数年、こんな印象をもっている。

恐怖による核抑止ではなく、理性による核廃絶を。広島市長の演説だ。自国第一主義への危惧も指摘されている。かみしめたい。(添付は許可を得て転載)

### 8月7日 オープンキャンパス@獣医学類

3日~5日にかけて、3つのキャンパスでオープンキャンパスがあった。暑い中、多数の方に来ていただけてよかった。

5日にりんくうキャンパスであった学類紹介では、ビデオメッセージを送った。写真からわかるように満員だったという。私のメッセージは以下。

-----

みなさん、こんにちは。

大阪府立大学獣医学類のオープンキャンパスによろこそ。折角の機会ですので、教員や学生にどんどん質問して少しでも本学のことを知っていただければと思います。

さて、本学は、その基礎を獣医学講習所として135年前を



出発点としています。獣医学類は、本学の基となった伝統あるところです。多くの卒業生が水族館や動物園を含む幅広い臨床の最先端の現場、国の研究所や自治体など公共機関、製薬会社・食品会社をはじめとする民間会社の研究所で活躍しています。決して、「獣医学類を卒業すると小動物の臨床医になる」とだけ考えるのではなく、いろいろな選択肢があることを覚えておいてください。

大学院には海外からの留学生も多く、本学の学生も長期あるいは短期に留学しています。最先端の獣医学を学ぼうとすると英語は不可欠です。大学は海外で研究成果を発表しようという学生や海外で勉強しようという学生を応援しています。今から英会話力をしっかり身につけ、「入学後には必ず海外に出かけて視野を広げる」という強い意志を持って受験してください。

本学は、総合大学です。総合大学で工学や看護学をはじめいろいろな専門を選択する学生と在学中にクラブ活動や大学祭を通してネットワークを構築することができます。「入学後は、幅広い友人をつくり、異分野の人と共同で仕事をするのだ」という意思も持ってほしいと願っています。そのためにコミュニケーション力も今からつけておいてほしいと思います。

獣医学のような専門資格を取得する学問分野で学ぶには、強い意志が必要です。「誰かに薦められたから」とか「偏差値的に合格レベルにあるから」という理由ではなく、獣医学を極めたいと自ら決意し、困難があっても目標に向かっていくという強い覚悟をもって進学を判断してほしいと思います。

最後になりますが、これからの勉強がはかどり来年の春に入学式でお会いできることを楽しみにしています。本日はご来校ありがとうございました。

8月8日 お天道様は見ているか？

中百舌鳥キャンパスには、ゆうちょ銀行のATMがあり、大学関係者だけでなく、来校された市民の方も利用される。先日、そこが汚れていて見苦しいという苦情が来た。

調べてもらおうと どうも インスタント焼きそばに お湯を入れたまま ATM の脇に置いたものが 落下して そのまま 放置したようだ。容器と麺が散乱しているものだから とても 印象が悪い。単に 紙屑が落ちていたというレベルではない。

落としたのは 本学の学生だろうか。授業が近づいていて 後で 掃除をしようとして 忘れてしまったのだろうか。後から入った人は 大学職員に届けることが できなかったのだろうか。教職員はこの間、誰も 使わなかったのだろうか。e キャンパスとして ゴールドレートも頂いているのに少し残念だ。

8月9日 優秀教職員表彰@高専(8日)

大学の優秀教職員表彰を10日に予定しているが、それに先んじて8日(水)高専の教員4名の方に感謝を込めて表彰した。

杉浦公彦先生は、平成29年度の外部資金獲得がトップだった。高専は大学に比べ教育の比重が高いが、それにもかかわらず、国際交流、研究でも多大な成果をあげられており、今後ともご活躍を期待している。





福嶋茂信先生は、長年、情報ネットワークの管理、情報セキュリティ事業にご尽力いただいた。今、高専の教職員の方が快適に IT を使えているのは先生のおかげだと聞いている。

北野健一先生は、ティーチング・ポートフォリオ研究会の代表として、これまでの研究会の活動により教育の質が向上したことで表彰した。昨今 質保証という言葉で表現されているが、教育の改善には PDCA を回していくことが大切であり、今後も活発な研究会が続くよう、メンバーの皆様をお願いしたい。



最後の吉田大輔先生は、第4回のブックショートアワード対象を受賞されたことによる。私も先生の作品を読ませていただいた。

「名前って二つ以上の鐘の音」という作品であり、次のページの作品タイトルをクリックすると全文を読める。入江巽が吉田先生のペンネームだ。

-----授賞理由-----

第4回を迎えたブックショートアワードでは、入江巽さんの『名前って、ふたつ以上の鐘の音』が頂点に輝きました。『名前って、ふたつ以上の鐘の音』の主人公田中コンドーム・ジュリアンは、自身の名前によって生きづらさを感じています。原因はどうかであれ、＜自分にはどうしようもない事情のせいで、他人には言えないコンプレックスや劣等感を抱えながら生きていかざるを得ない＞状況は、古今東西、多くの人間が直面する苦悩であると言えるでしょう。そんな主人公が、＜同じ悩みを持ちながらも明るく強く生きる友人、そして女性と出会い、交流することで、世の中にたいして心を開いていく＞というストーリーは、大きな共感を呼び起こします。元ネタとなった坂口安吾の『ラムネ氏のこと』、そしてスタンダールの『赤と黒』のエッセンスをうまく取り入れながら、人間の普遍的な感情を鋭く描いた本作は、今回の受賞作としてもっともふさわしい作品でした。なお、受賞者の入江巽さんは、第1回ブックショートアワード以来、毎年すべての応募作品が最終候補に選出されており、このたび4回目で初めての栄冠を手に入れました。

8月9日

灼熱のこの時期に一泊二日で参加して下さった皆様のことを誇りに思うとともに感謝します。また、宿泊場所の提供だけでなく、種々ご配慮いただいた県立広島大学の中村学長はじめ皆様には大変お世話になりました。



別途お礼を申し上げるつもりですが、取り急ぎこの場にて。参加される皆様、明日もよろしくお祈いします。

8月10日 ジョイント・サマー・プログラム

この数年、次の国際交流プログラムをアジアの大学と実現できないかと考えていた。

- (1) 府大の先生と海外の先生が協力して夏休みを利用して教育する
- (2) (学年に関係なく) 学士課程の低学年も専門に関係なく参加できる

(3) 語学研修ではなくて、グループワークを英語で行う

(4) 教員だけでなく、職員も渡航して参画する

この夢がとうとう実現した。教員と職員が一緒になって、台南大学（台湾）と教員・職員とスカイプで相談するなどほぼ一年かけてプログラムを作ってくれた。

日程が先方の都合もあり、お盆休みにかかってしまったので、参加者が集まるか心配したが、B1が4名、B2が2名、B4が2名、M2が1名、Dが2名と多様な学生が参加してくれた。事前研修として、日本文化について考える動機づけを西田正宏先生が特別講義してくれた。

このプログラムが本日から、台南市でスタートした。早速、歓迎会の写真がアップされた。双方の学生、双方の教職員にとって実り多きこと、来年以降も続くこと、他の大学とも交流が広がることを期待したい。準備して下さったすべての関係者に感謝する。



#### 8月11日 トビタテ！留学 JAPAN 関係者との懇談

8日（水）すでに留学を終えたお二人とこれから出かけるお二人が話をしに来てくれた。

理学系研究科の片山未来さんは、英国のカーディフ大学に三か月留学を終えている。現地でのサイエンスカフェがすごく活発で驚いたそうだ。知財に興味を持っているということでその関係で就職するという。工学研究科の大林由弥さんは、ドイツの人工知能研究所（DFKI）に半年留学を終えている。多国籍の研究者の間で、各研究者が（指示の下ではなく）自律的に仕事を進めているのに刺激を受けたそうだ。就職後はデータサイエンティストとして活躍してくれるだろう。

理学系研究科の青木絢子さんは、10月からカナダのトロント大学の付属病院に留学するという。2年生に国際交流プログラムのマレーシア工科大学に短期留学したことが海外へ出る動機になったという。ぜひナイアガラも訪問してほしい（彼女は、塾で事務のバイトをしているということで、府大 PR グッズを一式お渡しし、広報を手伝うようお願いした）。獣医学類の淡中崇徳さんは、本学独自の「翔け FUDAI!海外留学」のプログラムでベルギーのリエージュ大学にやはり10月から留学する。「狩りから考える野生動物の将来と自分の将来」というテーマでハンターに同行して共生社会について視野を深めることだろう。

4人にメッセージを書いてもらうようお願いしたところ、快くスラスラと書いてくれた。研究指導されてきた先生方、書面審査や面接審査を指導してきた教職員ならびにトビタテ留学！Japan採択の経験者に感謝する。また、応募者がさらに増えることを願っている。

#### 8月12日 学長顕彰&教職員表彰

10日（金）、外部団体から著名な賞を受賞した教員に学長顕彰を行った。また、同時に法人業務で顕著な業績をあげた教職員を表彰した。

学長顕彰の対象者は53名。その中から、岩村雅一先生（工学）、原田直樹先生（生命環境）、飯田琢也先生（理学系）、山本由美子先生（人社システム）に記念講演をしていただいた。



教職員顕彰の対象は個人 21 名、団体 2。こちらは非常勤の方を含め、法人の全教職員を対象としている。表彰する時期は随時であるが、昨年度からは学長顕彰にあわせて推薦を募ることにより漏れがないように工夫した。表彰内容は、広報露出、外部資金獲得、国際交流、業務改善など多岐にわたる。

それぞれの方の貢献を相互に認め合い、互いに研鑽していく「(大阪府立大学) 風」土が大切だ。認めあう場を、学長顕彰&教職員表彰だけでなく、これら以外にもいろいろつくりたい。

## 8月13日 地域リハビリテーション学 講義収録

総合リハビリテーション学研究科が中心になって、進めている履修プログラム。他の研究科の先生方も協力して、e-learning コンテンツを収録していると聞いて、私も話をさせてもらった。灼熱の9日に撮影、エアコンを入れると雑音が入ってしまうというので、服装をどうしようかと迷ったが、履修生が見る季節は分からないので、ネクタイ着用にした。カメラ目線になるべきところを、手元の資料をみてしまった。また、NG を何回か出してしまった。お世話いただいたプロジェクト教員の中田伊知子先生のおかげで何とかできあがった。



## 8月14日 全国高専大会壮行会 8日@高専

近畿大会で優秀な成績をあげたことにより、次の高専生とチームが全国大会に出場することになった。

剣道部 2名、陸上競技部 1名、水泳部 2名  
ハンドボール部 (近畿で優勝)



たまたま、高専に出張していたため、東健司校長の激励の挨拶に続いて私も話をさせてもらった。そういえば、以前「バスケットボール部に関して、大学のチームと合同練習して教えてもらえないだろうか」という話を聞いていた。法人内での大学と高専の連携候補はこのようなところにもある。

## 8月15日 第7回記者懇談会

年に2度、記者の方に来ていただいて、情報提供したり、質問を受けたり、意見を頂いたりしている。この会を7日(火)にI-site なんばで実施した。

今回は、「これからの期待分野！府大の”創薬科学”」。創薬に関する大学の役割、薬を創るまでのステージと取り組む分野、実績と今後などについて次の先生方にトークショースタイルで話してもらった。(敬称略)

山手丈至 (獣医病理学) \*ファシリテーター  
藤井郁夫 (ケミカルバイオロジー)  
乾 隆 (生体高分子化学)  
中瀬生彦 (薬物送達、細胞制御工学)





井上忠弘（URA センター）

さらに、ビデオにて切畑光統特認教授の BNCT 向けホウ素薬剤の研究について紹介した。

アカデミア創薬として打って出るために、製薬企業との情報共有できるよう、12月4日に東京でシンポジウムを開催することになっている。

#### 8月16日 地域保健学域2回生に講義@羽曳野

この学域では、看護学類と総合リハビリテーション学類が羽曳野キャンパスで学び、教育福祉学類が中百舌鳥キャンパスで学ぶので、学域共通の科目を実施するのがなかなか難しい。そのため、4月のガイダンス時に二日間、8月の定期試験後に二日間集中で行っている。「人間支援科学論」で、春も夏も混成グループワークをして、問題解決能力を養っている。前学長の奥野先生が、これからの地域包括ケアのためには、看護職、リハビリテーション職、福祉職の連携が不可欠で同じ学域にして、ネットワークを作ってほしいという強い願いをもっておられた。一科目だけでは不十分ではあろうが、何とかグループワークを通してお互いを知り合ってもらいたい。

9日、この講義の一部として「システム思考で学びの拡がり」と題した話をさせてもらった。同じような内容を経済学研究科の社会人学生や高専の1年生に話したりしているが、はじめてこの学域の学生に話をしたので、いろいろ反省事項があった。

羽曳野キャンパス内の学域を超えた交流に関しては、学生サークル Pontoon（舟橋）が多職種連携・共同、学習環境の改善、キャリアデザインの構築を3つの柱として活動している。大学も少しでもこの活動を応援できるよう相談していく。

#### 8月17日 松井一郎知事特別講演 9日@Uホール

「2025年万博を大阪・関西へ」と題して、松井知事に講演を頂いた。元々、公開講座「関西経済論」の一つとして6月に企画していたものが、大阪北部地震の対策のためペンディングになっていたものだ。以前の万博は国威発揚や殖産興業だったが、21世紀に入り、地球的課題と人類存続の持続的な発展がテーマの中心となっている。



#### 8月18日 優秀教職員表彰10日（大学分）

以前、優秀教職員表彰は随時行うことにしていたが、昨年からは学長顕彰に時期をあわせて推薦を募集することで、モレがないように工夫している（今でも随時推薦可能）。

今年度で印象深いものは、佐保美奈子先生（看護学）のセクシャリティ教育プログラムと笹井和美先生（獣医学）の海遊館との交流協定が広く報道されたこと。藤原哲さんの「さくらサイエンスプラン」採択に向けたガイドラインは多くの教員が参照にした。大瀬修司さんは羽曳野キャンパス空調の適切な運用に貢献。



このページでも何度か触れた5月から6月にかけての米国 ERAU との交流プログラムの構築・実施には井野真由美さん、能勢加奈子さん、上須加須子



さん、大塚善弘さんが尽力してくれた。女性研究者支援センターは「憲法記念日知事表彰」を受彰しており、団体表彰であったが、代表として、巽真理子先生にお渡しした。

外部資金トップ10は次の先生方：石原一先生、黄瀬浩一先生、金野泰幸先生、辰巳砂昌弘先生、藤井郁雄先生、林晃敏先生、藤枝伸宇先生、切畑光統先生、秋田成司先生、秋山康紀先生。

日ごろのご尽力に感謝しつつ、ここでお名前を記させていただきました。

8月19日 当面の予定： いよいよ科研費応募の時期になってきた。まずは27日にセミナー。

8月23日 ビジネスフロンティア校教頭&卒業生面会

24日 さくらサイエンスプラン「泰日工業大学」面会

27日 科研費セミナー@学术交流会館

30日 基調講演&インドネシア同窓会@バリ島

9月1日 白鳥会（看護系同窓会）@ホテルグランピア大阪

2日 永守賞授賞式典@京都ホテルオオクラ

4日 新法人設立準備会議@あべの

5日 公大協近畿地区協議会@滋賀県立大学

6日 理科展作品審査@ソフィア堺



8月20日 2018年度の科研費の結果

研究推進課が採択状況を取りまとえてくれた。9月の会議で詳細に報告が予定されているが、概要は以下の通り。

応募件数：513件（対前年比104%）、採択件数：103件（同97%）

採択率：20.1%（同▲2.1%）、獲得金額：1,336百万円（同136%）

なお、常勤教員631名中408名が応募可能者であり、応募者が292名（応募率71.6%）。昨年採択が激減した基盤研究Bの採択数が例年並みに戻り、若手研究の採択率が継続して高かった。

一方で、基盤研究A,B,Cの採択率がいずれも全国平均を下回った。また、前年度応募が可能な対象者が27名いたのに、4件しか応募していなかった。このあたりは反省材料だ。

データはそろったので、各研究科、各専攻で分析し、次のアクションを考えてほしい。

8月21日 科研費セミナー（27日）に参加を！

正式には、「科研費審査改革、採択される申請書〈計画調書〉の書き方と研究公正推進に関するセミナー」。例年参加者の評判は高い。

今回のセミナーでは、科研費改革の内容や改革後の審査方式について、科研費改革や改革後の審査に関わっておられた日本学術振興会の永原裕子先生を講師としてお招きしてご講演をいただく。また、実例に基づく事例紹介を吉田篤正先生、宮脇幸生先生、中山美由紀先生、小西康裕先生にお願いすることになっている。この先生方は、採択実績が多いだけでなく、審査委員経験もおもちだ。さらに、知的財産関連、女性研究者支援プログラム、研究公正の推進についても理解を深める機会になると思う。ぜひ出席してほしい。

記

1. 日時 8月27日(月) 14:00~17:30

## 2. 場 所 なかもずキャンパス 学術交流会館 多目的ホール

《遠隔中継》羽曳野キャンパス(B201)、りんくうキャンパス (A103)、高専教職員ラウンジ

### 8月22日 科研費調書の閲覧

金足農校、準優勝おめでとうございます。校歌を歌う姿がとても印象的でした。

堺市にいる皆さんは熱中症に注意を！

さて、科研費の申請・採択が少しでも増えるように、採択された課題の計画調書の閲覧を可能としている。基盤研究だけでなく、挑戦的研究の採択課題もある。この場にて、閲覧許可をくださった研究代表者のみなさまに、厚くお礼申し上げます。コピー・写真撮影不可。パソコン等でメモを取っていただくことは可。

これは全学での取り組みであるが、各専攻・分野では採択調書の相互参照や勉強会に取り組んでほしい。きっと新たな気づきがあるはずだ。

#### 記

#### 1. 閲覧場所及び時間

なかもずキャンパス 研究推進課 (C10 棟 5 階 : 9~17 時半)

羽曳野キャンパス 研究科長室 (事前予約要)

りんくうキャンパス 事務所 (10~17 時)

高専 総務課

#### 2. 閲覧申込み連絡先 研究推進課 科研費担当

### 8月23日 科研費前年度応募の勧め

大型の台風 20 号が近づいている。本日は、私の研究室で ずっと以前に 科目等履修生で一年間研修された高校の先生 (現在教頭) と旧交を温める予定 (飲みに行く) だったが、キャンセルにした。また、さくらサイエンスプランでタイから関空に向かって来日する予定だが、予定通り来れるのか気になっている。

さて、科研費には、数年前から、前年度応募という制度がある。全国での前年度応募の採択率は、37.2%と、とても高い。

----- 継続中の研究課題で、当初の研究期間が 4 年以上の特別推進研究、基盤研究 (基盤研究 (B・C) 応募区分「特設分野研究」を除く。) 又は 若手研究の研究課題のうち 研究期間が 3 年以上のものである場合には、研究計画最終年度前年度に新たな研究課題の応募ができます。ただし、若手研究の研究課題を基に新たに 応募することができる研究種目は、3 年の研究課題か、4 年の研究課題かにより異なり、……。なお、応募した研究課題が 採択されなかった場合には、継続研究課題の 最終年度の 研究計画を 行うことができます。-----

昨年度のデータをみてももらったところ、27 名の資格者がいて、この制度を使われたのは 4 件のみだった。今年は、事務にお願ひし、事前に対象者を抽出し、制度紹介と採択率が高いことを個別に説明することになっている。該当者はぜひ応募してほしい。

#### ▼ 最高気温~15時

堺 39.7°C 京都 福知山 39.5°C 兵庫 豊岡 39.1°C  
大阪 豊中 38.8°C 京都 宮津 38.8°C 京都 舞鶴 38.3°C  
大阪 枚方 38.1°C 京都 38.0°C 兵庫 西脇 38.0°C  
大阪 八尾空港 37.9°C 京都 京丹後丹後 37.9°C



## 8月24日 科研費勉強会

強烈な台風でしたが、皆様、被害はなかったでしょうか。秋に来る台風の場合、それが過ぎると涼しくなりますが、本日は暑さが厳しいようです。塩分を補給して過ごしています。

さて、職員の研修の一環として、国の機関に長期間出向してもらうことがある。研究推進課の刈谷有希主査には、日本学術振興会で2年間科研費業務に携わって、この4月に帰任している。

いろいろな場で彼に話をしてもらうようにしているが、研究科や専攻でもそういう場をつくってもらえないだろうか？羽曳野キャンパスでは、7月20日、31日、8月2日の三回実施していて、34人の参加を得た。知っているつもりでいても、(裏)話を聞くと新たな気づきがあるはずだ。特に申請経験の少ない教員を何名か集めて、刈谷さんらに話してもらうという場をもうけ、そこで、採択調書の共有なども職場ごとに進めてほしい。



## 8月25日 科研費の学内メを例年より2週間先延ばしに

昨日(24日)、来年度からの新法人「公立大学法人大阪」の理事長が発表になった。西澤良記先生(前大阪市立大学長)だ。なかなか発表がなかったのが、準備が遅れないか心配していたので、この発表で一步前進。

さて、ここ数日続けている科研費の話。科研費の申請には期日がある。機関として大学が提出する前に、事務的なチェックを要すために、これまで教員には前倒しの締め切りをお願いしてきた。

しかし、なかなかこの学内締め切りは守られていない。いろいろな理由があるのだろう。今回、教員が計画を推敲する時間を確保できるように思い切って2週間先延ばしすることになった。

事務チェックの時間が短くなるので、チェック項目を簡素化するとともに事務チェック不要と申請者に指示してもらうことも可とした。

科研費については、

- (1) より大型の申請に向かうようにSTEP UP事業
- (2) 希望者にURAが調書をチェック
- (3) 科研費セミナーの参加者増加、(4) 採択された調書の閲覧の活性化
- (5) 前年度応募の勧め、(6) 公募要領説明会
- (7) 個別勉強会の開催、
- (8) 昨年度応募・採択のデータ分析

など全学で取り組んでいるが、各部局でもその特徴にあった取組をしてほしい。高度研究型大学として。

## 府市大学統合法人理事長に西澤氏

08月24日 17時54分



大阪府と大阪市は、来年4月に運営法人を統合する大阪府立大学と大阪市立大学の新しい法人の理事長に、大阪市立大学の前学長の西澤良記氏を起用することを決めました。

大阪府立大学と大阪市立大学は、将来的な統合を視野に大学運営を一本化するため、来年4月に、それぞれの大学を運営している法人を統合することを決めています。



## 8月26日 科研費セミナー

アジア大会、男子マラソン井上選手の金メダル、女子マラソンの野上選手の銀メダルおめでとうございます。他の競技でもいろいろなドラマ。

さて、いよいよ明日（27日）が科研費セミナー。配布資料の準備の都合上などで事前に申し込みをお願いしているが、当日直接参加でもOK。

大阪市大はじめ府の研究機関にも声をかけたところ、これまでに次の申し込みがあった。会場が満員になり、準備しているチームが慌てるぐらいになればいいなあと思います。講演して下さる皆さま、準備して下さっている皆さま、ありがとうございます。

・府大教員：94名、大阪市大：15名、産技研：27名、環農水研：10名

1. 日時 8月27日(月) 14:00~17:30

2. 場所 なかもずキャンパス 学術交流会館 多目的ホール

《遠隔中継》羽曳野キャンパス(B201)、りんくうキャンパス (A103)、高専教職員ラウンジ

## 8月27日 泰日工業大学の学生と面会（24日）

さくらサイエンスプランで、現代システム科学域の佐賀亮介准教授がタイの若手教員と学生を招へいた。巨大台風が来た23日に来日するというので、予定通りフライトが到着するか心配したが、台風上陸寸前に間に合ったようだ。



同大学からは、すでに長期インターンシップで二名、交換留学で一名府大にいて、一緒に会いに来てくれた（写真上）。今回来日した学生は公式の制服を着用して。多くの学生が府大への交換留学や博士課程進学希望を表明してくれた。

同大学には、府大から昨年長期の交換留学をしているほか、現在二名が同大学のサマープログラムに参加している。多数の教職員の努力で、ここまでの関係が築けたのだと思う。

思い出してみると、11年の12月に同大学に行き、集中講義をした。府大からは三人目だったと思う。皆と一緒に記念撮影をしてくれた。以来、同大学とは、組織レベルでいろいろな交流ができています。

## 8月28日 スタンディング会議の環境を整備

会議時間の短縮とコピー量の削減を目指して、スタンディング会議を試行している。立って会議するとやはり時間は短くなる。テーブルを小さくしておくともコピー量は減る。

資料が必要な場合は、小さな 프로젝タを三脚で支えて投影できるようにした（古い型なので明度が不足）。既に多くの民間会社や役所で定着してきていると聞く。うまいやり方を学び、従来の業務の仕方をかえていくという姿勢を発信していきたい。





8月29日 六研スタイル(9)

このシリーズの投稿は少し間隔があいてしまった。

私が研究室をもっていたころは、六番目の研究室ということで、ロッケンと呼ばれていた。六研スタイルとして種々工夫していたことを紹介してきたが、その一つが学生の自己点検。次のことを行ってもらっていた。マイルストーンとして使ってほしいとも思っていた。昔のことだし、専門分野が違えば、参考になるかどうかは分からない。

-----研究室に配属になった学生さんへの心構え-----

(1) 研究を進める上では、常に技術習得を行いながら進めなければならない。単に先生に指示されたことだけを行っていたのでは十分ではなく、自己啓発に励むとともに自ら積極的に何をどうすればよいかを考えて欲しい。研究意欲に関し、先生、先輩、同僚、後輩からどう評価されていると思うか？語学の習得についてはどうか？

十分、普通、不十分

4回生前半

4回生後半

修士1回生

修士2回生

博士課程



(2) 研究室運営には泥臭い雑作業が多くあり、それを他のメンバと協力して行ってほしい。場合により、ゼミ日程、役割分担をはじめ研究のアプローチに関しても自分の希望・意見が通らない場合もある。協調性に関し、先生、先輩、同僚、後輩からどう評価されていると思うか？

(3) 自分の役割分担については徹底した責任をもち、期日は厳守し、研究のまとめにはいい加減な妥協をしないことが大切である。割り当てられている役割に対する責任感に関し、先生、先輩、同僚、後輩からどう評価されていると思うか？

(4) 創造力についてどのレベルにあるか？卒業時にどのレベルに到達するか？10年後にどのレベルに到達するか？

- ・内外で注目・引用されるようなシステム、理論、技法を創造できる
- ・従来のシステム、理論、技法に「新しい考え方」をとり入れて、新分野への拡張を図り、新問題の解決を具体化できる
- ・従来のシステム、理論、技法に既存の技術を応用してシステムの部分開発、ソフトウェア開発ができる
- ・先生、先輩の具体的指示の元にプログラミングができる

(5) 技術力についてどのレベルにあるか？卒業時にどのレベルに到達するか？10年後にどのレベルに到達するか？

- ・先生・先輩からも質問され、それを調査したり、回答したりできる技術の一つ以上持っている。
- ・後輩から試験問題の解答方法などについて質問され、それにたいして回答するだけの力もっている。
- ・技術についてひたすら学んでいる段階である。

(6) 表現力・発表力についてどのレベルにあるか？卒業時にどのレベルに到達するか？10年後にどのレベルに到達するか？

- ・英文論文をタイムリーにまとめ、表現は論旨明快である。
- ・表現はたまに論理性に欠けることがある
- ・発表はまだ稚拙である
- ・表現・発表する力はない

(7) 計画力についてどのレベルにあるか？卒業時にどのレベルに到達するか？10年後にどのレベルに到達するか？

- ・長期的な展望の下に効率的に計画を立案している
- ・卒業までの目標をクリアにもって、計画を立案し、それに従って研究を進めている
- ・先生や先輩のたてた計画に基づき、能率よく研究を進めている
- ・目先のことに追われ計画をたてる力はない、あるいは計画倒ればかりである

(8) 折衝力についてどのレベルにあるか？卒業時にどのレベルに到達するか？10年後にどのレベルに到達するか？

- ・学外の人、研究室外の人にも研究の諸段階で意見を聞き、研究環境を整備することができる。
- ・研究室内部で研究室全体の効率が上がるように積極的に調整を行って、研究環境を改善することができる
- ・他人に対して、調整したり、説得したりできる段階にない

(9) 問題発見・形成能力についてどのレベルにあるか？卒業時にどのレベルに到達するか？10年後にどのレベルに到達するか？

- ・過去への洞察、未来への見通しから何に取り組むべきかを的確に判断し、それを具体的なテーマとして設定できる
- ・具体的な研究のなかから、次に取り組むべき問題を発見し、それを分析し、具体的なテーマを形成することができる
- ・先生や先輩と研究する中で、研究のヒントの発見の仕方を学んでいる
- ・具体的な研究は、すべて先生・先輩の具体的指示の下に行っている

(10) 指導力についてどのレベルにあるか？卒業時にどのレベルに到達するか？10年後にどのレベルに到達するか？

- ・後輩の研究テーマ・内容にも言及し積極的に指導を行っている
- ・後輩から質問を受けることがあり、それに対する的確なアドバイスを行うことができる
- ・まだ、他人からリードされる立場である。

8月30日 医大の一律女性減点のニュースを聞いて

少し前の話になってしまったが、私立の医大の受験生で「女性が一律減点になっている」というニュースを聞いた。その理由はいろいろ取りざたされているが、「出産、育児などでハード勤務に耐えられないから」と聞いて、ふと、本学の研究時間の実態調査との関係で心配になった。



教職員の人数が以前に比べてかなり減っているのに、負担が大きくなっているのは承知している。その解消にいろいろ工夫をしているが、まだ、一ヶ月あたりの時間外・休日労働が長時間を超える人がかなりいる。健康障害防止のためにも勤務実態を把握し、このような勤務がなくなるよう繰り返し発言をしているが、研究においては仕事と自己啓発の区分が明確でなく、裁量労働という制度についてもまだまだ理解が進んでいない。

私が心配したのは、この理解が進まないと、本学で、教員を公募したときに「女性は一律減点」になりかねないということだ。そんなことはないと思っているが、教員には、勤務時間に対する意識改革が急務だ。勤務実績報告書を見る限り、「府大は女性に優しくない労働環境だ」と言われても仕方がない数値が出ている。

8月31日 元インドネシアからの留学生に面会  
本学には 少なくとも インドネシアから 33 人の留学生がいた。そのうちの三人とバリ島で面会した。いずれも 15 年ぐらい前に府大で学位を取得し、今は母国で教鞭をとられている。色々なお話しをお聞きし 刺激を受けた。特に 一人のお子様は高校生で米国ユタに留学中、お一人のお子様は日本の大学に留学中で日本での就職を希望、もうお一人のお子様は獣医を目指して受験勉強中という。



来月末 大阪市立大のインドネシア同窓会がジャカルタであるそうで、荒川学長が出席されると聞いたので、本学の留学生 OB にもそこへ参加できないか相談している。大阪に留学した卒業生のネットワークを大阪大学コンソーシアムで作る気持ちで。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



## 9月1日 Pakuan University of Bogor と国際交流協定調印

パクアン大学というのはインドネシアの私立大学。本学を卒業され同大学で教鞭をとられている Diana Widiastuti 先生のお世話で今回交流協定の締結に至った。本学としてインドネシアの8つ目の協定校となる。

調印式は、バリ島で開催された国際会議の開会式の後の特別イベントとして執り行われ、100人を超える方がおられ、私がこれまでに署名したセレモニーの中では最大だった。

## 9月2日 久々の学会講演@バリ（30日）



招待してもらったので、Why should we study basic algorithm for solving practical problems? と題して、話をした。参加者のバックグラウンドやレベルが分からないし、私自身最新の研究をフォローしきれていないので、どういう話をするか迷った。もし、我々が金槌しか持っていなければ釘を探すことしかしない。そして、その釘を金槌でたたくことしか考えられなくなる。しかし、いろいろな道具を持っていれば、どんな問題に出くわしても正しい道具を選ぶことができる。だから、基本的なことを幅広くしっかり勉強しておくべきだ。というようなことを私の三つの経験談（実際は時間の関係で一つしか話せなかった）をもとに話そうとしたが、何分、私の英語なのでうまく伝わったかどうかは分からない。参加された皆さんとも記念撮影。

## 9月3日 白鳥会創設20周年おめでとうございます！

9月1日、ホテルグランヴィア大阪で、看護学系同窓会の総会と特別講演があった。大学院生を入れるとすでに3000人近い会員がおられるようだ。

当日朝、帰国した便が少し遅れたのと強雨で楽しみにしていたシミケンさんの特別講演には参加できなかった（サインをしてもらって著書を購入した）が、懇親会には参加させてもらった。お子様連れの方が多く、また退職された先生方も特別会員として参加されており、陵友会の同窓会、斐文会の同窓会とは全く違う雰囲気だ。同窓会にも多様性がある。

## 9月4日 永守賞授賞式典@京都

台風は皆さん大丈夫だったのでしょうか。大学は安全のために休校にしました。終日、自宅に待機していましたが、停電になり改めて電気のありがたみを感じました。

さて、2日に京都ホテルオークラで盛大に開催された式典に出席した。第4回。モーターのトップ企業である日本電産を長年にわたって率いて見えた永守重信会長からは、(1)EVへの道でモーターが必要になる(2)ロボットの普及でモーターは不可欠(3)家電に元々モーターが活躍していたが知的になるうえでさらに高度化(4)ドローンの登場でモーター需要が増える。一方で、モーターを教える大学が少なく、人材不足という指摘があった。

モーター研究者(かなり広くとらえておられる)を支援するのが永守賞。実績に対する賞6件(一件は大賞)と期待できるテーマに取り組む若手研究者に対する研究助成。本学では工学研究科の井上征則准教授が3年目の研究助成を受けることが発表された。

永守会長は、賞だけでは世の中のニーズに追いつかないという思いで、この4月から自ら京都学園大学の理事長に就任され、2020年を目途にモーター工学部(当初定員200名)の準備をされている。確かにずっとモーターの研究の人気は低落方向で会ったが、この5年ぐらいで様相は一変しているように思う。技術の先行きではなく、世の中の発展をみる眼力がいる。



## 9月5日 台風をお見舞いと大学の様子

台風21号の被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。私も自宅が停電になり、夜明けまで暗い中で過ごしました。大学に対しては、海外を含む多数の方からご心配の問合せを受けました。ご心配頂いたことにこの場を借りてお礼申し上げます。

大学関係では、今のところ大きな人的被害は報告を受けていません。海外研修を予定されていた学生さんが関空で足止めになったと聞いています。不安と疲労を感じられたことだとお見舞い申し上げます。

関空が大きな被害にあっているので、現在出張中の皆様には帰国空港の変更などご苦勞をされると思います。これから出国を予定されていた方も多数おられると思います。さらには海外の来客を迎える予定だった方もおられるでしょう(私も5日に台湾の方、6日にカンボジアの方と面会する予定でしたがいずれもキャンセルになりました)。よく情報を集めて対応をお願いします。

さて、大学ですが、中百舌鳥キャンパスについて樹木の倒壊が多数発生しました。幸い建物と平行に倒れるケースが大半で窓ガラスの破損は少なかった模様です。被害の全貌についてはいま調査中です。他のキャンパスについても同様に樹木の倒壊があったようです。

対応について、反省すべきは反省し、今後の糧にしていこうと思います。

## 9月6日 昨年度の国別教員出張数

どの国にどの程度の数の教員が出かけているかを調べてもらった。全件で56か国679件。上位4か国で全体の50%、上位23か国で全体の90%を占めている。やはり、米国・中国が多い。東南アジアを合計すると112件。

部局別の数値も出してもらっている。工学研究科が 307 件と圧倒的に多い。経年変化を見たり、延べ数だけでなく、重複をカウントしない数値を見たりするとより情報量が増えるが、まずはこの数値を見て、それぞれの立場で何かを気づきを得てほしい。

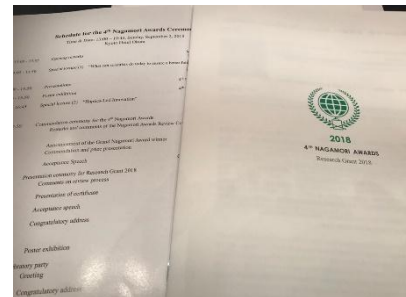
2017年度 教職員 海外出張先 国別			
国	件数	累計	
1	アメリカ	121	0.178203
2	中国	90	0.310751
3	タイ	47	0.379971
4	韓国	41	0.440353
5	台湾	40	0.499264
6	ドイツ	33	0.547865
7	カンボジア	26	0.586156
8	フランス	23	0.620029
9	スペイン	21	0.650857
10	ベトナム	21	0.681685
11	イタリア	19	0.709667
12	イギリス	18	0.736377
13	オーストラリア	16	0.759841
14	ポルトガル	14	0.78056
15	インド	13	0.799705
16	シンガポール	13	0.818851
17	カナダ	10	0.833579
18	スウェーデン	8	0.845361
19	インドネシア	7	0.85567
20	オランダ	7	0.865979
21	ギリシャ	7	0.876289
22	オーストリア	6	0.885125
23	ノルウェー	6	0.893962

### 9月7日 北海道の地震で被害を受けられた方にお見舞い

昨日未明に北海道で震度7の地震が起こった。先日の台風21号の爪痕も消えないうちに相次ぐ災害で改めて自然の強さと怖さを感じる。この季節、北海道で学会があったり、旅行で出かけている教職員、学生がいる。また、北海道出身の学生もいる。関係する事務部門で安否を確認してもらっている。北海道にいる各位には、余震に注意して行動してほしい。

学生については次の報告が来ている。幸い怪我の情報が入っていない。災害が起こったら、安否を共有する。自助・共助・公助の順番を理解する。このあたりを定着させたい。

- ・北海道に実家のある学生
  - 対象者：23名、確認済：10名（全員無事）
  - 確認がとれない：13名（うち震度5強1名、震度5弱1名）
- ・北海道で合宿中の学生 サイクリング部2名（全員無事）
- ・北海道で実習・学会等に参加中
  - 生命環境科学域（獣医・実習）1名（無事）
  - 生命環境科学研究科（学会）3名（全員無事）
  - 工学研究科・学域（学会）5名（全員無事）



### 9月8日 永守賞表彰式典特別講演から

先日、この式典に列席した旨を書いた。ここでは特別講演が2件あった。

松本紘先生：百年後の社会のために科学ができること

大西公平先生：ハプティクスがもたらす技術革新

どちらの講演も面白く素晴らしかった。松本先生の講演の中に1901年に100年後の技術進歩（予想）を掲載した新聞記事の紹介があった。獣語通訳、蚤蚊の絶滅、鉄管による宅配などはずれたものもあるが、府大の自慢の植物工場やBNCTに関連することも予想されている。

今社会のリーダーに求められることは、100年後を創造する力と仮に認めよう。そうすると、100年後を考えて、50年後、20年後、5年後と戻るか、逆に5年後、20年後、50年後そして100年後は如何にと考えるか、二つのアプローチがあるが、いずれにせよ、過去を知ること、歴史を知ること、文化を知ることなしには、こういう力は養えないと思う。

### 9月9日 当面の予定

大坂なおみさんグランドスラム制覇おめでとう。全世界に难道「オオサカ」という言葉が発せられたら。あやかって大阪が有名になっているであろうことも嬉しい。さて、



- 9月11日 第3回新法人設立準備会議@府庁
- 16日 堺市学校理科展表彰式@ソフィア堺
- 20日 (仮) 公大協近畿地区協議会@滋賀県立大学
- 21日 ラオス国家大学訪問者、泰日工業大学インターンシップ生修了式
- 26日 秋季学域授与式@多目的ホール
- 27日 府大講座修了式@東大教室、 28日 秋季入学式
- 10月1日 辞令交付式、 8-9日 公大協学長会議@静岡県立大学
- 19日 全学一斉防災避難訓練
- 23日 パラナ・カトリック司教大学(ブラジル) 来訪者(さくらサイエンスプラン)
- 24日 第6回TT-net(テニユアトラック教員) ワークショップ@学术交流会館
- 27-28日 杏樹祭@羽曳野キャンパス
- 11月1日 ヴァルドワーズ県代表団来学@調整中
- 2日 キープロジェクト報告会@サイエンスホール
- 3日 府大卒経営者交流会、 4日 ホームカミングデー
- 5日 人間ドック、 10日 京都賞授与式典@京都国際会議場
- 14日 九工大経営協議会

#### 9月10日 天災と報道

昨日のテレビ番組で谷口真由美・大阪国際大学准教授が「全報道機関が同じところの取材をしているのではないか。分担していろいろなところを取材し報道すべきではないか」という発言をされていた。今回、台風21号と北海道の地震、先日の西日本豪雨を振り返ってそのように思う。

この発言に対して報道機関の方が「どうしても被害の大きいところの取材に集中する。今後の課題だ」と言われていたが、そのようにぜひ考えてほしい。

今回、自宅が24時間停電になり、その間、ネットニュースしか見れなかったが、被災した方々の欲しい情報は多様なはずにもかかわらず、同じようなニュースだったので、まさに「わが意を得たり」という発言だった。

#### 9月11日 バランス・スコア・カード

組織を経営する目標計画立案の手法にバランス・スコア・カードというのがある。1990年代前半にハーバードビジネススクールで研究されていたと記憶する。私は、1990年代後半にはじめてその存在を知り、少しばかり勉強したことがある。

私が印象に残っているのは、利益(財務)だけ追求するのではなく、顧客の視点、業務プロセスの(負担など)視点、人材育成の視点をもち、そのバランスをもって計画を立てることだ。4つの一つの評価軸をあげようと思うと別の評価軸にも影響を与える。その相互関係を押さえておくことが求められる。

この考え方は企業だけでなく、大学の計画にも当てはまると以前から直観的に思っていた。いくつかの大学でも導入を試みられていることを聞いていた。最近旧知の公立山口東京理科大学の森田廣学長から取り組まれている事例をお聞きしたので、本学でも検討をお願いした。



いずれも利用できない。そのため、街づくりの全体構想の中での大学の長期的な計画の策定が府市から求められている。魅力ある案を両大学で作っていく。法人統合までは後 200 日。

### 9月14日 大阪城東部地区（森ノ宮）の現状（3）

UR 森之宮第 2 団地の屋上から、市が所有している土地を視察した。南西から西北、そして東北へとカメラを動かした。

長い屋根がメトロの検車場。その北（右手）が、もと森之宮工場（ごみ焼却工場）。最後にうつる空き地がもと工場立替計画用地。この三か所を含め、周辺全体が街づくり計画に基づいて開発される（大学だけに使われるわけではない）。とはいえ、かなり先のことだ。活用時期は、「未定」とされている。

ここ数か月、マスコミ報道などで、いろいろな方から「大学が統合したら、どの程度の規模で森之宮へ移転するのか」とか聞かれることが多かった。府市から現状を聞いていて「すぐには難しそうだ」と言いつつ、正式に資料を出してもらえなかったので、明確に言えなかった。

このような状況に対し、11 日の新法人設立準備会議で、現状を示す資料を出して頂き、現地を視察することで、（2022 年に大学が統合になっても直ちに森之宮にキャンパスも本部もサテライトオフィスも何ももつことができないことが）明確になった。

一方、府市からは、両大学に対して、森ノ宮地区を含め将来構想案を示すよう依頼があった。今後は、府市との議論を深めることができるように

- （1）森ノ宮を使えない前提で、新大学設立時の教育体制をどうするか
  - （2）中長期的に森ノ宮を使う場合の将来構想をどうするか
- を一定程度、両大学執行部で詰めて、各部局と相談していく。

### 9月15日 科研費配分額(2017年度)

科学研究費について、機関別に採択件数、配分額、女性比率、若手比率などが文科省のホームページで発表されている。一般に医学部がある大学、医科大学は、順位が高い。

大阪市立大学と比べると、従来、採択件数では市大が上位、配分額では府大が上位であった（つまり、本学のほうが一件当たりの獲得額が大きい）が、昨年度は、両方府大が下になった。このあたりは担当部署にて詳細に分析している。本学の外部競争資金の獲得が教員数の削減とともに低下傾向にあるのは、数年前から気になっていて、いくつかの手を既に打っている。

概況で把握しておきたいのは、配分額で両大学とも 30 位から 35 位の間。合計すれば 15 位から 20 位の間。研究型大学として運営していくうえでは、20 位内に入っておきたいものだ。そのように考えている。

### 9月16日 堺市学校理科展

昭和 24 年に始まったという展覧会（つまり第 70 回）。今年度は 20,031 点の作品が学校に提出され、そのうち 779 件が理科展に出品された。19 日はその優秀作品表彰式と研究発表会。本学は後援者の一つであり、私は学長賞の授与と発表に対する講評を担当した。



学長賞は、牛乳原料・豆乳原料プラスチックの研究。事前に生命環境科学研究科の山口夕先生と作品を審査し内定していた。これだけ多数の出品から選定する難しさを想像してほしい。

表彰式では、優秀賞の中から、3件の発表があった。小学校低学年の部では、「とべ!ほくのくるくるヘリコプター3：たんぼぼヘリコプター大改造へん」で、3年間同じテーマで実験研究した発展発表。小学校高学年の部では「シロアリ」って本当にこわい虫?」で、シロアリは森林の枯れ木を土に戻す役目も担っているという調査研究。中学校の部では「貝〜この一年の成果とまとめ〜」。昨年から一年がかりで大量

のデータを比較調査している。いずれも起承転結がうまくまとめられ、感情も込められたとてもよい発表だった。私からは、  
 (1) 富士山のように裾野が広い(出品が多い)からこそ立派な研究が選抜され発表されているので、関係者へのご尽力、ご指導に敬意を表した。

(2) 他人の発表を多く見て、3点程度自分がよいと思った作品を選び、なぜそれがよいか理由を考えることで今後の参考にするようお願いした。

(3) 当日、女性大学院生チーム IRIS、高専 ROSE が展示しているコーナーにぜひ訪問し、理科(今回は色がテーマ)の面白さを知るようお誘いした。



9月17日 台風による倒木被害

先日の台風21号で樹木に大きな被害を受けた。まだ、精査してもらっている最中だが、たちまち、通行に支障のあるものは切断して廃棄に回している。中百舌鳥キャンパスだけで60本前後が倒れ、40本前後に枝折れがあり剪定を要すようだ。



倒木による人への被害はなかったが、窓ガラスが破損したり、排水路が詰まったり、副作用の被害も多い。ありがたいことに海外の交流協定校の学長や交流担当者から多くのお見舞いのメッセージを頂いた。とても個別には紹介しきれないが、特に台湾から多くのお見舞いを頂いたことをここに残しておく。

9月18日 昨年度の法人評価結果

地独法に基づき、大学を運営する法人は毎年、評価委員会によって評価を受ける。先月評価結果が決定され、公開されている。

法人は、外部有識者の経営会議委員の意見を聴きながら、6年の中期計画を満すために、年度ごとに計画を立てる。これはある意味、府から予算を頂くための見積書だ。そして、一年の活動を年度報告書として提出する。これがある意味、頂いた予算に対する納品書だ。このアナロジーで言うと、発表された評価結果とは、納品に対する検収書と思えばいい。

評価項目	評価	非営利法人・福祉機関
経営方針の 実現性	特長と個性、挑戦しつづける姿勢	「教育の発展の推進」の理念を掲げ、その理念に基づき、教育・研究・社会貢献を推進し、社会に貢献している。また、教育・研究・社会貢献を推進し、社会に貢献している。また、教育・研究・社会貢献を推進し、社会に貢献している。
	経営方針の達成度	経営方針の達成度が高い。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。
経営方針の 実現性	経営方針の達成度	経営方針の達成度が低い。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。
	経営方針の達成度	経営方針の達成度が低い。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。
経営方針の 実現性	経営方針の達成度	経営方針の達成度が低い。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。
	経営方針の達成度	経営方針の達成度が低い。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。
経営方針の 実現性	経営方針の達成度	経営方針の達成度が低い。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。
	経営方針の達成度	経営方針の達成度が低い。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。また、経営方針の達成度を高めるための取り組みを行っている。

「PDCAを回せ」を法律で縛られている。大量の資料を作成し関連する会議があるので、「評価疲れ」という言葉があるが、よりよい大学にするために、形式的な作業ではなく、改善という内容を意識し続ける経営が求められている。

9月19日 Generate and Test

最近、Deep Learning という深層学習の研究成果で人工知能の応用領域が広がっている。第三世代の人工知能と言われている。私が人工知能の勉強をしたときは第二世代でその中の手法に Generate and Test という手法があった。

これは、簡単に言うといろいろな案を作り (Generate)、複数の評価基準を満たすかどうか調べ (Test)、よくないものを枝刈りして削除することにより課題を解決するものだ。もちろんソフトウェアとしてこの手続きを実装する。

専門家の能力を模擬することで考案された計算機科学の古典的な手法だが、この手法を理解しておく、日頃の意思決定の議論のときにも役立つ。今の立場になると、よくそう感じる。

全体	5位→3位	大阪市立大学	2019	大阪府立大学と法人統合予定
男子	5位→3位			
文系	8位→7位			
理系	3位→1位	同志社女子大学	2022	大阪府立大学と大学統合予定
全体	22位→18位			
女子	13位→8位			
文系	21位→19位	同志社女子大学	2015	看護学部看護学科設置
理系	27位→18位			
全体	11位→10位		大阪府立大学	2019
男子	12位→10位			
文系	25位→17位			
理系	6位→5位	兵庫県立大学	2022	大阪市立大学と大学統合予定
男子	16位→14位			
理系	15位→11位		2019	経済学部・経営学部を改組→国際系

9月20日 リクルート社のブランド調査

知名度(関西エリア)				
全体				
順位	学校名	区分	知名度 (%)	
1 (1)	近畿大学	私	89.9	
2 (2)	関西大学	私	89.8	
3 (3)	同志社大学	私	88.6	
4 (4)	立命館大学	私	86.4	
5 (5)	京都大学	国	82.5	
6 (10)	東京大学	国	80.8	
7 (7)	神戸大学	国	80.0	
8 (6)	大阪大学	国	78.4	
9 (11)	龍谷大学	私	77.5	
10 (8)	早稲田大学	私	76.4	
11 (9)	関西学院大学	私	73.3	
12 (14)	明治大学	私	71.1	
13 (17)	慶應義塾大学	私	70.7	
14 (13)	青山学院大学	私	69.5	
15 (18)	甲南大学	私	67.0	
16 (15)	大阪府立大学	公	66.7	
17 (20)	関西外国語大学	私	65.2	
18 (12)	同志社女子大学	私	65.1	
19 (16)	上智大学	私	64.8	
20 (19)	大阪市立大学	公	62.8	

先日、高校生に調査「進学ブランド力調査」の結果が発表された。ネットで公開されている細版は手元にある。

画像の最初が知名度だ広報で頑張る余地あ文理別の関西エリアで(大阪市立大学が関西理系でトップ)、最後が上昇した大学の近年のの抜粋。

このようなランキングで一喜一憂するわけではないが、何かの気づきをするようにしたい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

9月21日 本日は国際平和の日

広島生まれで被爆2世の私は、平和というキーワードが気になる。高校生時代のベトナム戦争、就職してしばらくしたころのカンボジアの内戦(ポルポトのトラウマ)。日本の高度経済発展は朝鮮戦争の勃発に大きかったということ。多くの研究はデュアルユースとい

文系					理系				
順位	学校名	区分	主観度 (%)		順位	学校名	区分	主観度 (%)	
1 (1)	関西大学	私	18.6	1 (3)	大阪市立大学	公	14.4		
2 (2)	近畿大学	私	14.1	2 (2)	神戸大学	国	14.1		
3 (4)	関西学院大学	私	12.7	3 (4)	近畿大学	私	14.0		
4 (3)	同志社大学	私	11.9	4 (1)	大阪大学	国	13.6		
5 (5)	立命館大学	私	9.3	5 (6)	大阪府立大学	公	9.9		
6 (7)	龍谷大学	私	7.5	6 (5)	関西大学	私	9.1		
7 (6)	大阪市立大学	公	6.9	7 (6)	同志社大学	私	5.8		
8 (9)	神戸大学	国	6.5	8 (7)	京都大学	国	5.7		
9 (11)	甲南大学	私	5.6	9 (10)	立命館大学	私	5.6		
10 (6)	関西外国語大学	私	5.1	10 (9)	京都工芸繊維大学	国	5.1		
11 (12)	京都産業大学	私	4.6	11 (15)	兵庫県立大学	公	4.6		
12 (10)	大阪大学	国	4.5	12 (16)	龍谷大学	私	3.5		
13 (16)	徳島大学	私	3.4	13 (13)	大阪教育大学	国	3.4		
14 (17)	大阪経済大学	私	3.2	13 (11)	大阪工業大学	私	3.4		
15 (15)	和歌山大学	国	3.0	15 (12)	和歌山大学	国	3.3		
16 (14)	兵庫県立大学	公	2.9	16 (13)	関西学院大学	私	3.2		
17 (20)	大阪教育大学	国	2.7	17 (41)	京都産業大学	私	2.6		
17 (28)	大阪府立大学	公	2.7	18 (31)	大阪医科大学	私	2.6		
18 (18)	京都外国語大学	私	2.6	18 (22)	京都府立大学	公	2.6		
19 (21)	同志社女子大学	私	2.6	18 (28)	京都薬科大学	私	2.6		
				18 (27)	同志社女子大学	私	2.6		

しているの今年度抜粋版があるが、詳細(まだま)、次がの志願度エリアの「順位が主な動き」

って平和利用を想定していても軍事利用されているという事実。インターネットは元々軍事研究の成果であることなどなど。

国連総会で1981年に、9月21日は国際平和の日として制定されているという。2002年からは「世界停戦と非暴力の日」となっている。誰もが戦争のない世の中を望んでいるはずだが、問題は簡単ではない。だからこそ、誰もがたまには平和について考えることが求められる。9月21日はそのために用意されている。

注) 国際平和の日のことは、本学の学生に教えてもらった。彼はこの日を「素敵な日」として、多くの人に知ってほしいと願っている。

#### 9月22日 ラオス国家大学の教員・学生と面談

さくらサイエンスプランを用いて、現代システム科学域のマネジメント学類が中心となって招へいたラオスの先生と学生たち。台風21号の影響で関空の利用が制限されている中、無事に到着して、交流を進めている。

その終盤に学長室に立ち寄ってくれた。週末は、I-siteで学習するほか、名古屋の自動車メーカーの博物館見学に出かけるイベントが残っているが、一足早く修了証をお渡しし、記念撮影。2週間後には、放射線研究センターの先生方が同大学の別のグループを招へいする。私も一度ラオスを訪問してみたいと思う。

#### 9月23日 米国大学生一ヶ月受け入れのその後

5月から6月にかけて一ヶ月にわたって、米国のエンドリーリドル航空大学の学生15名を(教員でもなく国際交流担当でもない)職員主導で受け入れ、府大からは多くの学生がバディとして参加した。バディの活動は、次の2件が報告されている。

●日本とアメリカの文化の違いを、日本にいながら感じる事ができた／ ERAU バディプログラム参加者 中村元寛さん

●貴重な体験で、関わったみんながハッピーになれた！／ ERAU バディプログラム参加者 松山力生さん

また、ERAUの方でも筒井先生が以下のウェブサイトが公開されている。お互いが、Influencerになり Influencee になることを期待している。いい意味で影響を与え、影響を受ける者ということだ。「来年どうしようか。今後どうしようか」という作戦会議を始めている。学生が、教員が、職員が、みんなで作る教育プログラムであってほしい。

#### 9月24日 学位記授与式(26日)と入学式(28日)

夏休みが終わりに近づいている。今週は、秋季の学位記授与式と入学式。

従来、秋の授与式は博士号のみ全学で授与していた。修士号、学士号には、研究科・学域ごとに授与していたのを、今年は博士前期課程、学士課程を修了した方を含め、全学で同じ式で授与する。今年は、博士19名、修士7名、学士13名が対象になる。

一方、入学式は、留学生が多いことから一昨年から英語で行っているが、正規留学生のみを対象としていた。多くの交換留学生在秋に来学するので、彼らにも参加を呼びかけ、より賑やかなセレ



モニターにする。今秋新たに交換留学として来日する学生は、中国 6 名、フランス 5 名、台湾 4 名、韓国 2 名、ノルウェー 2 名、スイス・メキシコ 1 名の計 21 名。

今年から、どちらの式の式次第にも、交流協定を締結している大学の所在する国の国旗を印刷して配布する。

#### 9月25日 泰日工業大学留学生支援事業

タイにある泰日工業大学の留学生を4月～9月に大学（工学域）で受け入れ、大学生だけでなく高専生と交流する機会を設けたり、何よりも地元の企業でインターンシップする事業を行ってきた。これまで、2014年から、3名、4名、2名、4名、2名と合計15名受入れ、今年4月までに、そのうちの4名がインターンシップ受入先企業に就職して活躍している。



この事業は、堺市産業振興局、堺商工会議所のご協力や日本語講座講師を務めてくださっている国際交流クラブ KoKoC の方の指導によって進めてきた。長年のご協力・ご指導に感謝するが、5年経ったので一区切りする。先週、21日にインターンシッププログラム発表会・修了式があり、二人の留学生が流ちょうな日本語で発表を行った。インターンシップ先の会社（三翠社様とマルエス様）での KAIZEN 提案を行ったようだ。

地域貢献と国際交流をつなぐことが大切だ。「世界とつながる地域連携」であり「地域とつながる国際交流」でありたい。この事業はこのスローガンを呼び起こしたものだ。

#### 9月26日 障がい者スポーツ・ボッチャのテレビ放送

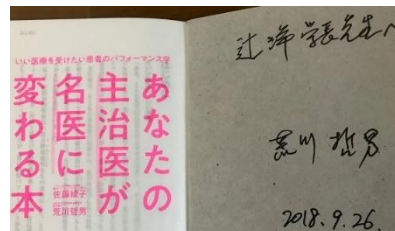
リオパラリンピックで銀メダルを獲得し、2020 東京でも活躍を期待されている「火の玉 JAPAN」。この夏、イギリスで世界選手権があったが、その模様が2時間にわたりテレビ放送された（韓国、中国との接戦に勝利し銀メダル）。登場した廣瀬選手、杉村選手は府大に来て、銀メダルを触らせてくれた方だ。



この競技は、総合リハビリテーション研究科長の奥田邦晴教授が協会の代表理事として指導されていて、私を含め、府大の教職員・学生が公式審判員になっている（昨年日本選手権ではタイムキーパーを経験した）。羽曳野キャンパスにはクラブもある。学長記者懇談会、春の花（さくら）まつりや首都大戦でもこの競技を紹介してきたが、ついにテレビ放送されるようになった。多くの方に府大がサポートしている障がい者スポーツが認知されることは嬉しいことだ。

#### 9月27日 あなたの主治医が名医になる本

荒川哲男大阪市立大学学長から、件名の著書を頂いた。ハリウッド大学院大学教授の佐藤綾子先生との共著で、マキノ出版から発行される。先生のサインもして頂いた。



面白いのは、医師の分類を「医療の実力」と「人柄・人当たり」で行っているところ。思わず「確かにそうだ」「なるほど、そうだったのか」の連続。患者としてどう医師に向き合うかが学べる。

公開講座「府大講座」の修了式（約 250 名が参加）があったので、この本を紹介した。役員・副学長回覧が終わり次第「辻待ち来ブラリ」に置く予定だ。

9月28日 学位記授与式@学術交流会館（26日）

-----少し長くなるが、当日の式辞-----

本日、学位記を受け取られた39名の皆さん（博士19名、修士7名、学士13名）、ご卒業・ご修了 おめでとうございます。また、学位取得に向けて 指導をしてこられた先生方、ご出席いただいているご家族の方にもお祝いの言葉を述べさせていただきます。おめでとうございます。

この数か月、大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号などで大学、そして関係者の一部の方は大きな被害を受けましたが、皆さまは お変わりありませんでしたでしょうか。この場を借りて、被災された皆様、ご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、春の学位記授与式では、Uホール白鷺において三回に分けて合計2000人近くのかたに学位を授与しているのに対し、これまで秋の学位記授与式では、小さな会議室で博士後期課程・博士課程修了の方にだけに授与し、そのほかの博士前期課程、学士課程の方には部局ごとに授与していました。秋期入学・秋期修了がもっとこれから増えることを期待しつつ、今回からは、全課程について全学揃って式をあげることにいたしました（まだまだ小さい式ですね。夢は秋もUホールで式を持つことです）。

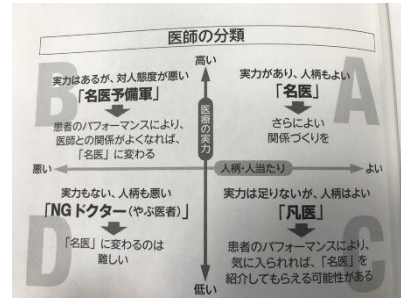
今回新しくした点が もう一つ あります。お手元にある式次第を見て頂きたいのですが、国際交流協定を締結している大学が所在する国の国旗を印刷しています。これは、皆さんも我々も大阪だけを意識するのではなく、日本だけを意識するのでもなく、「常に世界を意識してほしい」という思いから行ったものです。

さて、皆さんの大学生活は満足のいくものだったでしょうか。

新しいことをたくさん学び、新しい友人を多数つくることができたでしょうか。皆さんが大学に入った時は何を目標にされていたでしょうか。その目標は 概ね 達成できたでしょうか。

私は1972年に大学に入学しています。東京オリンピックの8年後、大阪万博の2年後です。学生運動が下火にはなっていましたが、休講は多いし、大半の講義があまりに理論的で実践では使えないように感じられ、受験勉強の反動だったのか、マーじゃんやパチンコにもかなり時間を費やしてしまいました。数学の教師になろうか（なりたくないじゃないんですね）と思っていたのですが、まわりの友人に比べ 大学での数学が分からず断念し、目標をある意味失っていました。中学・高校時代に比べるとあまり生涯の友人をつくれなかったように思います。

ただ、今になって思えば、大学生時代に、単なる知識ではなく いろいろな発想法を学んでいます。一つは「多目的最適化」という考え方です。カーナビでいうと、「最短時間でいくか」「最安価格でいくか」というように目的によって 解が違うということです。当たり前のことですが、これ



が強く頭に残っていて、常に問題に対し、複数の評価軸を考え、複数の案を比較できるようになったと思います。

「振動（揺れですね）」ということも学びました。ものごとには揺れが多くて、一方に振れていてもいずれ他方に振れることや、強く振りすぎると戻らないことなど、自然現象だけでなく社会現象の揺れも考えることができるようになりました。状況を見て制御するフィードバックという考え方も知りました。

他にも「しなやかにしたたかに」ということを恩師が言われていて、「いやなことがあってもうまくやり過ごし、その陰でこっそりと次のことに備える」という考え方を得ました。

つまり、大学では知識そのものだけではなく、知識をもとに問題への向かい方、解決のための手順や方法論を学びました。卒業後に就職して、難しい問題、対応に苦慮した問題に出くわす都度そのように思います。卒業当時は、「自分が何を学び、どのように成長したのか」がなかなか分からなかったのですが、いろいろな経験をして、今では、「大学での学びは高校までの学びと全く違って」と大学での学びに感謝しています。

皆さんがこれから出会う問題の多くは過去にあった問題ではなく、新しい問題でしょう。ですので、学んだ知識だけをそのまま利用しても解決できません。皆さんは必ずや大阪府立大学で大阪府立大学の教員あるいは友人から「問題に対して取り組む姿勢」を学んだはずで、今、「そうではない」と思うかもしれませんが、本日、学位記を授与するという事は、「皆さんがそういう力を得た（ある意味ライセンスです）」と確信しているからです。

今日という日に、改めて皆さんの大学生活を振り返って自己総括してください：「満足のいくものだったか、それほどでもなかったか」。そして、数年後、数十年後、新しい問題に出くわしてそれを見事に解決できた時に、「大阪府立大学の学びが皆さんの礎（いしずえ）として役に立ったかどうか」を評価してください。そのとき「難題を超えられたのは、大阪府立大学での学びが役に立った」と思える時が来ることを信じてください。そのような機会があれば、「大阪府立大学の教育は成功していた」ということでしょうし、逆に皆さんが生涯一度もそのように感じられなかったならば、「大阪府立大学の教育には不足があった（失敗していた）」ということになるでしょう。

長期的な宿題をだしてしまいましたが、以上で、私の式辞とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

2018年9月26日 大阪府立大学 学長 辻 洋





## 9月29日 勤務時間帯と裁量

大手広告業界やメディア関係の会社での裁量労働して過労死の問題がここ数年大きな話題となっている。先週は、大手電機メーカーで裁量労働制を廃止するという発表が報道された。

大学でも特に研究型大学は授業や入試など時間配分に裁量の余地のない業務以外に一人一人の都合で決めてよい研究の時間があり、それが50%を超えている。なので、裁量労働制を導入するのが、研究者にとっていいことだと思う。

一方で、裁量労働制=同じ賃金でどれだけ働いてもいい(働かせてもいい?)という風に考えがちだ。そうではなくて、勤務時間帯を裁量で決めていいということだ。深夜早朝・休日は別にして、朝早く勤務しても午後から勤務してもいい。ある日の時間数を短くして別の日に長く勤務してもいい。このことは何度も学内の方々に話してきている。勤務時間総数が一定の中で「いつ勤務するか」の配分の裁量を認めている。大学経営は企業経営と違って勤務時間を長くすればそれに応じて収入(利益)が増えるということではなく、総予算の中で、人件費や研究費・教育費などを配分している。なので、勤務総時間が統制されることなく増えると経営は成り立たない。

一方で、研究者には「もっと実験したい」「もっと調査をしたい」「明日までに原稿の締め切りがある」という声があるのもよくわかる。しかし、裁量労働制を実施する場合には、勤務実態(時間数と時間帯)をしっかりと把握することが法律的にも求められている。研究の実態を理解しつつ法律的・経営的に問題がない範囲で可能となるよう専門家のアドバイスを頂きながら工夫して説明もしている。教員の皆様にはご自身の健康のことも考えて制度をよく理解をしてほしい。

大学教員と裁量労働制。研究の自由と勤務時間・時間帯の管理。運営費交付金の削減から教職員数の削減、裁量不可の業務の増大。納税者に対する社会的説明のために大学・教員の行動・実績の公開・評価。これらもこの問題に絡んでいる。本学だけの問題ではないだろう。



三菱電機は技術者が多く、裁量労働制の対象社員のうち8割以上が専門業務型で、残りは企画業務型だった。ともに3月で廃止した。技術の高度化・細分化が進んで個人的な仕事が増え、技術者一人ひとりの負荷を減らすのに苦心してきたという。同社人事部は、労災認定が相次いだために裁量労働制を全廃したのではないと強調したうえで、「基本に立ち返り、労働時間を厳しく見ようと考えた」と狙いを説明した。

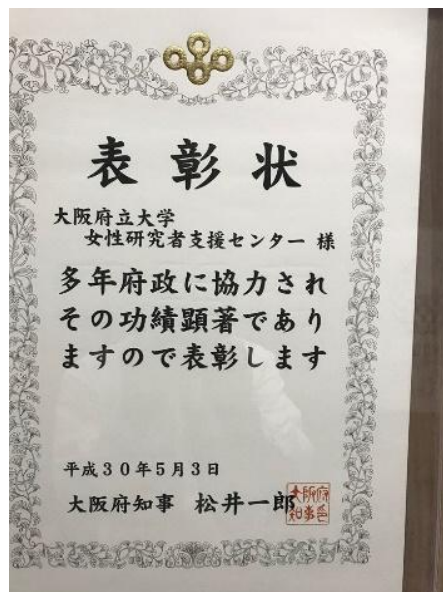
三菱電機、裁量労働制の3人労災 過労自殺も →  
残業5倍…過労自殺の再発防げず 三菱電機 →

裁量労働制の対象の社員とその他の社員とで「労働時間を把握するための『物差し』が違うのはおかしい」との考えに至った。裁量労働制をやめれば「物差し」が一つになり、より厳格な管理ができる。健康確保や事業効率化にもつながると判断した」という。「賞賛送られ、世間をお騒がせした。他社より明確に考えていこうという議論があった」とも付け加えた。

## 9月30日 女性研究者支援センター受賞祝賀会

今年度、大阪府憲法記念知事表彰と優秀教職員表彰のW受賞をお祝いする会があった。これまでの活動がスライドショーとして流される中、お祝いの久寿玉が割られるなど盛会だった。

奥野武俊前学長のときからの取り組みが最近外部から高く評価されるようになってきている。嬉しい限りだ。教員も職員もそして女性大学院生も、部局の垣根を越えて、(特定の方だけが頑張っているというのではなく全学で)皆が協力してくださった賜物だと思う。感謝する。





10月1日 ホームカミングデー@11月4日(日)

創基135年の今年、ホームカミングデーを11月4日に企画している。卒業生の皆様には電子メール(下記参照)あるいはダイレクトメールで届いている頃だ。懇親会の会費の支払いは(準備の都合もあり)事前にコンビニからお願いしたい。私もこの休日に支払いを済ませた。

当日は白鷺祭期間中で、いろいろな催し物を用意している。ご家族連れでも気軽にお立ち寄りいただきたい。変わらぬ学舎、新しくなった学舎、台風の被害、・・・いろいろ感慨を深める場にもなると思う。

講演だけでもいいし、パーティだけでもいいし、学内散策だけでもいいし、どうぞお気軽に。  
10時~10時50分:「電動化・知能化・情報化によるクルマの変革」

講演者:香川佳之氏 トヨタ自動車株式会社 常勤監査役(工学部 機械工学科 1983年卒)

10時55分~11時45分:「博覧都市大阪1970年大阪万博から2025年国際博覧会に向けて」

講演者:橋爪紳也先生 大阪府特別顧問/大阪市特別顧問、

大阪府立大学研究推進機構教授/大阪府立大学観光産業戦略研究所長

・第2部:ウェルカムパーティー(体育館内 特設会場)

12時15分~14時15分、会費3,000円

・司会(第1部・第2部):後藤まみさん(看護学類2018年卒、  
第5代 堺観光コンシェルジュ(2016.7~2018.6))。

10月2日 コア・プロジェクトから学ぶもの

昨日入ってきたニュース。本庶佑先生、ノーベル賞受賞おめでとうございます。大学関係者としてとても嬉しく思います。

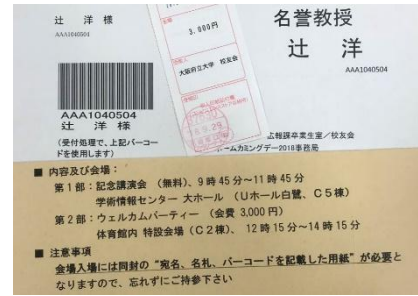
さて、もう三年になる。総合リハの先生方が始めた履修プログラム「在宅ケアの支えるリハビリ専門職の育成」。高齢者が増加するとともに病院にいるのではなく、在宅で終末期を迎えることが増える。だから、リハビリテーションの専門知識を獲得するだけでなく、それを支えるビジネスを起すことも考えなければならないし、福祉や心理や看護の知識あるいはネットワークも知らなければならない。

多くの履修者が社会人であることを考えると、遠隔から学べるe-learningも必要だ。そのコンテンツが充実されてきている。国の支援が終わったときに、自己資金でこのプログラムを続けられるかどうか試されている。

先の募集でも多くの応募者がいて関係者のご尽力に敬意を払う。私が学んだのは、このプロジェクトの経験を Good Practice として全学で生かして、

(1) e-learning をもっと学内に展開しよう。社会人に限らず、全学の多くの学生がe-learningで時間・場所に束縛されない学びができるようにしよう。

(2) 部局を超えて、教育コンテンツを揃えたプログラムを創ろう。逆に言うと、プログラムを先に考え、そのコンテンツが自分の部局で提供できなければ他の部局に求め、そこにもなければ学外に求めよう。「今いる教員が何を教えられるか」からではない発想でプログラムをつくろう。



(3) 地域に貢献する、時代を先取りするプログラムを創ろう。

10月3日 秋季入学式(28日)

秋の入学式は、留学生が多いことから英語で行っている。従来は正規生のみ招待していたが、今回は交換留学生にも声をかけて招待した。オーケストラの演奏もあり、賑やかで華やかな式になったと思う。



夢は秋の入学式もUホールでおこなえるぐらい多数の入学者があること。式辞の全文は次の通り(今回は、トンカチと富士山の話)。機械翻訳したらうまい日本語になっているだろうか?



-----  
Ladies and gentlemen! Welcome to Osaka and Osaka Prefecture University.

This is the first time of the ceremony which invites not only regular students but also exchange students from our partner universities. I would like to extend my heartfelt congratulations to all of you. We are very happy to have your entering our university. On behalf of OPU, I will introduce our university briefly and then give you a welcome message.



We have three campuses (Nakamozu campus, Habikino campus and Rinku campus) and one downtown satellite office called "I-site Namba". Near Nakamozu and Habikino campus, there are lots of giant ancient tombs which region is nominated as a candidate for UNESCO world heritage by the Japanese government. Having the tradition of the creative and innovative ideas, the people in this local area have always been pioneers in both technology and culture. Now you are the members of this region. Our university has a starting base on the training school for veterinary sciences which was founded in 1883. Yes, we have the 135th-anniversary ceremony on November 4th at Shirasagi festival in Nakamozu campus. After World War II, the former OPU was established by local government. Since then, the number of students has increased and increased. Integrating three public universities in Osaka (former Osaka Prefecture University, Osaka Women's University and Osaka Prefectural College of Nursing) in 2005, we initiated new OPU as a public university corporation. We will be even larger next year by integrating another public university corporation.

We have now four colleges with thirteen schools for about 6,000 undergraduate students. We have also seven graduate schools for about 1,500 students for master degree and about 500

students for a doctoral degree. We also accept about 300 international students every year. Now we are very happy to have you all as members of the OPU world.

As a memorable welcome message, I encourage you to have a variety of tools for solving problems as knowledge. How many tools do you have for solving problems now? This is my first question.

Suppose that you are a carpenter and you have only a hammer. You are always looking for and hitting nails by your hammer. Do you think it is possible for such a person to build a house? It is impossible.

If the carpenter has a variety of tools such as a saw and nippers, he can choose a right one for each task. That is why we should learn, develop and create a variety of knowledge even if some of your learning seems to be too theoretic to be applied to real problems at first.

I have another question. I am sure that all of you know Mt. Fuji. Yes, it is the highest mountain in Japan. Why is Mt. Fuji so beautiful? When we go to Tokyo from Osaka, we have a chance to see Mt. Fuji from airplane and also from Shinkansen train. Most of the passengers are fascinated by Mt. Fuji. Old men, young mothers, athletes, handicapped persons, children and tourists from foreign countries love Mt. Fuji.

Again, why is Mt. Fuji so attractive for us? The answer is just simple. One of the reasons is that Mt. Fuji has beautiful a wide like skirt spreading all directions. From this analogy, if you have a wide range of knowledge, you can increase your problem-solving ability and you will be more smart and beautiful. Can you agree?

Well, I would appreciate it if you would remember my message today when you see hammers or Mt. Fuji. OPU offers a variety of programs including international collaboration and entrepreneurship. So please enjoy your campus life.

Additionally, I would like to invite you to next spring entrance ceremony held in downtown. This is a big ceremony where many guests are invited. There are more than three thousand participants. Invitation announcement will notify you next year. We welcome your parents and friends for this ceremony. Please do not hesitate to participate in it.

Thank you for your kind attention. Once again, congratulations on your entrance.

September 28, 2018

Hiroshi TSUJI, president of OPU

10月4日 TT-net ワークショップ@多目的ホール 24日午後

テニユアトラック制度が定着してきて、第6回のワークショップが企画された。今回は、大阪市大から櫻木弘之理事兼副学長をご来賓としてお迎えするほか、同大学のお二人の方にも発表していただく。

本学からは14名がショートプレゼンテーションし、21名がポスター展示する予定だ。発表する教員には、下に引用したようにお願いしている。

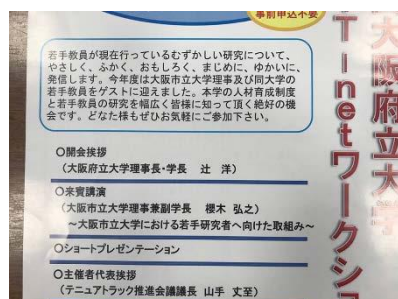




自分の専門分野以外の方のコメント・質問から何かの気づきをもらってほしいし、もらいやすくするためにどう工夫すればいいかを考えてほしいし、願わくば、共同研究などがうまれたら最高だ。  
-----発表者への依頼-----

テニユア教員の方々の発表を楽しみにされている方も多いと思います。一方で、専門家向けに話をするとなかなか理解が進まぬと思います。思い切ってデフォルメして、少しでも多くの方に皆様の研究の着眼点が伝わるように準備を頂ければ幸いです。(テレビ放送されるとき解説に用いられるイメージ)

井上ひさしさんは次のように言われているのでご参考まで。  
『むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに



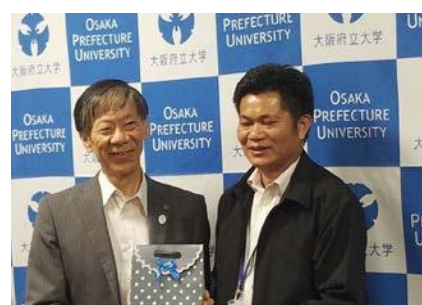
10月5日

さくらサイエンスプランでラオス国家大学から

つい先月、ラオス国会大学の経済系の教員と学生が表敬訪問に来てくれたが、続いて、自然科学系の教員と学生が来てくれた。今回は放射線研究センターの川又教授の提案が採択になったもの。



昨年は自然科学の中でも物理学専攻の学生のみ選抜していたのを、今回は、化学専攻、生物学専攻からも選抜したという。大きな大学でラオスのトップ大学なので、優秀な学生のなかでも特に成績もいいのだろう。日本を、大阪を、そして府大のことを好きになってくれて、今回の来日が今後の人生観や学びに対する取り組みに影響を受けることを期待する。



台風24号の影響で、来日時の関空閉鎖が危ぶまれていたが一日違いで無事に到着。疲れも見せずに顔を出してくれた。今回のプログラムを喜び、お揃いの服を作ったということだ(写真でわかるだろうか?)。

京都や奈良に行く計画がないとのことなので、せめて大阪城には行くようにアドバイスした。





10月6日 胸ポケットに入る広報ツール

新たな大学紹介用のカードを試作してもらった。名刺交換した時や立食パーティで手軽に手渡せるものだ。APUの学長が使われていたので、「マネさせていただいていいですか」と了解をとって参考にした。コンテンツとして何がいいのかは広報課の皆さんと相談している。角の丸み(アール)や紙厚、色彩にもちょっとした配慮がある。

今回は、看護師資格について「127名が受験して全員が合格した」こと、総合リハビリテーション関連の資格について「78名が受験して全員が合格した」ことなどをデータ編として記してもらった。もう一面には、外部評価で3つのトピックスについて、誇っている。

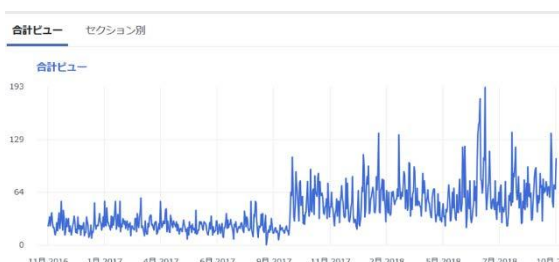
週明けの公立大学協会の学長会議でお渡ししながら、反応を見る予定だ。先日の入学式で「トンカチしか持っていなければ、クギを探してそれをたたくことしかできないが、いろいろな道具を持っていれば、問題に適したものを選択できる」と話したが、広報に関しても同じだと思っている。このツールを使っただけの方にはいつでもお渡しするので、全員で大学広報をお願いしたい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



10月7日 本ページの統計情報

三連休だったこともあり、久しぶりにチェックしてみた。このページが画面に表示される人数は(リーチ)この一年従来に比べて半減している。逆にこのページをフォローしてくださっている方は、2年前300人強だったのが、今では650人近くになっている。さらに、このページへの訪問者はこの一年従来に比べ倍増している。これらは何を意味しているのだろうか。FB側の戦略で「最初は無料でサービスしていましたが、広告費を使わないと、今後はリーチしませんよ」ということを暗に示しているように感じるがどうだろうか？

また、利用者のデモグラフィを見ると10%強が海外で英語を主たる言語とされているので、もっと英語での発信が必要なかもしれない。



## 10月8日 公立大学協会学長会議

略称公大協。全国の公立大学の協会だ。学長会議は通常、年に2回。1回目は10月の三連休に開催されることが多い。

5年前からは、全国の公立大学の学生大会（合宿形式）も同時に開催され、地域活動などのポスターセッション、さらに学生学長合同セッションでの報告と討論がなされる。

今回は府大からボランティアセンター所属の5名の学生が参加。静岡県立大学にて。詳細は後日に書く。



## 10月9日 家康の遺訓、名言

公大協の学長会議の二日目は午前で終了。どの大学もそれぞれの苦労と工夫をされている。意見交換、情報交換の場があることは有難い。静岡は通ったことはあってもほとんど知らないので日本平と東照宮に行ってみた。交通の便が悪く、帰りは店でバス待ち30分。張り紙を見て想いに耽っていたら、危うく乗り遅れそうになった。



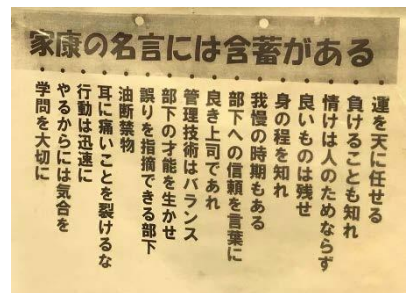
## 10月10日 保護者のためのオープンキャンパス学生プレゼン

少し古いが5月に開催された「保護者のためのオープンキャンパス」においての学生の発表。全部で4件あった。本日は、大学院生鰐淵 元貴さんの発表。<https://youtu.be/jIVrXRmHa8o>

一昨年の11月に中百舌鳥キャンパスで初めて行い、去年は5月。そして今年も5月に中百舌鳥キャンパスで8月に羽曳野キャンパスで行っている。キャンパスツアーも企画し、少しでも大学を知ってほしいと思っているからだ。

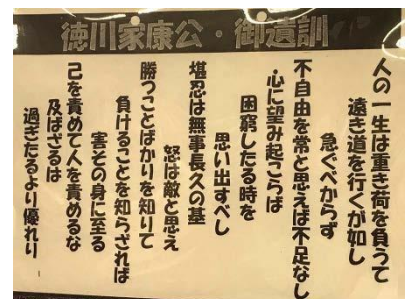
「昔は、大学に保護者など来なかった」という年配の方も少なくないが、保護者は大学にとって大切なステークホルダーであり、見て頂くだけでなく耳を傾けることも大切だと思っている。

他の3名の方の発表も後日紹介したい。どの発表も素晴らしい。



## 10月11日 「ふ」が書けない

11月4日のホームカミングデー。講演会とパーティ。記念品がありメッセージを手書きで書くように依頼が来た。元々字が下手だし、パソコンでしか文書を書かなくなって久しいので厳しい依頼だ。ボールペンを使うか、筆ペンを使うか、大きさはどうしよう？寄付をお願いする文言はどんなのがいいのだろうか？「ふるさと納税」と書こうとしたら、ひらがなの「ふ」が書けない。こんな日だった。



10月12日 さくらサイエンスプランに4件採択

平成30年度公募の第三回審査において、本学が提案された4件が採択になった。高専からも1件採択（インドネシア・ダルマプルサダ大学）。発表リストを見る限り、岡山大学と並んで全国一位の採択件数だ。

4件は、カンボジア（王立プノンペン大学）、ラオス（スパースフォン大学、ラオス国立大学）、ベトナム（ダラット大学）、インドネシア（ボゴール農科大学）であり、これまでに今年度計14件（高専を含むと15件）採択。

府大生には、これらのプログラムで来日する学生と積極的に交流し、刺激を受け、短期でも長期でも海外に足を運び、異文化交流を体感してほしい。府大生を派遣するプログラムや支援する制度をだいぶ充実してきたので、ぜひ活用してほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

10月13日 白鷺祭の予定（2日～4日）

台風で倒れた樹木の片付けも進んできた。かなりの数が倒れたので、白鷺祭に見えた卒業生は驚くだろう。暫定だが、その期間の私の動き。遅れて参加したり、先に失礼したりするので、イベントの全体の時間帯とは、ずれているものがあるのでご注意を。ホームカミングデーの講演会の申し込みが少なく、お呼びかけをお願いしたい。

2日

- 9時～ 学長顕彰表彰式（優秀学生）
- 10時30分～ 開会式
- 11時 ダルマプルサード大学などインドネシア視察団面会
- 15時30分 キープロジェクト発表会
- 18時 フランス・ヴァルドワーズ県代表団歓迎夕食会

3日

- 11時30分～ 高専学生・保護者来訪挨拶
- 13時～ さくらサイエンスプランで来日中のタイ・マヒドン大学来客面会
- 14時30分前後 留学生日本語弁論大会激励の挨拶
- 15時前後 インドネシア留学生OB会代表面会
- 18時～ 府大OB経営者交流会

4日

- 9時45分～ ホームカミングデー記念講演会
- 11時30分 ビジネス・アイデア・コンテスト
- 12時～ ホームカミングデー・ウェルカムパーティ
- 14時30分～ 国際FES（チャレンジ君事業）トークショー「はじめての海外」

大学				大学			
No.	採択回数	採択年度	採択年度	No.	採択回数	採択年度	採択年度
1	1	○	21	21	1	○	21
2	1	○	22	22	1	○	22
3	2	○	23	23	2	○	23
4	3	○	24	24	3	○	24
5	4	○	25	25	4	○	25
6	4	○	26	26	4	○	26
7	1	○	27	27	1	○	27
8	1	○	28	28	1	○	28
9	2	○	29	29	2	○	29
10	2	○	30	30	2	○	30
11	1	○	21	21	1	○	21
12	1	○	22	22	1	○	22
13	1	○	23	23	1	○	23
14	1	○	24	24	1	○	24
15	1	○	25	25	1	○	25
16	1	○	26	26	1	○	26
17	1	○	27	27	1	○	27
18	1	○	28	28	1	○	28
19	2	○	29	29	2	○	29
20	1	○	30	30	1	○	30

1.【平成30年度 第3回募集 本学の採択事業一覧(招へい事業の実施)

申請者・主担当者	採択回・コース名	招へい先
府大高専 山野 高志 国際交流室長 (※同4採択)	半年度・ A) 科学技術体験コース	ダルマプルサダ大学 (インドネシア)
人間社会システム 科学研究科 竹中朋則 教授 (※同3採択)	半年度・ A) 科学技術体験コース	スファノボン大学、 ラオス国立大学 (ラオス)
生命環境科学研究科 獣医学専攻 山手 文彦 教授 (※同4採択)	半年度・ B) 共同研究活動コース	ボゴール農科大 (インドネシア)
現代システム科学域 満田 和久 教授 (※同5採択)	半年度・ A) 科学技術体験コース	王立プノンペン大学 (カンボジア)
研究推進機構 放射線研究センター 松浦 真人 教授 (※同3採択)	半年度・ C) 科学技術研修コース	ダラット大学 (ベトナム)

※全てのプログラムが付帯条件付きのため、今後調整。





## 10月14日 就活ルールの廃止

先日、経団連が就活ルールの廃止を表明した。2021年採用（つまり現2回生）からという。

現在は、説明会の解禁、採用面接などの選考解禁と日程が定められているが、会社によって、厳守しているところ、フライングしているところ、まったく無視しているところがある。特に経団連に加盟していない会社など通年採用のところがある。形骸化しているという人もいる。

私は、あまり動揺せず、自分を磨くことに集中するのがいいと思う。ルールの変更は世の常だし、落ち着くところに落ち着く。短期的に被害者意識をもたざるをえない人も出るかもしれないが、長期的には自分の宿命だと受け入れるのがいい。

希望の大学に入っても伸びない学生がいるし、希望でなかったのに伸びる学生もいる。たくさん例を見てきた。就職についても同じで、出会いとか、縁を大切にすることも身につけておきたいものだ。本学での学びはそうであってほしい。

## 10月15日 全6回講座「消費力育成セミナー」

8年前から、大阪いずみ市民生活協同組合と企画協力して開催している公開講座（全6回）が始まった。一般消費者の関心が高い「食の安全」「環境・エネルギー問題」「社会保障」「防災」などに関する講義を通して、安心して暮らせる社会の確立、自立した消費者の育成に寄与しようというものだ。

今回は、150名の申し込みがあった。生協組合員の方が多いのが特徴だ。一回目の15日、冒頭あいさつをさせてもらった。地震・豪雨・台風のお見舞い、BNCT研究センターと植物工場研究センターの簡単な紹介、万博・百舌鳥古市古墳群の話、阪神タイガースのオーナーと球団社長が府大卒業生であることなど。

講座の詳細は次にある。学外から4名の講師、学内から2名の講師だ。

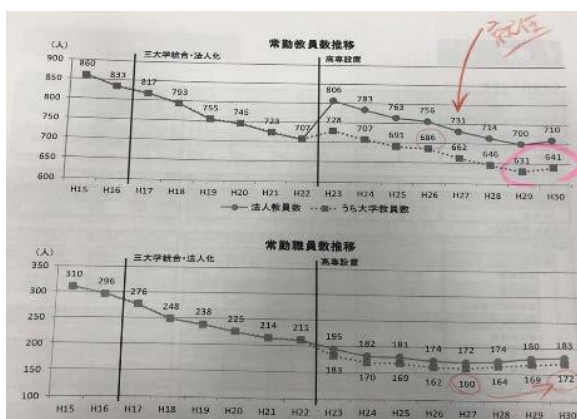
## 10月16日 常勤教職員の数

情報公開の一環として、法人・大学のデータを毎年公開している。最新のものは、まだ印刷準備中であるが、一度常勤教職員数の推移を紹介しておく。私が府大に赴任したのは、H14。当時は860人も教員がいた。

その後、三大学統合があり、法人化とともに

大学運営に交付される予算が減らされ、教員数の削減が進んだ。どの大学でも同じ傾向だと思う。学士課程改革を行ったとき（H23）に一時的に教員数が増えたが、私が理事になったH25年には691名。学長になったときは662名。

第二期中期目標では、637名とされていたので、それを必達しようとして631名（H29）。このときは、教員負担が特に過剰になったと思う。申し訳ないが、電子ジャーナルの予算を確保したり、女性研究者支援の予算を確保したり、以前に国から助成を受けていたプログラムを継続する予算を確保するためにいろいろな工夫をしてこの数字だ。





第三期中期目標期間に入ったので、今年度5月1日現在では641名。10月にさらに3名採用している。学生と教員の比率（ST比）は12.0人。知事からは「第三期の期間は、もう予算を減らさない」と言われて運営しているがとても厳しい。

常勤職員の方は、法人統合という業務があるので、少し増やしているが、15年前と比べるとその減り具合がよく分かる。

いろいろなメディアで大学の予算を危惧する声があがっているが、大学の運営を引き受けるということは大変なことだ。

### 10月17日 Sakai-Asean Week (昔の思い出)

昨日（16日）、堺市に招へいされたマレーシア工科大学、ブルネイ工科大学、王立プノンペン大学の学生6名が表敬訪問に来てくれた。このときの写真は後日アップしようと思っている。シンガポールからは別日程で来日することがあるが、通常この時期だ。

確かに、帰宅時にFBを見たら過去の「思い出」が表示された。3年前は8日に来てくれていたが、そのときのポストは16日だった。

見てもらうとわかるが、シェア元のRUPPの投稿には、なんと1712人から「いいね」、30件のシェア。これをどう考えようか？東南アジア、東アジアの諸大学との交流については、一步上のステージに進めたいと思っている。



### 10月18日 明日（金）は全学一斉防災避難訓練

本年度で7回目の訓練。今年は初めて金曜日に訓練を行う。講義後半の11時45分に地震発生を想定して、安全確認を開始。避難（そしてその誘導）訓練のほか、火災状況の報告、棟倒壊状況の報告、帰宅・宿泊対応などをシナリオに沿って、シミュレーションする。きっといろいろな課題が浮き彫りになるだろう。自然災害に限らず、大学周辺にはリスクが多数ある。海外でテロにあわぬだろうか、入試でミスを起こさないだろうか、事件・事故に巻き込まれぬだろうか。日ごろからちょっとした頭の整理でリスクを軽減することに努めたい。



### 10月19日 堺アセアンウィークで来日の学生に面会

堺市のプログラムで来日し、短期間ではあるが、府大の研究室に入り、勉強している、マレーシア工科大学、ブルネイ工科大学、王立プノンペン大学の学生が会いに来てくれた。

マレーシア工科大学の二人は、環境システム学類の大塚先生のところで学んでいて、当日の朝は阪南市のラボに出かけたという。ブルネイ工科大学の一



人は物質化学類の綿野先生のところで学び、多くの先生の研究室を順番にまわっていると喜んでいました。もう一人は、知識情報システム学類の瀬田先生のところで、Creative Computing に関連する学修をしていた。

王立ブノンペン大学の二人はバイオエンジニアリング専攻。応用生命学類の東條先生と片岡先生のところで学んでいる。少し香りのついた服を頂いたのですぐに着用して記念撮影を撮った。

10月20日 杏樹際、白鷺祭近づく

◆杏樹祭：テーマ「杏 muse アミューズ」

◆白鷺祭：テーマ「虹色協奏曲」

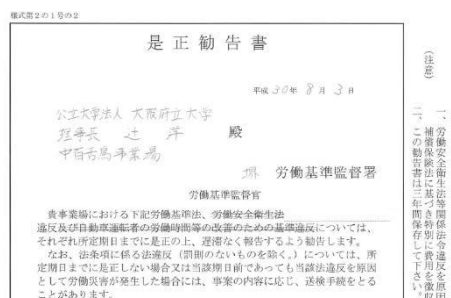


10月21日 台風の爪痕（その後）

平家物語によると、白川法皇は、天下三不如意（わが意にならぬもの）として、「加茂の流れ、賽の目、叡山の山法師」と言っているが、地震・豪雨・台風という自然の力は、今のところ制御不可だ。AI だとか、Society 5.0 とか言っているが、10年後、20年後でも無理だろう。うまく付き合っていくしかない。まともに喧嘩せぬ方がいい。自然だけでなく、あまりまともに付き合わぬ方がいいもの、喧嘩せぬ方がいいもの、そういうものが社会にはあるように思うがどうだろう。



中百舌鳥キャンパスの台風の爪痕は関係者のご尽力でいぶ消えてきた。涼しくて過ごしやすい季節だが、秋は短そうだ。



10月22日 ノーベル科学省受賞者の働き方

2008年にノーベル化学賞を受賞された下村脩先生の訃報

が入った。年間クラゲを5万匹採取して発光物質の研究をされていたと聞く。徹底して研究したのだろう。本庶佑先生の受賞でも基礎研究に集中できる幸運を語られていたと新聞で読んだ。他にも過去に科学関係で大きな成果をあげられた研究者は、「研究資金に恵まれたこと、時間に拘束されることなく集中できたこと」を指摘される。

ところが、現状は、どの大学の予算は火の車だ。人件費を大幅に削減してバランスをとっている。その上、以前は教員に課していなかったことまで課すようになってきている。何とか会議を削減しようとするが、減らすと「教員の意見が通らない、聞いていないことが決まっている」となる。入試なども「多様な入試」を求められるとそれが教員の負担に跳ね返る。なかなか難しい。

さらには、過去数年の過労死問題などから、長時間労働者に対する監督が強まっている。私は二度も改善勧告書を頂いた。残業代、深夜勤務代、休日出勤代がきちんと支払われているかどうかも自己点検を求められる。来年4月からは健康管理のために入退勤管理を客観的に行うことが義務化されている。

教員の「自由に思い切り昼夜を問わず研究したい」という願いをかなえつつ、労基署の指導（法律）を守り、かつ交付されてくる予算と授業料などの収入で大学を運営することはできるのだろうか。運営している振りになり、今、製造業で起こっているデータ不正事件のようなことを起こさないだろうか。もう起こっているのではないだろうか。こういう困難さがあることを世間・学内では知られているのだろうか。海外の大学では問題はないのだろうか。

経済学の先生が分析した面白い論文がある。データに基づいて分析している。行動経済学という分野の話だ。

- (1) どんな人が長時間労働するのか。
- (2) 施策と効果
- (3) 同僚への影響

他にもいろいろ研究があり、調べているが、上に書いたすべてを両立させる許容解を見つけるのは大変だ。制約条件のどこかをはずさないと解は見つからない。困っている。

## 10月23日 アカデミックインパクト

国連広報局（DPI）が中心となって、大学の社会貢献、社会の発展に寄与するための活動と国連のめざす社会変革の活動のネットワーク作りを進めている。このネットワークに参加するには、国連憲章や人権尊重などの10の原則へのコミットメント（1年に少なくとも1度、これら原則を積極的にサポートする活動を行うこと）



が求められる。本学は、持続可能な社会への貢献（SDGsへの取り組み）および大学のグローバル化をより一層進めるため、この活動に参加申請していたところ、認可された。

国連のアカデミック・インパクト10原則とは次だ。

- 原則1：国連憲章の原則を推進し、実現する
- 原則2：探求、意見、演説の自由を認める
- 原則3：性別、人種、宗教、民族を問わず、全ての人に教育の機会を提供する
- 原則4：高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する
- 原則5：世界各国の高等教育制度において、能力を育成する
- 原則6：人々の国際市民としての意識を高める
- 原則7：平和、紛争解決を促す
- 原則8：貧困問題に取り組む
- 原則9：持続可能性を推進する
- 原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

大阪府立大学では特に、原則6、原則9に関して、重点的に取り組んできた。今後はこれらに加え、原則5と原則10に関する取り組みにも注力したい。

### ◆原則6：人々の国際市民としての意識を高める（Global citizenship）に関する取り組み

2016年に「グローバル化戦略」の策定およびグローバル化推進室という教職協働組織を設けて、グローバル化の取り組みを強化している。特徴的な取り組みとしては次のとおり。



- ・学生が国際的な経験や思考を培うための支援制度の創設（交換留学、国際学会への参加、私費留学、外国から教員招へい等への経済的支援や助成）
- ・キャンパス内に留学生と日本人学生が共同生活する国際交流会館（I-wing）の設置、海外大学との連携教育プログラムの開発（複数の海外大学とのダブル・ディグリープログラム、台湾の国立台南大学やカンボジアの王立プノンペン大学とのSDGsに関係したアイディエーション・ワークショップ）
- ・グローバルリーダーの育成（大阪府立大学グローバルリーダー育成奨学金制度の創設、さくらサイエンスプランへの積極的関与、グローバルアントレプレナー人材の育成を目的としたシステム発想型物質科学リーダー養成プログラムの創設）

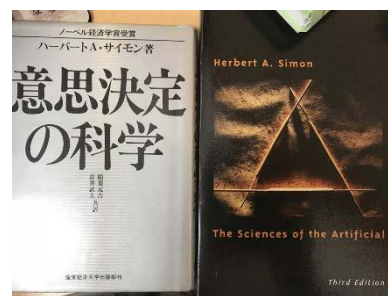
◆原則9：持続可能性を推進する（Sustainability）に関する取り組み

〈教育活動面〉 2010年より「環境人材育成プログラム」（副専攻「環境学」や「国際環境活動プログラム」）を運営するとともに、持続可能な社会の創造を理念とする「現代システム科学域（College of Sustainable System Sciences）」を設置し（2012年）、SDGsに対応した教育カリキュラムを導入。

〈キャンパス運営面〉 本学の「環境理念」に基づき、「環境報告書」（2013年から）を作成・発行する学生・教職員の協働組織「E～きゃんぱすの会」の活動を継続し、サステナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）より連続してGold賞（2015、2017年度）を受賞。

〈社会貢献面〉 関西SDGsプラットフォームに2017年の創設以来参加しているほか、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進するユネスコスクールの活動支援において中心的な役割、たとえば、ESDに関するユネスコ世界会議への参画や「大阪・関西ユネスコスクールネットワーク（ASPnet）」の事務局、全国の「ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUivNet）」の代表大学等の役割を果たしている。

10月24日 ノーベル賞受賞者 H. Simon と現代システム科学  
すでに故人で、受賞したのは1978年だが、経済学賞を受賞されたアメリカ人がいる。彼の原著は *The Sciences of the Artificial* で人工物の科学と訳すのが一案だろうが、和書では、「システムの科学」と訳されている。



彼の著書にはそれ以外にも *The New Science of Management Decision* というのがあり、和書では「意思決定の科学」として常に私の横にあった（今でもある）。Simon 教授は、自然に対応するものを人工物と呼び、人間が作る経済問題も環境問題も研究対象としている。経済や環境を考える中から人の心理（そして行動）にも研究が広がり、それらの基盤としてコンピュータ科学（特に人工知能）にも通じている。そして、それらのどの分野でも世界一流だ。



現代システム科学域という学域をつくったとき、参加したそれぞれの教員には「システム」という言葉にそれぞれの理解と抵抗を持っていたが、私は、自然に対する人工物の科学、そこには経済・環境・心理・情報が複雑に絡み合い、それらを理解することが現代に必要だと信じていたし、今も



そうだ。

彼の本は難解で、読むたびに新しい気づきを与えてくれる。よく「吾輩は猫である」などの文学書も読むたびに新しい気づきを与えられるが、それと同じだ。こういう本は一人で読むより、輪読するのがいいと思う（図書館にあると思う）。時間があれば、今でも学生と読み合わせたいぐらいだ。

よく「現代システム科学域ってなあに」とか「そんなの日本中他にないのに学問なの」と言われるが、米国では1960年代から学問として成長し、部門は経済学だったが、ノーベル賞受賞者もいる。今後の世界を考えるには人工物への洞察が不可欠だ。

Simon 教授とは、ピッツバーグで用を足すときに隣同士になったが、話かけることができなかった。せめて、著書にサインしてもらっておけばよかったと思う。

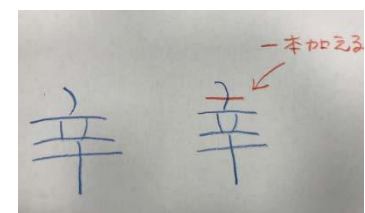
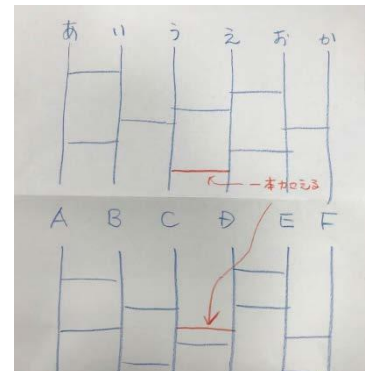
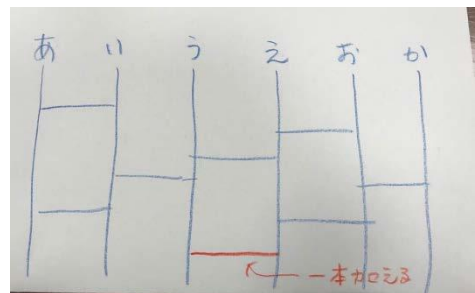
#### 10月25日 あみだくじ：横棒一本の差

読売新聞社の竹内政明氏の著書「編集手帳」傑作編の記事に面白いものがあつた。アミダクジのことを涙クジと子供が言っていたことからの記事だ。

アミダクジはご存知のとおり、線のはしに「当たり」「はずれ」などを書いて隠し、各自が引き当てるくじのことで、平行線の間には横線を入れ、はしご状にすることが多い。また、クジを引く人に一本横線を加えることを許す場合もある。一本の線が、クジの行方を大きく変える。

人生にこういうことがあるのだろう。ある道を進もうとしたのに、誰かの影響（出会い）を受けて（一本横線が入って）人生が変わるということがだ。大学での学びで一本横線が入るかもしれない。自分を振り返ってもあちこちで横棒が入り、人生が変わったように思う。

横棒は、横やりのような不本意な結果になることではあつてほしくない。府大で働くことが、府大で学ぶことが不本意ということでは決してあつてほしくない。竹内さんは書いている。「辛い」に横棒が入ると「幸せ」になると。



#### 10月26日 電動化・知能化・情報化によるクルマの変革

自動車が変わっていく。ガソリンではなく、電池で動く。人が運転するのではなく、AIが運転する。周辺の情報をリアルタイムに取得し、逆に発信する。こんな話の最先端を府大で聞ける。近い将来空も飛ぶのだろうか？

11月4日、学術情報センターUホール白鷺にて、本学OBの香川 佳之氏（トヨタ自動車、機械工 83年卒）に講演をお願いしている。自動車を例に、既存の製品・会社・産業がどう変革していくかのヒントを得ることもできるだろう。

これはホームカミングデー行事の一つだ。教職員、在学生にもぜひ聞いてほしい。当日の記念品ができた（写真）。先日『「ふ」が書けない』とぼやいたメッセージもいれてもらった。中身は当日のお楽しみにしてほしい。今年度のふるさと納税の受け入れ状況を調べてもらったら、9月末時点で、一昨年に比べ卒業生は200%に増えている教職員は65%に減っている。学内のいろいろな場をお願いしているがどうしたものか。



#### 10月27日 新法人理事長西澤良記先生の視察

来年4月から、本学は新法人「公立大学法人大阪」の大学になる。英語では、University Public Corporation OSAKA。その理事長予定者の西澤先生には、順次、本学をご案内している。



9月19日 午前：高専

10月15日 午後：羽曳野キャンパス

10月24日 午前：中百舌鳥キャンパス

午後：りんくうキャンパス

写真はりんくうキャンパスのキリンの骨格の前で。私としては、どうしても最初に高専を見て頂きたかった。法人統合時には、二大学一高専、その後、大学統合を経て、一大学一高専になる。その責任者が西澤先生だ。

#### 10月28日 ブラジルからの来客

現代システム科学域の杉村延広教授が「さくらサイエンスプラン」を利用して招へいたパラナカトリック司教大学(PUCPR)工学部の先生4名と学生7名が表敬訪問してくれた。経営工学科の学生と機械工学科の学生で、多数の応募者からトップクラスが選抜されたというだけあって、モチベーションも高く、積極的に発言してくれた。ブラジルにも国立大学、公立大学、私立大学があり、この大学はクリスチアンの私立大学。

杉村先生は、ブラジル移民に尽力して有名な杉村濬の曾孫。ネットで調べてもその貢献度がよくわかる。そのDNAを感じるひとときだった。

#### 10月29日 記事を見て思うこと

先日、フリージャーナリストの安田さんの解放の記事が流れた。ネットなどでいろいろな意見が流れているが、紛争が起こっている地区に誰もジャーナリストが入らなくなると何が起きているのかわからなくなるので、

いろいろな視点を持っている人が世界に情報発信できるようにしなければならないと思う。

さて、Google Alertに「府大、市大、統合」というキーワードを登録しているので、産経新聞の記事がネットに出たことが届いた。タイトル「名前も決まらぬ大阪2大学校統合」とかキャプション「決まったのは新キャンパスの候補地のみ」の書き方に同紙の姿勢が見える。



これは先日、荒川哲男大阪市大学長とインタビューを受けた時のものをベースとしたものだ。同社の記者から依頼を受け、時間を調整してかなりの時間を裂いて考えを述べた（それ以外にも副首都推進会議ほかで大学統合に関する考え方は公表している）。

それぞれ違う伝統をもち、歴史をもつ大学であり、設立団体も大阪府・大阪市と別なので、すごく大変な作業だ。議会の同意もえなければならず、そこには、批判もある。反論が難しい批判も確かにある。

荒川先生とは、「苦勞しても（少子高齢化が進む）将来の大阪の研究型大学の姿として理想を目指して頑張っている」ということでインタビューを受けた（それがわかる写真も数多く撮影された）。記者にも間違いなく通じていたと思う。

インタビュー内容はそのとおりだが、タイトルやキャプションの書き方で読者のイメージは大きくかわる。「大変だけど頑張してほしい」という論調を期待していたが、まあ期待するほうが無理だったのかもしれない。メディアの意見は自由で多様なのだから。

#### 10月30日 日時計

システム屋は、自然物と人工物の共存についてよく考える。自然物に対しては分析し、人工物に対しては合成する。昼休みにキャンパスを歩いていて、日時計を見つけ、ふとそのことを思い出した。

時計は「時間を告げる」という目標をもって合成される人工物だ。人との接面（インタフェース）においてその目標を達成すれば、中の構造（作り）はどうでもいい。太陽という自然物を生かして人工物（時計）ができているのだが、一般に時計（人工物）の構造は使われる TPO を考慮して設計される。

外出中に歩いていても時を知りたい（腕時計）、周囲にいる皆が同じ時を知りたい（柱時計）、遠くから時を知りたい（時計台）、エネルギーを補給することなく使いたい（日時計）などある。もっとあるだろう。ひょっとすると気づいていない時計を発明できるかもしれない。人工物と自然について考えはじめるともっと勉強したくなる。

京都に哲学の道があるが、府大のキャンパスでも何かを見つけて思索することはできる。そのための基礎、姿勢をもつことが大切な気がする。アントレプレナー教育に通じるところもある。そんな気がする。





11月1日 留学生によるスピーチを聞きませんか？

白鷺祭期間中の、11月3日に弁論大会がある。8か国より10名の留学生たちによる日本語でのスピーチだ。

例年、交換留學生の出場が多かったが、今年は、正規生7名、交換留學生3名となっている。交換留學生のひとりとは南大からの留學生で正規生のひとりとはEISTIからのDD(ダブルディグリー)生。これらの大学との交流には教授時代に私がはじめただけに想いがある。

当日は審査員として、堺ロータリークラブ、国際ソロプチミスト堺、堺市国際課、そして大阪府立大学留學生後援会会長として寺迫先生に来ていただく。会場が狭くて主催者が慌てるぐらいになればいいな！

日本語弁論大会出場者 Speakers  
スピーチは、弁論大会前

1 トゥメンジャール・ガマツル TUMENJARGAL GUAMARAL 【モンゴリア出身】 人間社会システム科学研究科 博士前期課程 Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences 「語彙を拾ったかも」	2 リコナド 李 冠博 【中国出身】 人間社会システム科学研究科 交換留學生 Exchange Student, Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences 「日本人の友達を作る手帳」
3 イスラム・ゾヒル ISLAM ZOHRUL 【インドネシア出身】 生命環境科学研究所 博士前期課程 Graduate School of Life and Environmental Sciences Master's Course 「人生の新たな挑戦」	4 レコナド・マサド LECONTE MATHILDE 【フランス出身】 工学研究科 博士前期課程 Graduate School of Engineering, Master's Course 「私と夢とよりのけいけん」
5 トラン・トラン・グエン TRAN TRUNG NGUYEN 【ベトナム出身】 工学研究科 博士前期課程	6 シヤ・ホアン 海 望恩 【中国出身】 工学部 交換留學生
7 ハク・エン・アナム HAQUE MD ANAMUL 【バングラデシュ出身】 生命環境科学研究所 博士課程 Graduate School of Life and Environmental Sciences Master's Course 「私の日本生活」	8 ラブリュー・フィリップ LABREUIL PHILIPPINE 【フランス出身】 人間社会システム科学研究科 交換留學生 Exchange Student, Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences/Courses 「日本人との最初の交流経験」
9 プラジアン・アシシュ・マン・シング PRADHAN ASHISH MAN SINGH 【インド出身】 工学研究科 博士前期課程 Graduate School of Engineering, Master's Course 「東京ヘイターンシップ」	10 ホ・ジェゴン 許 載龍 【韓国出身】 工学部 College of Engineering 「驚愕らしい出会いに 感謝したい」

協力：大阪府立大学留學生会(ISA)  
Cooperated by: OPU International Students Association

16:30~17:30 交流会  
弁論大会終了後は、懇話会(飲み会)にて交流会を行いますので、懇話会にもご参加ください。

11月2日 2005年に始めたEISTIとの交流

11月1日ヴァルドワーズ県の代表団が来校した。その一人が国際情報科学技術大学院EISTIのフィンツ学長。

実はこの交流は2005年にはじまる。当時、「フランスからインターンシップはもちろん、ダブルデグリーで府大に長期に滞在することを希望する学生はいないだろう」と言われていた。「もし、いたら逆立ちして府大池の周りを一周歩いてやる」とも。

私は当時、経営工学分野(現知能情報工学分野)の教授だった。長期に欧米のどこかに交換留学したいと希望する学生がいたので、学生ともどもどうすればいいかを考えていた。いくつかの米国の大学にコンタクトしたがよい返事を得られなかった。

フィンツ学長含めた友好団が来校されるという情報を得て、その場で研究室の研究をパネル展示することを提案した。当時は国際交流を専門にする職員もいなくて、学生に何から何まで準備してもらったが、その努力が報われ、大盛況だった。すぐにEISTIと学術交流協定、学生交換協定を締結(当時南学長)し、それが今に至っている。

当時いた学生が準備そして当日のプレゼンを頑張ってくれたので、今の国際交流がある。最初は研究室レベルだったが、今は工学研究科も人間社会システム学研究科も交流している。フランスのEISTIに学生を送ることもできるし、受け入れることもできる。

さらに、ヴァルドワーズ県の電子工学やバイオ工学の大学院大学とも交流し、全学での交流に幅が広がっている。このことを知れば、きっと当時の学生も喜んでくれるだろう。



11月3日 Ecole de Biologie Industrielle (EBI)との協定更新

本学はフランスのヴァルドワーズ県の4つの大学と交流協定を締結している。そのうちの情報系、電子系、語学系とは既に多くの学生を交換しているが、バイオ関係では、獣医学専攻でインターンシップ学生一名を受け入れ、現在二人が来年に向けて関心を示しているという状況だ。



バイオ関係が、略称 EBI で、デュフォール学長は会うたびに「私は海老です」と挨拶してくれる。今回、5年の協定が切れるので更新の調印を行った。相互交流にするには、修士課程のない獣医学専攻より、応用生命科学専攻が進めやすいと考え、乾隆専攻長にお願いして、テーマの提示や学生の発表の様子の見学を用意してもらった。

実質を伴って進めばいいなあ。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



#### 11月4日 マヒドン大学看護学の教員・学生に面会

看護学研究科がさくらサイエンスプログラムを利用してタイの教員の学生を招へいしている。白鷺祭の合間に、佐保先生・大学院生とともに学長室を表敬訪問してくれた。

滞日中のプログラムを聴いたら、専門分野別に病院を訪問しているという。そのため、看護学専攻の先生が分担して対応している。国際交流に一人の教員が負担を感じながら受け入れているのではなく、組織的に対応してくれているのが嬉しい。

学生の服を見ると大学のエンブレムがあった。どうなっているのか外してもらおうとマジックテープで簡易に取りつけ・取り外しができるようになっていたので、私もつけさせてもらった(写真参照)。また、タイシルクのネクタイのお土産をいただいたのですぐ着用した。お礼に通常のグッズに加えて、古着であった(手元にこれしかなかった)が、大学ロゴ入りのTシャツもプレゼントした。

羽曳野キャンパスでも国際交流が着実に進んでいる。そう感じるひとときだった。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



#### 11月5日 白鷺祭の余韻

11月2日、3日、4日の白鷺祭。開会式の前の学長顕彰に始まった。期間中、フランス、インドネシア、タイの来客と面会し、ホームカミングデー行事で鏡割りをし、ビジネスアイデアコンテストで挨拶。その後、チャレンジ君事業採択の国際フェスに呼んでもらって青空の下でトークを楽しんだ。また、妻と合流し、命のメッセージ展に立ち寄った。

それぞれについては、後日、書ければ写真を添えて書こうと思う。体力が落ちているのか、ヒザに余韻が残っている。本日は人間ドックで体を点検し、インフルエンザの予防注射。秋のバラを鑑賞し、休養した。暑い日が続くのを嘆いていたのを昨日のように感じる。猪のように年末がすごい勢いで迫ってきている。



## 11月6日 保護者のための就職・キャリア講演会

何人の参加があるだろう。キャリアサポート室が企画してくれた学生と保護者の集まり。白鷺祭あけの5日時点で、61組99名の参加があるという。ありがたいことだ。今回は、11月23日、場所をI-Site なんばにして、キャンパスから遠くにお住まいの方に参加しやすいように企画した。

卒業生や学生も「自らの経験を語りたい」と手をあげてくれた。どんな話をしてくれるのか、私も今から楽しみだ。私も教え子のことを思い出しながら、府大の教育について改めて考えて整理して、話す予定だ。

■ 第1部  
講演「親子で取組む働きがいの再構築」  
横山 豊一 (学生センター 学生課 キャリアサポート室長)  
日本の企業に20年勤務、MZ世代採用、高品質採用、情報システム部・経営企画部門を経て人事。20年のサラリーマンから人事組織コンサルタントとして独立。2015年より現職。

講演「保護者のための就活セミナー  
～保護者に期待される役割とは～」  
藤原 真史 (株式会社マイナビ 就職情報事業本部 企画広報部企画本部 日本経済新聞)  
2005年、株式会社マイナビ (旧: 毎日コミュニケーションズ) に入社入社。専任キャリアサポート課へ転属。大学生に対するキャリア開発支援、就職支援サービスの開発促進に携わる。東北支社、大阪支社へ異動し、現在は西日本情報部長として西日本の大学へ対する支援を行う。

■ 第2部  
学長講演  
「教え子を見て、府大の教育とキャリア形成を考える」  
辻 洋 (大崎府立大学理事長・学長)  
長崎の研究所に24年間勤務。2002年大崎府立大学工学研究科教授、現代システム科学域現代学域長。2013年、理事・副学長、2015年より現職。

学生合同パネルディスカッション  
『2030年、府大人はイノベーションを創るか?』  
原元 由貴 (デロイトトーマツ コンサルティング 合同会社 OG)  
岸本 祐典 (理学部研究科 生物科学系専攻 博士後期課程 3年生)  
小倉 博博 (工学部研究科 物質・化学系専攻 博士後期課程 3年生)  
津田 隆平 (工学部 物質化学系学類 4年生)  
宮崎 純哉 (現代システム科学域 マネジメント学類 4年生)  
前田 熱輔 (工学部 物質化学系学類 4年生)

## 11月7日 イソップ物語：キツネとツルのご馳走

先日のフランス・ヴァルドワーズ県来訪の時、対応を少し失敗した。悪意があったわけではないが、昼食のお弁当にお箸を用意していたが、ナイフとフォークを用意しておらず、慌てた。職員さんの機転で何とか対応できたが、そのとき、ふとイソップ物語を思い出した。人間の記憶構造は面白い。

私の記憶にあるキツネとツルのご馳走の話は、

-----

キツネがツルに「ご馳走するからいらっしやい」と招待し、やって来たツルにわざと平たい皿に入れたスープを出す。ツルはクチバシが長いので飲めない。それを見ながら狐はおいしそうにスープを飲む。

数日後、ツルはキツネに「先日はご馳走をありがとう、今度は私がご馳走するからいらっしやい」と言って、細長い口の壺に入れた肉を差し出す。キツネはクチバシがないのでそれを食べられない。それを見ながらツルはおいしそうに肉を食べる。

-----

つまり、「意地悪をすると意地悪されるよ。互いに傷つくよ」という教訓だったが、いろいろ調べると、「キツネは、機転を利かして長い菜箸を使って肉を食べた」とか「ツボを逆さにして肉を出して食べた」とかあり、「意地悪されても機転がきけば大丈夫」という教訓もあるようだ。

今回、異文化交流で改めて学んだのは、「意地悪する気がなくても意地悪になりかねないことがある。そのとき、いかに迅速に機転を働かすかが大切だ」ということだ。気づいていなかったり、機転がきかなかったという失敗をきつとたくさんしてきたと思う。気づいたときお互いが指摘しあうのも大切だ。

## 11月8日 学長顕彰(11月2日)

今年度前期の学生団体・個人顕彰を学術交流会館で行った。学長顕彰が団体6組、個人110名、感謝状が団体2組、個人





27名（体力が落ちているのか、これだけの数の方々に続けて賞状を授与すると、ヒザがガクガクになってしまった）。

以前の学長顕彰は、大学院生による研究つまり学会発表の受賞に対して行うものが大半だったが、一年前から、大学院生に限らず学域生が活躍した課外活動に関するものからも積極的に選定している。また、灼熱の炎天下、西日本豪雨被災地にボランティア活動として総社市、三原市に行った方々にも感謝状をお渡した。（いろいろなボランティアをしている学生がいるが、公的機関から大学宛にお礼状などが来た場合に感謝状を出すことにしている）

授与後、学術でも課外活動も顕彰した工学研究科の河田君がトランプ手品（観客の近くで行うクロスアップマジックというらしい）を披露してくれた。すぐ横で見えていたが、話しに吸い込まれたのか、さっぱり訳が分からなかった。先日大学からプレスリリースも行ったが、今月、**Taiwan Magic Association 2018** に日本代表として出場するという。ここでも府大の名前を広めてほしい。



#### 11月9日 白鷺祭の余韻：国際フェスのトークショー

学内の国際交流関係の団体が集まった国際フェス。後援会が支援するチャレンジくん事業に採択されているという。

そのイベントのトークショーではじめての海外というテーマで話した。私が初めて行ったのは33歳の時、米国ピッツバーグへ9か月。5歳、3歳、0歳の子どもを残して単身で出かけた。円が高くなったと言っても一ドル148円だった。

当日のトークでは、運転免許試験での失敗（右に曲がれを、ライトを点けると聞いた）や飛行機の前予約（フライトチケットが欲しいというのを、フライドチキンと聞かれた）を話したが、他にもインド人の夫婦を招待したときにちらし寿司とすき焼きを用意し、「満腹なのですき焼きは食べられません」と言われて、ヒンズー教徒の食習慣を思い出し、冷や汗をかいたこともあった。

失敗しながら学んでいく。そう自分を納得して国際交流を進めている。失敗を恐れていれば、何も進まない。府大生には、失敗を恐れず、世界に翔いてほしい。



#### 11月10日 留学生スピーチコンテスト@I-site なんば 18日（日）

関西大学、大阪市立大学の留学生とともに本学の留学生が日本語で熱弁をふるうスピーチコンテスト。今年が第二回。休日であるが、ぜひ多くの方に応援に駆けつけていただきたい。

本学では、先日、この予選ともいべき弁論大会が白鷺祭期間中にあった。昨年はすべての弁論を聞いたが、今年は時間の都合で挨拶だけ。白鷺祭期間中はあちこちで挨拶するので、ネタに結構困る。弁論



大会では、自分がフランス語で弁論大会に出るなら次のように話すだろうということで、少し誇張気味だが観衆受けするスピーチをした（ちなみに私はフランス語が全くダメです）。

---

府大はフランスとの交流が活発です。ヴァルドワーズ県からは毎年来日され、そのときに挨拶をする機会があります。司会の方はいつも時間進行に気を使っておられるので、なるべく協力しようと思っています。

数年前、何分話すのがいいのか迷いながら、最初3分話しました。すると先方から5分の挨拶がありました。翌年、反省して5分話したところ、先方は10分でした。まだ短かったのかと思い、次の年は10分話したところ、20分の倍返しでした。こんなことではいけないと思い、その次の年は先方に先に話して頂きました。10分だったので、私も10分話したところ、話したりないと私の後に再度10分話されました。最近では、先方が10分話されたときには私は5分で終わるようにしています。これで以後うまく時間調整ができるようになりました。時間進行の感覚が違うという経験で、異文化を学ぶ一例として覚えておいてください。

#### 11月11日 京都賞授賞式

第34回の京都賞の授賞式と晩餐会が京都国際会議場であり、招待され出席した。ノーベル賞の部門と違って、先端技術部門、基礎科学部門、思想・芸術部門があり、情報科学や数理科学も対象となる。

今年は、バイオテクノロジー分野でカールダイセロス博士、数理科学分野で柏原正樹博士、美術分野でジョン・ジョナス氏が受賞した。

授賞式の前は、庭園を出席者が歩いていて、学術関係だけでなく、各国の大使・領事、政治家、会社幹部など多くの有名人に出会う。ある総領事に依頼したいことがあったので探したが、あまりの人数で断念。逆に近くインタビューを依頼されているメディアの方に声をかけられた。

授賞式と晩餐会には、高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）が出席されていた。授賞式では、京都市交響楽団の祝典序曲、奉祝能、聖母学院小学校の受賞賛歌などがあった。式中は撮影禁止だったので、開始前と終了後にパチリ。晩さん会では手打ちの儀、日本舞踊を楽しみながら、出席されていた方々と歓談した。

#### 11月12日 ようこそクアンニン省の皆さん

堺市とベトナム・クアンニン省との環境保全に関する覚書に基づき、10月27日から11月2日に本邦研修が実施され、5名の方が来日した。その合間の28日に本学を訪問され、環境に関する講義や廃棄物有効利用施設などの見学を行った。

クアンニン省にはハロン湾という世界遺産があり、府大はこれまでJICA 草の根技術協力事業で協力関係を築いている。受け入れ責任者の大塚環境教育研究センター長（現代システム科学域長）の長年の想いが詰まった交流事業だ。





11月13日 台湾・淡江大学からの来客

台北の北部にある名門私立大学。私は2回訪問したことがある。この大学とは、化学系で毎年国際シンポジウムを開催している(今年は今月台湾にて)。本学から、中国語や英語の研修を受け入れてもらったりもしている。

王三朗先生は本学農学部出身で日本語が堪能。今回は、研究科学部部長の王伯昌先生、電気工学科の江志雄先生と一緒に植物工場研究センター、BNCT研究センター、生物資源開発研究センターの視察に見え、学長室にも立ち寄って下さった。本学の留学生が、帰国して教鞭をとり、同僚と一緒に訪ねてくれる。こういう関係を大切にしたい。世界に翔く地域の信頼拠点として。



11月14日 インドネシアからの元留学生

先日の留学生弁論大会に先立ち、元留学生が講演をしてくれた。インドネシアボゴール農科大学に勤務している **Vetnizah Juniantito** (愛称チト)先生だ。獣医学を専攻して山手教授のものと学んだという。

母国では、インドネシアから府大に留学した卒業生のネットワークを保ってくれている。元留学生がいつまでも府大のことを覚えていてくれて、Greater OPU を維持してくれていることは嬉しい。ただ、難しいことも事実だし、一度途切れると再構築には多大な労力がかかる。



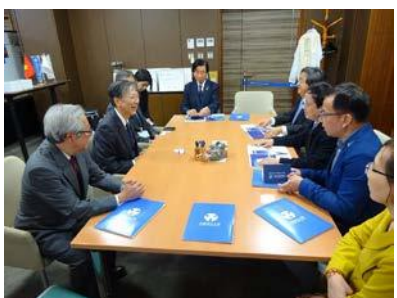
11月15日 国立ダナン大学の前総長(府大OB)・新総長と面談

突然のことだった。12日(月)堺ジャーナルの永吉広次氏から広報に電話が入り、13日(火)にベトナムのダナン大学の幹部が表敬訪問してくださるとのこと。当日は午前、杉本キャンパスで打合せ、午後りんくうキャンパスで会議、その後懇親会の予定もあり、時間を作ることは難しいかもと考えたが、前総長のナム先生は府大工学研究科のOBだ。きっと母校を懐かしく思って予定をやりくりして連絡してくださったのだろう。当方もなんとか30分時間をつくって、お会いした。

新総長の NGUYEN NGOC VU 先生からは、技術関係で協力関係を継続したいとの意向が示された。私からは、新分野としてリハビリテーション関係での可能性を打診した。時間が限られていたので、詳細の意見交換はできなかったが、今後に期待したい。

なお、ダナン市と堺市は、現在、日越堺友好協会 会長の 加藤均氏のアレンジで姉妹都市協定の締結に向けて議論しているという。

このところ続いて、府大留学生OBから連絡を頂き、訪問を受けている。学長 facebook を見てくださっているという。情報発信が、Greater OPU の構築の触媒になっていれば嬉しい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。」



11月16日 NanoSquire 意見交換会（懇親会）にて

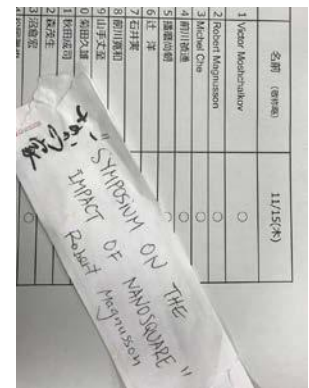
テニュアトラック普及・定着事業として、地域の大学からナノ科学・材料人材育成拠点を構築している。

これまで文科省から、10年で10億円規模、当初2億円規模の支援を受けた大規模プログラムだ。国内外の方に評価委員会になっていただき、厳しい審査をしていただいている。石田武和名誉教授が長年手塩にかけて育てたプロジェクトであり、人材であり、大学としても誇りにしている。プロジェクトの中間評価でも最終評価でも最高レベルのSを受けた。

多くの人材を育成してきたが、今年を一つの区切りにすることにしている。昨年の評価委員会の後の懇親会では、「こんな素晴らしいプログラムをやめるのか」と海外の委員から2時間責められた（その夜から発熱した）。そして、記念のワークショップを開くように割りばしの袋にかかれた。私は一年間それを忘れず持っていた。

昨日、今年度の懇親会があった。昨年のことがあったので、委員の方々からまた責められるのでないかと参加に対して腰が重かったが、このメモを持参して出かけた（話が長くなるが、ツルノタマゴもお土産に）。

今年は、「長年（11年の方がお二人）にわたって、こういういいプログラムの評価委員であったことを誇りに思う」と言っていたのでほっとした。批判されることもあれば感謝されることもある。できないことには誠意をもって説明し、できることには全力で取り組むことが大切だと改めて思う。

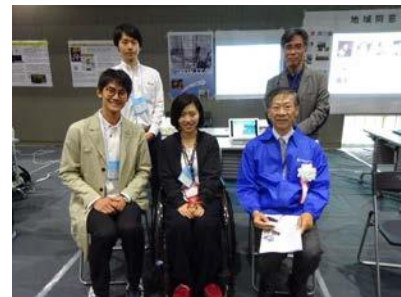


11月17日 それゆっけ！ゆき隊

本学で学び作業療法士の国家資格を取得し、そして今はパラスイマーとして東京パラリンピックをめざす大向優貴さん。本学在学中にプールの飛込みで失敗し、頸髄損傷となる。約2年間病院や施設でリハビリをし、その一環としてもう一度水泳を始めた。

大学にも戻り、周りの支援も得て、無事卒業し、作業療法士の資格を取得。民間会社のシステム室で働きながらパラリンピックを目指している。

先日のホームカミングデーに来てくれた。多くの人に支援をお願いしている。



11月18日 当面の予定

21日 ニューメキシコ大学 Lee 先生面会（経済学研究科）

東洋経済新報社取材（中国大学関係）

新大学推進会議@あべの

22日 全員広報宣言：職員サポーターミーティング

23日 保護者のための就職・キャリア講演会 'I-site なんば

28日 ヘキサケミカルカンファレンス@I-site なんば、チームラボ人事担当者面会

28日-29日 日中台三か国機械系シンポジウム@交流会館



- 30日 返仁会@千里ライフサイエンスセンター  
12月1日 研究室OB結婚式@東京  
3日 さくらサイエンスで台湾師範大来室  
消費力育成セミナー最終日  
4日 意外にあるねん！府大創薬！@虎ノ門ツインビル（写真）  
10日 さくらサイエンスプランでラオス国家大学、スファノボン大学来室

11月19日 相手にあわせる大切さ

先週の土曜日結婚式に招待され、祝辞を述べた。新郎は経営者で新婦は大学教員。どんな話をしようかと一か月ぐらい思案していた。

先日、書いたイソップ物語。キツネとツルの話の教訓を調べようと図書館で借用すると、この話が表紙になっていることが多いことに気づいた。代表作なのだろう。



私の記憶は、「意地悪をしたら意地悪を仕返しされる」というものでたぶん、両親がそのように私に教えていたのだろう。ネットで調べたら、「キツネが知恵で意地悪を回避した」という物語になっていた。もともと語られた話を本にまとめたものなのでいろいろな解釈が付け加えられたのかもしれない。

借用した本では、「みんなで食事をするとき、学者が難しい話をはじめたら、それが分からない人はとても退屈する。また、ばかげた話が好きな人がそれをはじめたら、しらける人が出てしまい、食事がまずくなる」という教訓だという。

「そうだ。これを使おう」。新郎・新婦には競争の激しい社会で、経営・研究と集中しなければならないのだから、「食事の時には、相手にあわせる大切さを」という祝辞を送った。

ちなみにイソップ童話は2500年まえに作られたもので、日本には1593年に訳本が刊行されているという。深い思想というより、生きるためのルールを動物などの力を得て教えているところが面白い。

11月20日 白鷺祭の余韻

少し合間ができた。ホームカミングデーのウェルカムパーティ（4日）では、本学の植物工場の新鮮な野菜での料理がたくさん出されていた。

夜の会食で学外の方とお会いするときには、よくお土産として持っていく。結構喜んでもらえる。大阪堺植物工場（通称：OSP）のブランド野菜「府大マルシェ」

<http://www.fudai-marche.com/>

人工光型なので、地下でも栽培できる。水を循環しているのだから、砂漠でも栽培できる。電気代がかかるので、エネルギー代が安いところだと普及すると期待される。

産学連携の進化という視点からは、（1）ある会社のある製品に貢献する、（2）会社を起業する（大学発ベンチャー）、（3）産業を興す。植物工場は、コンソーシアムを作っているいろいろな業種の方に参加してもらって、一つの産業を興すパイロットプログラムとしても発展を期している。



#### 11月21日 つばさ基金へのご協力をお願い

早いもので今年も残り40日。ふるさと納税制度を用いたつばさ基金のお願いに力を入れる季節となった。

9月分までの集計によると、ありがたいことに卒業生からは件数で134%、保護者の方からの件数は142%と毎年増えている。一方で非常に残念なことに教職員からは67.6%と停滞している。

この制度は大阪府の好意により実現できているもので、確定申告をすれば次年度の住民税が軽減され、実質2000円の寄付で高額の大学支援ができるものだ。利便性を向上するために、クレジットカードでも支払えるようにした。

私は、同窓会に招かれたり、保護者の方に話す機会があれば、ご協力のお願いをしているが、少しでも支援を輪が広がるように教職員全員で行動をしてほしい。ゼミや研究室の卒業生にお願いしたり、指導しているクラブのOB・OGにもこのような制度があることを紹介してほしい。

これから年末にかけて繰り返しお願いしていく予定だ。ボート部は、ご寄付で新艇を購入し、成績をあげ、国体選手を輩出したほか、オリンピック候補者も出している。



#### 11月22日 大学運営とふるさと納税

国公立大学の運営はもちろん、私立大学の運営にも税金が投入されている。本学の場合、大阪府から運営費交付金として渡され、全予算の50%程度を占める。

報道でも再三書かれているがこの運営費交付金が年々削減され、基礎研究やニッチな研究を進めるのが難しくなっている。また、個々の教員の授業や入試業務の負担が大きくなり、研究時間が減っている。

法人化直後の2005年に127億円だった交付金が、2018年度には101億円に削減されている。少子高齢化や、インフラの老朽化、災害対策の強化など自治体の支出構造が変わっているのだろう。

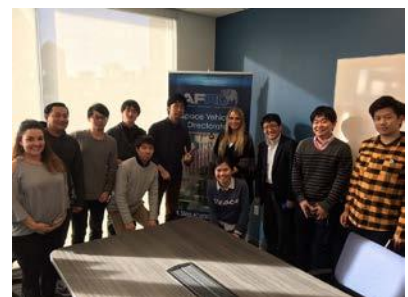
この削減にあたり、大阪府の好意で、ふるさと納税で大学の寄付の募れるような制度を創った。「つばさ基金」だ。納税者が自分の負担する税の用途を決められるもので、「大阪府立大学の教育・研究・地域貢献・学生活動に自分の納税を使ってほしい」という方に宣言してもらうものだ。寄付という形だが、当年の所得税に加え、翌年の住民税が減税になるので、実質、2000円の負担で多額の支援ができる。

教職員が800名、在学生在が8000名、卒業生が8万人。共同研究先、公開講座の受講生、……。少しでも多くの方に制度の趣旨を理解して頂き、大学の説明責任を果すことにより支援をお願いしたいと思っている。注) 写真は、支援を受けている獣医学教育活動。



#### 11月23日 ふるさと納税の可能額

つばさ基金への寄付として、自己負担2,000円(必須)となる寄附上限額の目安については、簡単に計算できる。ぜひ、試してほしい。



注) リーディング大学院 SiMS への支援も多数頂いています。引き続きよろしく申し上げます。  
博士課程教育リーディングプログラム「システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム (SiMS)」(文科省支援事業：平成 25 年度採択)

本プログラムは各大学の強みを核に、国内外の大学や研究機関・民間企業等と連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した 5 年一貫の博士課程学位プログラムです。「高度研究型大学—世界に翔く(はばたく)地域の信頼拠点」の実現に向け、産業界の第一線を牽引できる高度研究リーダーを育成することを目的に現在総勢 60 名近い選ばれた若者が明日の研究リーダーを目指して日々切磋琢磨して活動しております。是非、明日を担う若者へのご支援をよろしくお願いいたします。

#### 11 月 24 日 【祝 2025 年万博の日本(大阪)開催決定】

これまで大阪府立大学でも白鷺祭や友好祭などで誘致署名活動、万博誘致ロゴを名刺に印刷など様々な連携を通じて応援してきたこともあり、非常に嬉しく思います。

前回の 1970 年大阪万博では、携帯電話など高度経済成長期の中で「生活を豊かにする新しいもの」を展示していましたが、今回は「持続可能な社会・経済システムを創ること」が大きなテーマになります。

本学では持続可能な社会の実現を牽引する人材を育成しようと、2012 年より学域・学類制を導入し、複数の学問分野を融合させてそれらの「つながり」を学ぶ「現代システム学域」を設置しています。これは「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博のテーマを、具体化した学域であると言えます。そういった点もあり、今後の万博開催準備に本学の研究教育が貢献できれば嬉しいと考えております。

食べ物がみんなに行き渡る、エネルギーが供給されるとともに環境が永続的に保たれる、そういった示唆を多く含み、大阪だけではなく日本全国、更には海外の方々にも声をかけて、持続ある社会を創っていく、ということをもみんなで考える万博にしていきたいなと思います。この度はおめでとうございました。

#### 11 月 25 日 入試関係で二つの情報

一つ目は、2019 年度学生募集要項(一般入試)を公開。今年度から一般入試ではインターネット出願を導入し、紙媒体での発行は廃止する。電子版(PDF)を本学 Web サイトに掲載した。

二つ目は、2021 年度入試の予告第二報(一般選抜の教科と科目)。今後は次を予定している。

・2019 年 3 月頃に「英語認定試験の活用方法」、「大学入学共通テストの記述式の評価の活用方法」を公表。

・調査書等の活用方法については、検討中であり、内容が決まり次第公表。

・総合型選抜、学校推薦型選抜については、次年度以降に順次公表。



11月26日 ニューメキシコ州立大学 Yu-Feng Lee 教授

ゲストプロフェッサ制度を利用して、経済学研究科が招へいしている Lee 教授が滞在中の感想とともに今後の協力関係について話に来てくださった。彼女は、今年3月に I-site なんばで開催された国際研究集会に参加されており、そのときにお会いし、その縁が契機に今回の招へいに繋がっている。

毎年、学生10人前後を海外スタディツアーに引率されており、今後は府大も候補にさせていただくことにした。5月～6月にかけて、別の米国大学（エンブリー・リドル航空大学）のツアーを受け入れたことを紹介すると、「ぜひ具体化したい」と極めて前向きだったので、今後は楽しみだ。



11月27日 (祝) 内閣府特命担当大臣表彰受賞

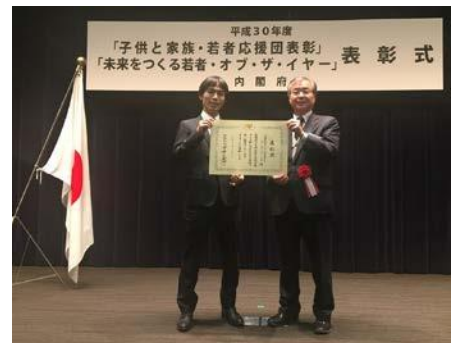
ボランティア・市民活動センターV-stationが、平成30年度「子供と家族・若者応援団表彰」を受賞した。選出理由は、

(1) 学生(若者)の自己発見、市民性の育成の機会を提供すると共に、地域の課題解決とより良い社会の実現をめざすことで大学の社会貢献を推進する拠点を担っている。

(2) 学生が活動主体として事業に取り組み、その過程において地域団体とのコラボレーションを行い、そして数年にわたり活動を持続させることによって、大学を拠点にした若者と地域との交流・創造の文化を形成している。

私がボランティアというのを意識したのはいつだろう？定かではないが、カンボジアの総選挙(1993年)で国連ボランティアとして従事していて殺害された中田厚仁さんのような気がする。そのとき、「いつかカンボジアの発展に少しでも・・・」と思った。次に意識したのは、阪神淡路大震災の時(1995年)。被災した同僚に差し入れをもって自転車で神戸まで出かけた時に、国道2号線を歩いてボランティアに向かう人を見た時。

大学が、いろいろな学びの「場」を提供する。V-Stationもその有力な「場」だと思っている。それだけに今回の受賞は嬉しい。世界に翔く地域の信頼拠点として。



11月28日 つばさ基金申し込みの画面

大阪府が用意してくれているふるさと納税制度については、次のリンク先に説明がある。大学が広報活動など説明責任を果たし(全員広報宣言を出している)、住民の方に理解を得て、税金の使途として「大学の支援」と指定してもらおう制度だ。大阪府民でも大阪府民以外の方でも利用できる。

「大阪府の方が大阪府にふるさと納税する」は奇異に感じるかもしれないが、「使途を指定できる」ということがポイントだ。大学関係者や卒業生をはじめ、保護者の方、大阪府立大学にゆかりのある方、がんば





る大阪府立大学を応援したいと思っておられる方、ぜひ、寄附（税金の使途として大学の支援と宣言する）をお願いします。12月末に向けて、ご検討頂きたい。

11月29日 「世界は広く、人々は近い」グローバルな看護OG

昨年の東京同窓会でお会いした下田さん。そのとき、国際看護師をされていて、インドやタンザニアに行かれたと聞いた。ぜひ、本学の学生に彼女のキャリアを紹介したかった。

その記事が MICHITAKE に掲載された。やりたいことを見つけた時、それができるまでに数日でできることもあれば、数年かかることもあれば、生涯をかけてできるかどうかということもある。

やりたいことを見つけた人にその一助となる教育プログラムを提供する。提供できていると言われる。提供後、確かに良かったと思われる。このような大学にしたい。

そして、そういう大学を目指していることを「全員広報」で伝えていきたい。お忙しい中、原稿を執筆いただき感謝している。看護学以外を学んでいる学生もぜひ一読してほしい。



11月30日 ふるさと納税で府大ねこ適正管理

現在中百舌鳥キャンパスには、150匹以上の猫が生息しているという。個体数が多くなり、建物や実験施設への侵入、鳴き声、糞尿による被害が多発してきた。

学生団体ひと☆ねこ部ではトラブルの防止を目的に活動していて、200万円目標にふるさと納税で資金を集めている。

彼らからのメッセージも引用しておく。

「11月26日現在、つばさ基金等を利用して、中百舌鳥キャンパス内の飼い主のいない猫11頭の不妊去勢手術を完了しました。今年度は、80頭に不妊去勢手術を行う予定ですが、まだまだ資金が足りない状況です。皆様のご協力をお願い申し上げます。」



## 12月1日 グラウンドの補修をふるさと納税で

ホームカミングデーを手伝ってくれた硬式野球部の部員のコメント。

グラウンドの状況は、水はけが悪く、また草を抜いても抜いても生えてきていて緑地化が進んでいるなど非常に劣悪です。硬式野球部では諸先輩にもつばさ基金による寄附を募っていますが、グラウンドの改修に向けて更なるご協力をお願いいたします。

ふるさと納税による大学への寄付は、大阪府民でも大阪府民以外の方でも利用できる。

「このようなことをせずとも、大阪府が大学に無条件に運営費を交付してくれると・・・」という想いもあるが、一方で大学の実情を広く公表（説明）し、理解を得て税金を使うという姿勢も大切にしたい。運動部関係の保護者や卒業生には、ぜひ、寄附（税金の使途としてグラウンドの補修と宣言する）をお願いする。



## 12月2日 池上彰氏と話す機会（@日経ホール）

日経新聞社主催の大学改革シンポジウムというのが毎年開催されていて、来年早々の1月11日「企業人の経験をいかす」という場に招待された。

著名な北大の名和豊春総長、立命館アジア太平洋大の出口治明学長と一緒に出演でとても光栄なことだ。そして、モデレータ兼パネリストは、あの池上彰氏。楽しみな一方で、すでに緊張している。

与えられた時間で何を話すのが一番よいか、1978年から24年間の民間勤務、2002年からの17年間の大学勤務、2015年から4年間の学長経験を総括するつもりで、よく頭を整理して臨みたい。平日ではあるが、東京周辺に勤務している教え子にも来てもらいたいと思っている。

大学改革シンポジウム  
企業人の経験をいかす  
日時 2019年1月11日(金) 13:00~16:00  
会場 日経ホール 東京都千代田区大手町1-2-7  
開催概要 講演者紹介 参加申込  
大学は新しい入試制度への対応、学部・学科の再編や学生の支援体制の見直し、経営の効率化など様々な改革を打ち出してきました。背景にあるのは少子化とグローバル化です。そして、18歳人口が再び減り始める段階に直面し、生き残りへの取り組みの成果が



パネル討論  
「企業人の経験をいかす」  
〈パネリスト〉  
大阪府立大学 理事長・学長  
辻洋氏  
立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長  
出口治明氏  
北海道大学 総長  
名和豊春氏  
〈モデレーター兼パネリスト〉  
ジャーナリスト・東京工業大学 特命教授  
池上彰氏  
14:15-16:00



## 12月3日 グローバル研究交流支援制度

国際的な研究活動を活性化するため、学術交流協定締結校など海外大学等研究機関と本学が（個人レベルではなく）組織として実施する研究交流の行事を支援する制度をつかった。

この制度を利用した機械系のシンポジウムが、台湾海洋大学、福州大学と共催で、開催された。用意した冊子が不足し慌てて増刷したというぐらい活況だったそうだ。私は、懇親会で挨拶だけさせてもらった。教職協働（これが大切）で準備・運営にあたった関係者に感謝したい。



支援内容の概略は次の2種類ありぜひ活用してほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

- (1) 2以上の海外大学等研究機関を含む研究交流事業（規模は、主催者を含む参加予定者が概ね100名以上かつ海外からの参加者が30%以上のもの）
- (2) 海外の大学等研究機関を含む研究交流事業のうち(1)以外のもの（規模は、主催者を含む参加予定者が概ね50名以上かつ海外からの参加者が20%程度以上のもの）

組織間の国際交流をしてほしいという想いは懇親会の挨拶の一部で次のように触れた。

Finally but most important is to collaborate scientific research and students exchange. There is variety of international collaboration. I think the first step may be P2P (person-to-person collaboration). The second step should be G2G (group to group) collaboration. The third step is O2O (Organization to Organization) collaboration. However, O2O is not enough, I think. The fourth step should be sustainable (or repeated) greater O2O collaboration.

To make sustainable greater O2O collaboration, we will enjoy food, drink and chat. Let's have pleasant time.



## 12月4日 データでみる本学

大学だけでなく、高専、それら二つを束ねる法人の各種活動のデータを公開している。2006年度から冊子にしているのでかなり溜まってきている。

Webサイトにおいてあるので、いつでもどこでもアクセスできるといえばそうだが、外部の方と会ったときに立ち話でデータを紹介したいこともある。前回ハガキサイズのものを作ってもらったが、名刺サイズのものも作ってもらった。一度データを集めておけば、他大学と比較したり時系列的に分析したり組織ごとと比較したりして、強みや弱みを分析することができる。その結果で意思決定し行動に移すことが大切だ。集めただけで終わらぬように注意したい。

## 12月5日 台湾師範大学の教員・学生と面談

理学系研究科分子科学専攻の松坂教授が招へいた11名（内教員1名）が学長室に来てくれた（3日）。さくらサイエンスプログラム





を利用したもので、府大生とグループディスカッション、学内先端研究施設の見学、大阪市立科学館の見学などを実施するという。

双方にとって、刺激のある一週間になることだろう。

元々教員養成を主とした大学だが、今では、学部 8000 名、大学院 7000 名と研究型総合大学として発展している。

12月6日 英仏にトビタテ留学 JAPAN で留学した二人の話  
一年間、ヨーロッパに留学していた工学研究科の森岡優一さんと現代システム科学域の森本優子さんが、留学の様子を報告に来てくれた。

森岡君は、データサイエンスをフランスの大学院大学 EISTI で学び、ダブル学位の取得を目指す。このダブル学位はフランス側学生が既に多く取得していて、府大側は二人目。授業は英語で、多くは演習だったそうだ。アパートは交換留学で府大に来ていた学生から推薦されたところに住み、買い物は英語。鉄道のストライキで困った話などを聴き、日本でも以前は国鉄・私鉄さらには大学にもストライキがあったことを話した。

森本さんは、英国の INTO University of Exeter で学び、キッチンだけシェアし、バス・トイレは個別のところに住んだという。文科省公認のトビタテ留学 JAPAN ブランドマネージャという肩書を持ち、今後留学する人を応援してくれる。さらに、後援会のチャレンジ事業に採択になり、企画好きだ。授業は、留学生のために授業前後に補習があり、すべての講義が録画されているので、後で聞きなおすこともできたという。それぐらいしないと留学生は増えないし、教育の質を担保できないということだろう。

二人には、後輩へのメッセージを書いてもらった。楽しいお土産話をありがとう。

12月7日 ベトナム国家大学ホーチミン校より来校

現代システム科学域の興津教授がさくらサイエンスプログラムを利用して招へいたベトナム国家大学ホーチミン校の教員と学生に面会した。To Hti Hien 先生は府大 OG で何度も来日して顔を出して下さる旧知の仲だ。27日に来日し、京阪地区の企業や学術施設（私の大好きな琵琶湖博物館も）を視察するという。



ここで何度も紹介しているが、アジアの大学からさくらサイエンスプランで招へいすることを推進している。府大の学生が彼らと交流して、「自分も海外のことを知ろう」と思って、短期でも長期でもいいので留学を考えてくれることを願っている。世界に翔く地域の信頼拠点として。

#### 12月8日 当面の予定

紅葉の季節もあつというまに過ぎて師走に。先生方には、時間に追われるあまり、走ってこけることがないようにご注意を。

12月10日 ラオス国家大学・スファノボン大学から大学生8名、教員2名面会（現代システム科学関係：さくらサイエンス）

同日 シンガポール国立大学学生2名面会（理学系関係：ASEANウィーク）

- |                                   |                |
|-----------------------------------|----------------|
| 11日 教育研究会議ほか                      | 12日 府庁         |
| 13日 グアム大学教員面会（経済学研究科関係：ゲストプロフェッサ） |                |
| 17日 新大学推進会議（教育組織他）                | 18日 事務幹部会忘年会   |
| 19日 理学系研究科、工学研究科忘年会               | 20日 文科省出向職員報告会 |
| 25日 経営会議                          | 26日 新法人設立準備会議  |
| 1月7日 年頭挨拶                         | 9日 陵友会新年会      |
| 11日 日経大学改革シンポジウム                  | 同日 霞が関同窓会      |
| 15日 教育研究会議                        | 17日 九工大経営協議会   |
| 19日ー20日 センター試験                    |                |



#### 12月9日 大学のロゴ

海外の来客があると、ロゴのモチーフを説明する。ご存知の方もおおいと思うが、2005年に大阪府立大学(旧)、大阪女子大学、大阪府立看護大学の府立3大学が統合、法人化され「公立大学法人大阪府立大学」およびその法人が設置する現在の「大阪府立大学」がスタートすることを機にデザインを公募。応募総数566点の作品の中から選考し、2005年の開学にあわせ制定した。

大阪の木である「いちょう」をモチーフに、3枚のいちょうの葉には歴史ある3大学の伝統を引き継ぎ、発展する姿をイメージさせている。また、スクールカラーは、「知」の創造拠点を目指し飛躍する大学として、はつらつとしたイメージを感じさせる「ウルトラマリンブルー」。

利用には許可があるので、申請をお願いする。来年4月に発足する新法人のロゴは近く発表するが、大学のロゴは、来年度以降も引き続き同じだ。



12月10日 失敗から学ぶ、対処する

図書館広報誌に「アウリオン」がある。そこに「本と私」というコーナーがあり、執筆を依頼された。どの本にするか迷ったが、畑村洋太郎先生の「失敗学のすすめ」について書いた。



-----  
もう20年以上前のことである。前職時代に当時東京大学教授だった著者から「機械設計時における思考を計算機で表現できないか」という声をかけていただいた。その縁で、先生の研究室の熱海合宿（OB含め数十人参加していたと記憶する）に参加し、失敗をいかしながら設計する大切さについての活発な議論を聴き、情報システム化の検討を行った。先生の主張は、「失敗とつきあうことで創造的な設計ができるので、その知識を蓄積すれば、設計者の支援システムが実現できる」ということだった。

本書は、先生がその後、失敗を学問化の前段としてまとめられたもの（今では失敗学会がある）。よい失敗、悪い失敗があるとか、失敗は成長するとか、予測できるとか、失敗の分類と特徴についての分析は興味深い。失敗情報はなぜ隠れたがるのか、失敗原因はなぜ変わりがたがるかとかなどの考察は、「なるほど」と共感する。

著者は、機械設計からの知見をもとに企業の不祥事や事故の続発にも警鐘をならし、その原因は、「失敗に対してきちんと対処してこなかったからだ」と言い切っている。

ところで、図書館には目的をもって本を探しに行くというより、目的もなく気分転換として本を見るために行くことが多い。今では個人情報として過去の貸し出し記録を見ることはできないが、私の若いころは、「誰がいつ借りていたか」が本の中にカードとして入れられていた。「あっ、あの人もこの人もこんな前に読んでいたんだ」となった。懐かしい限りだ。（まちライブラリにはこの考え方が残っている）

今ではインターネットでいろいろなものを調べられるが、新たな気づきは図書館の方が起こりやすいように思う。気づきを求めて気分転換にも図書館に行こう！

12月11日 朝日デジタルを通じた広報

昨日、図書館広報誌アウリオンの記事を紹介する中でふと思い出した。そういえば、朝日デジタルと河合塾が監修する「ひらく日本の大学」に本学の紹介をしたはずだ。

調べたところ下記にある。受験生向けに印刷したものも配布しているが、本学を志望してくれる学生に届いているだろうか？ <http://www.asahi.com/ad/hiraku/>

在学生の声として、初年次ゼミ、留学、副専攻、リーディング大学院の記事もある。そのなかで、環境システム学類 甲斐田慶乃さんが「保護者のためのオープンキャンパス」で語ってくれた動画は、OPUチャンネルで放映している。



12月12日 ラオスからの来訪者(10日)

今年3組目になるラオスからの来訪者。さくらサイエンスプ



ランを利用してスファノボン大学（6名）とラオス国家大学（4名）が大学での学習や近隣の企業や学術施設などを視察する。

今回の受け入れは現代システム科学域の竹中教授と前田名誉教授。引率の Salitxay 講師は本学で学位を取得している。ラオスには一度も行ったことがないので、機会があれば訪問してみたいと思っている。



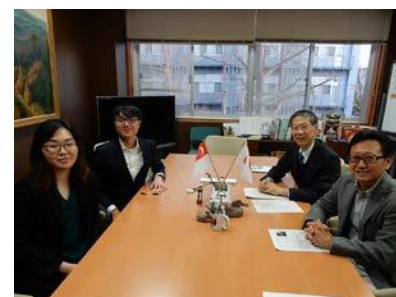
#### 12月13日 シンガポールからの来訪者（10日）

堺市がアセアンウィーク事業として理工系学生を招へいしているプログラムで二人の学生が来てくれた。理学系研究科の藤井教授のもとで交流する。多数の応募者のなかから選抜された二人で、二人とも上手に日本で自己紹介してくれた。



一人は化学を専攻して犯罪科学を副専攻で取得していて、将来、科学捜査にあたりたいという。キャリアの目標をもって学業にいそむるのは素晴らしいと思う。もう一人は創薬。薬物使用の周辺法律も学んでいるという。異分野融合でキャリアを考えている。

二人の話を聞いていて、将来のキャリアには異分野融合が必要とよく理解し、そのキャリアのために今何を学ぶかを考えているという印象をもった。こういう姿勢が大切だろう。



#### 12月14日 お詫び

誠に申し訳ない事故を本学獣医臨床センターで起こしてしまいました。

内部調査と死亡後の検査結果から、麻酔管理ミスによる肺の破綻が原因でした。私にも以前、愛犬がいました。17年間一緒に暮らし、亡くなった時には、老衰が原因でしたが、そのショックはととも大きいものでした。飼い主様のお気持ちを察するといたたまれません。このような事態を起こしたことを、飼い主様とご家族に心から深くお詫び申し上げます。

本日の大学の理事・副学長ほか幹部が出席する会議にて事故を報告し黙とうするとともに、大学のホームページにて情報を公開しました。速やかに外部委員を含めた調査委員会を設置し、技術的な原因だけでなく動機的な事故原因を究明させ、このような事故を二度と起こさないよう、再発防止策を作成し実施します。その結果は、整い次第、本学の公式ホームページで公開いたします。

誠に申し訳ございませんでした。

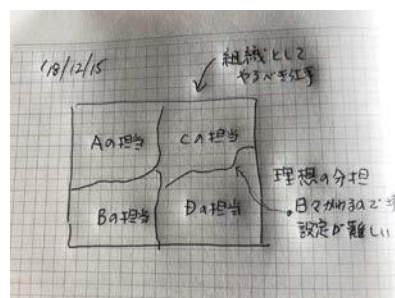
P S：もし、この原稿に「いいね」ボタンを押す場合は「本学関係者として申し訳ない」「飼い主様にお見舞い申し上げます」という意味でお願いします。

#### 12月15日 バングラディッシュ、インド、中国からの来訪者

工学研究科の黄瀬浩一教授の研究室に滞在している交換教員、交換学生が、阪大に滞在しているバングラディッシュ教員と一緒に来訪してくれた。さくらサイエンスの共同研究活動コース（3週間滞在が可能）により招へいたものだ。これまでの招へいが科学技術体験コース（1週間滞在が可

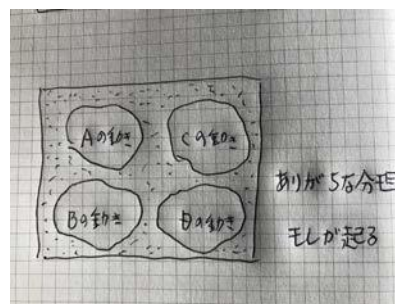
能) だったのに対し、受け入れ側の負担感が増えるが、黄瀬先生によると「彼らのパフォーマンスは極めて高いので今後も継続したい」ということだ。

これまで現代システム科学域を中心に応募していたプログラムだが、工学、理学系、生命環境科学の大学院で共同研究活動コースへの応募が増えることを期待したい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

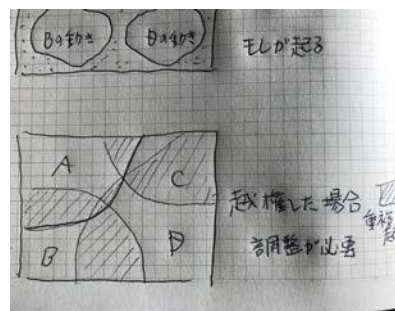


### 12月16日 越権のすすめ

ここ数か月越境ということを考えている。狭義には国境、広くにはある境界を超えることだ。専門分野を超えるというのも越境だろうし、今の仕事の殻を破るのも越境だろう。これについては後日書きたい。



越境を考えているとき、ある方の投稿に「越権のすすめ」というのがあった。経営に限らず、スポーツであっても学園祭の準備でもこういう考え方が必要ではなかろうか。ポンチ絵を描いてみた（以前は研究ノートにこんな絵をよく書いていた）。



ある目的を達成するため分担する。その境界を定義（文書化）することは難しい。境界がTPO（時、場所、場合）に応じて変化することもある。それぞれが守りに入る（自分の分担を小さく囲む）と隙間ができる。それは弱い組織だ。攻めに入る（分担を大きくする）と越権になるかもしれないがモレがなくなる。その時には、悪い場合は衝突が起きるので、調整が必要となる。組織としてやるべき仕事（図の長方形）が広がるかもしれない。新しい仕事（別の長方形）が見つかるかもしれない。



描いてみるとどうってことのない絵だが、なぜか今日は、越権を進めたい、薦めたい、奨めたいと思った。



### 12月17日 ご寄付の使途（実績報告）

府大・高専にご寄付頂いたものについては、毎年度報告を出している。昨年度については、ここに掲載している。

国際交流の支援には、336万円、教育研究には、5600万円、クラブ活動には705万円。リンク先のPDFにはクラブ別の明細（例えば、アメフト部に118万円）も公開している。国際交流の支援を受けた学生には必ず報告書を提出させている。

12月末の目前にして、もう一度、ふるさと納税を用いたつばさ基金へのご寄付をご検討いただきたいし、周辺への働きかけをお願いしたい。

## 12月18日 先を見通す大切さ

未来のことはわからないので、対象を単純化したうえで、いくつかの仮説を立てて、シナリオを描いていく。単純化することをモデル化といい、そのモデルでシナリオを描くことをシミュレーションという。システム工学分野では大切な考え方だ。

年明けに池上彰さんとのパネル討論があるので、事前勉強として改めていくつかの著作を読んでいる。その中に「見通す力」というのがあった。情報収集、仮設立案、仮説検証で見通す力を鍛えることができるという。池上さんが見通した事例も紹介されている。

さて、本学では、一年後、二年後、三年後どのようになっているだろうか。来春、大阪市大と法人統合する。その三年後目途に大学統合する準備を求められている。統合の一年前には大学設置申請を文科省に提出する。入試科目は来年の夏には公表しないと受験生に迷惑をかける。教員の年齢はどうなるだろう。新大学が完成するまで在職するだろうか。自分の立場はどうなるだろう。キャンパスは間に合うだろうか。

今のことを考えるだけでなく、先を見通す力が大切だ。先を見通したうえで行動する力もいる。このような力をどうやってつけるか??それぞれの立場で考えてほしい。



## 12月19日 あみだくじ人生と越境のすすめ

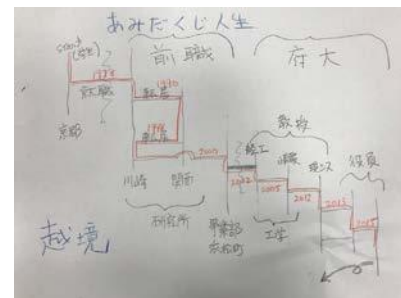
先日人生のあみだくじについて書いていたが、その後、池上彰氏との対談を控え、「知の越境法」という本を読んだ。

越境は、国境を超えることだけでなく、専門分野の枠や殻を破ったり、働く場所を変えてみるのも越境だという。そして、越境するのは、自らの意思で超えることもあれば、他力で超えることもあるという。

あみだくじの横棒を越境と考えると自分を振り返ることができる。横棒をひくのは、自ら決断する就職や離職と、所属する組織の事情など他力で所属部署を異動したり転勤することだろう。

池上氏は、左遷と感じて越境したこともあるが、それを「新しい出会いがある」と理解し活かすべきだし、活かすことができると書かれている。また、自ら越境することを勧められる。これにはそれなりのエネルギーが必要だ。どちらも共感するところがある。

週末、時間を見つけて頭を整理して、図を描いてみた。自ら決断したところもあれば、説得されて受けたところもあれば、強引に境界を越えさせられたところもあった。はてさて、65歳となった現在、次の越境をどうしたものか。



## 12月20日 多額のご寄付に感謝状（12日午後）

本学の獣医学の教育・研究の支援に、加藤元氏より多額のご寄付を頂いたので、感謝状をお渡ししました。ありがとうございます。加藤氏は、動物病院を経営される一方で、北大やコロラド大で客員教授をつとめておられ、長年にわたって、グローバルに活躍されている。最近、北大にアンバサダーという制度ができていて、そこにも紹介されている。こういう制度は、ぜひ参考にしたい。



なお、当日、Zoobiquity という新しい造語について教えてもらった。「種を超えた医学」ということで、獣医学、医学さらには理学、工学、生命科学が協力して、Translational Research を目指したものだ。Zoo と Ubiquitus から来ている。異分野融合の一つのキーワードになるだろう。  
<http://www.zoobiquity.com>/Zoobiquity uses comparative medicine as a contemporary translational science, bringing knowledge from veterinary and evolutionary medicine to the human bedside. It expands the field of comparative medicine in several key ways.

#### 12月21日 アフリカからのゲストプロフェッサーに面会

14日（金）、生命環境科学研究科の乾隆教授が招へいされた Dr. Bruno Kilunga Kubata 博士に面会した。コンゴ共和国出身で、ルーマニアで発酵学を学び、岐阜大学で農学博士を取得。その後、企業や大阪バイオサイエンス研究所で勤められており、イギリスで経営学修士を取得されている。実に様々な国を渡り歩いておられ、関西弁はとてもお上手。



一時間お話を聞いただけでも、そのスケールの大きさを感ずる。年齢は私に近く、上の二人のお子さんは米国で活躍中。三番目のお子さんは日本生まれで、今でもケニアのご自宅では日本語で会話されているという。将来は、コンゴ共和国に 5000ha（中百舌鳥キャンパスの 100 倍）の農園でヤシを育て、バイオエネルギーを生産される計画とか。多くの学生が彼と交流して刺激を受けたことだろう。

#### 12月22日 グラム大学からゲストプロフェッサー（13日）

12月5日の週は、ラオス、シンガポール、インド、バングラディッシュ、中国、ケニア、米国と来訪者が相次いだ。そのため同じような写真が続かぬようしていたので、投稿がかなり遅くなった。

経済学研究科・現代システム科学域マネジメント学類の辻峰男教授が招へいしたグラム大学の Schumann 教授。ご母堂が日本人ということだが、ほとんど日本語は話されない。今年3月 I-site なんばで開催した国際会議に見えていて、そのきっかけで今回の招へいにつながっている。残留日本兵の横井庄一さんの思い出話など環太平洋の戦史や現在の安全保障の話などもした。

ゲストプロフェッサー制度は理学系研究科がはじめたもの。それを全学に広めて今に至っている。来年度からは、招へい対象者に本学の留学生 OB も含める方向だ。

個人が行っていたことをその方の所属する組織のプログラムにする。一つの組織で有効と確認したプログラムを全学に広める。全学に広めて定着したプログラムを随時見直し、よりよいものにする。ゲストプロフェッサー制度に限らず、この流れをもっていること、大切にしていることが本学の強みではなかろうか。

#### 12月23日 師走の忘年会

今年もあと一週間あまり。今月はいろいろな忘年会があった。若いころは2次会、3次会に行き、帰宅は午前様になって翌日は這うように職場に出かけていたが、最近はアルコールを控えない



と体がもたない。

ある教員組織の忘年会は学内で開かれたが、一人もネクタイを締めていなかった。研究をするのにしやすい服装にしているのだろう。別の教員組織は高級レストランで開かれ、大半の方がネクタイを締めていた。日頃から学外の方とミーティングしながら研究を進めているからかもしれない。

最近ピアノを始められた方もおられた。「子供のころしていたのですか」と聞くと「いいえ、娘に買ったものを使えるので」とのこと。「絵を描いています」「毎日、走っています」とか「芝居を見に行くようになりました」「歴史を独自に調べています」という方もおられた。

忘年会では、その年を振り返るだけでなく、それぞれの方の仕事のスタイル、リフレッシュのスタイルを学ぶ機会にもなる。

## 12月24日今年のポストの表示到達人数トップ15

Lifetime投稿メッセージ	タイプ	投稿済み
4340 ノーベル科学賞受賞者の働き方 2008年にノーベル化学賞を受賞された下村脩先生の計報が入った。年間クラゲを5万匹採取して発光物質の研究をされていたPhoto	10/22/18	
2521 安否情報 現時点で既に3300人を超える学生がポータルから安否を入力してくれています。軽傷が7名で、突き指や割れたガラスで出血などということです。{Status	6/18/18	
2467 [祝 2025年万博の日本(大阪)開催決定] これまで大阪府立大学でも日籬祭や友好祭などで誘致署名活動、万博誘致ロゴを名刺に印刷など様々な連携を通Photo	11/23/18	
2294 堺アセアンウィークで来日の学生に面会 堺市のプログラムで来日し、短期間ではあるが、府大の研究室に入り、勉強している。マレーシア工科大学、ブルネイPhoto	10/19/18	
2152 センター試験が終わり、出願をお待ちしています。 受験生の方へ、もし、迷われているならぜひ大学のホームページで我々がどのような教育・研究・社会活Photo	1/16/18	
2006 就活ルールの廃止 先日、経団連が就活ルールの廃止を表明した。2021年採用(つまり現2回生)からという。現在は、説明会の解禁、採用面接などの選考Status	10/14/18	
1867 法人には大学と高専がある 私は、公立大学法人大阪府立大学理事長という立場と大阪府立大学学長という2つの立場がある。前者の法人には大学だけなPhoto	1/17/18	
1801 学長顕彰(11月2日) 今年度前期の学生団体・個人顕彰を学術交流会館で行った。学長顕彰が団体6組、個人110名、感謝状が団体2組、個人27名(体力が落ちPhoto	11/8/18	
1691 安否確認と当日の様子 地震から一日経って、職員の努力で震度6以上の地域に住居登録のある学生全員の無事を確認できた。安否確認ができた学生数は6,422Photo	6/19/18	
1686 Pakuan University of Bogor と国際交流協定調印 バクアン大学というのはインドネシアの私立大学。本学を卒業後同大学で教鞭をとられている Diana WicVideo	9/1/18	
1637 池上彰氏と話す機会(1月11日@日経ホール) 日経新聞社主催の大学改革シンポジウムというのが毎年開催されていて、来年早々の「企業人の経験をいかす」Photo	12/1/18	
1634 授業体験ウィーク(19日(火)締め切り) 府大生へお騒がせ。在学生で高校時代のクラブの後輩などに会うことがあれば、進めてほしい。オープンキャンパPhoto	6/15/18	
1520 教育PROに大阪府立大学特集号 高校の先生方に府大のことを少しでも知っていただくために、教育PROという雑誌にお願いして府大の特集号を書いていただくPhoto	4/17/18	
1501 日時計 システム屋は、自然物と人工物の共存についてよく考える。自然物に対しては分析し、人工物に対しては合成する。昼休みにキャンパスを歩いていて、Photo	10/30/18	
1086 朝日新聞 x 河合塾 共同調査「ひらく 日本の大学」 受験生向けの調査を新聞社と予備校が共同実施している。2018年度の最初の結果報告の冊子を大阪府立Photo	6/6/18	
992 大阪市立大学の荒川学長と記者会見(3月1日) 先日の大阪府会での法人統合の議決を受けて会見を行った。テレビ局、新聞社など多数の方に来ていただいたPhoto	3/1/18	
937 羽曳野キャンパスの新しいサークル 先日、栄養療法専攻の3回生の学生から連絡を受けた。「羽曳野キャンパスを良くしよう！」というスローガンのもと、Link	5/23/18	
915 マヒドン大学看護学の教員・学生に面会 看護学研究科がさくらサイエンスプログラムを利用してタイの教員の学生を招いている。日籬祭の間に、佐保Photo	11/4/18	
883 優秀教職員表彰10日(大学分) 以前、優秀教職員表彰は随時行うことにしていたが、昨年から学長顕彰に時期をあわせて推薦を募集することで、モレがないPhoto	8/18/18	
757 留学体験記 以前、ある方に「文明人であるかどうかは、記録を残すか残さないかだ」と言われた覚えがある。古来、日記や法律やいろいろな文書が残っているPhoto	2/3/18	
754 大阪城東部地区(森ノ宮)の現状(1) 大阪市立大学との法人統合の議案が市会で採決されたとき、吉村市長が森ノ宮は都心キャンパスの候補と言及され、マスPhoto	9/12/18	
727 学生FDスタッフの活動 15日(木)学生FDスタッフの3人の学生が活動を紹介しに来てくれた(一枚目の写真)。活動は6年目に入っていて、10名弱の学Photo	2/19/18	
726 長い人生のなかで大学生として過ごす期間はごくわずかです。しかしその後の人生を大きく左右する。重要な時期でもあります。私のターニングポイントもPhoto	1/22/18	
709 大阪城東部地区(森ノ宮)の現状(3) UR森之宮第2団地の屋上から、市が所有している土地を視察した。南西から西北、そして東北へとカメラを動かした。Video	9/14/18	
687 科研費の学内割を創年より2週間先延ばしに 昨日(24日)、来年度からの新法人「公立大学法人大阪」の理事長が発表になった。西澤良記先生(前大阪府立Photo	8/25/18	

まだ一週間残っている年末だが、休みを利用してこの一年の投稿をみてみた。ビッグデータではないが、どのような投稿が多くの方に表示されたか(Reach: 読んでいただいているかは別にして)は、このデータで分かる。別の指標に Engagement(「いいね」を押すとか写真やリンクをクリック表示するとかアクションを起こした数) というのがあり、興味もあるので、時間があるときにはじっくりと分析している。

- (1) 働き方を考える(裁量労働制を理解する) 4350人
- (2) 安否情報(災害時にまず報告) 2521人
- (3) 祝: 万博2025大阪開催決定 2467人
- (4) 堺アセアンウィーク 2294人
- (5) センター試験を終えて、受験のお誘い 2152人
- (6) 就活ルールの廃止(慌てぬこと) 2006人
- (7) 大学と高専(法人との関係) 1867人
- (8) 学長顕彰 1801人
- (9) 安否確認と当日の様子 1691人
- (10) バクアン大学との交流協定 1686人
- (11) 池上彰氏と話す機会(1月11日@日経ホール) 1637人
- (12) 授業体験ウィーク 1634人

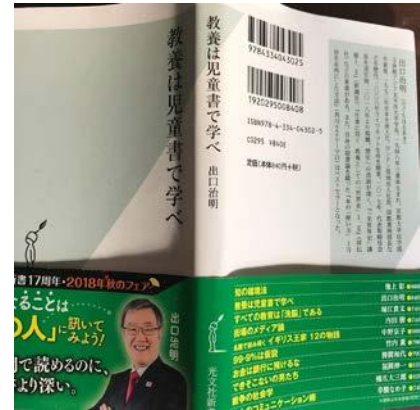
(13) 教育PROに府大特集号 1520人

(14) 日時計：システム屋の視点から 1501人

(15) 朝日新聞 x 河合塾 共同調査「ひらく 日本の大学」 1086人

12月25日 昔読んだ本を再読する大切さ

私の研究分野に H.Simon というノーベル経済学賞受賞者が書いた「The Science of the Artificial」という本がある。直訳すれば「人工物の科学」だが、和書では「システムの科学」となっている。なかなか難解で、米国人の友人は「読むたびに新しい気づきがある」と言っていた。私の父も夏目漱石の「吾輩は猫である」に関して「子供の時に読んだ味わいと違うものがあった」と老いて再読した時に言っていた。



年明けに招待された池上彰氏とのパネル討論に参加されるパネラーの一人が元ライフネット生命社長で現在立命館アジア太平洋大学学長の出口治明氏。一度お会いしたことがあり、大学のデータカードのアイデアを頂いた。その氏の最近の著作の「教養は児童書で学べ」というのを読んだ。

先日、ここでも書いたイソップ物語を調べたこともあり、児童書に含まれる「ごまかしのない、無駄を過ぎ落とした丁寧な本が児童書」「長きにわたって読み続けられ語り続けられたのが児童書」であり、この本を読んだことにより、昔読んだ本を再読しよう（再読して学ぶ）いう気になった。

「最近の学生は読書量が少なくなっている」と言われているが、読みやすい本を繰り返し読むことでも教養がつく。そのように確信させてもらえる本だった。

12月26日 十大ニュース

教授として研究室を運営していた時には、毎年の十大ニュースを学生と振り返っていた。新しく研究室配属があったこと、卒業生が出たこと、研究室旅行に行ったこと、〇〇さんが学会受賞したこと、大学祭で出店したこと、〇〇という事件が起こったことなどなど忘年会で話し合った。振り返りは大切だと思う。

さて、私にとってこの一年の振り返りを10項目にあげるとどうなるだろう。ニュースというと、ある特定の時点になるのが、何を考えて行動していたのかを振り返ってみた。それぞれに点数をつけると合格点もあれば、不合格点もある。



- (1) 全員広報宣言
- (2) Greater OPU を目指して：同窓生との交流を強化
- (3) 学生の資格試験合格率向上のフォローアップ
- (4) 荒川哲男大阪市立大学学長との連携
- (5) 自然災害対策：被災地にボランティア、台風で倒木
- (6) 働き方の見直し
- (7) キャンパスのグローバル化
- (8) 留学のすすめ



(9) 大学と高専との連携

(10) 大阪の活性化を目指して：万博決定  
年末年始のFB投稿は、この振り返りを  
していこうと思う。気づけば、法人統合ま  
で、100日を切っている。

12月27日 寄稿：風と人生

ヤンマー創業者である山岡孫吉氏が創設  
された山岡育英会というのがある。私が本  
学に着任した直後に配属となった中国から

の留学生が奨学金を頂いた会だ。その後も長年にわたって多くの本学の学生が支援をいただいでおり、感謝している。

学長になってからは、毎年同会の会誌に寄稿する機会を頂き、その記事を本学のHPで公開する許可も頂いている。記事については、いつも挨拶時の十八番をもとに書いている。今年、会誌が届いた。私のも11大学の総長・学長（内7つは旧帝大）の一つとして掲載されていた。入れて頂いたのはとても光栄に思う。少し目立とうとスーツではない写真にしてみた。すでに何度か挨拶に使っているネタが、どうだろう？

-----

昨年、初めて函館に行った。北海道のあの函館へ。江戸時代末期に下田とあわせて開国した地で、洋風の建物があり、イギリスなどからの駐在員がいたことを街のあちらこちらで感じられる素敵な街だった。

日本三大夜景のひとつを見るため函館山に登り、日没を待った。そのとき、目の前に「風向計」があることに気づいた。風の方向とその速さを示す風向計だ。当日、台風が近づいていたので、かなり強い風が吹いていた。風の方向は一定ではなく向きも変わり、そのあまりの頻度に驚いた。風向だけでなく、風力も頻繁に変わっていた。海側から激しく吹いたかと思うと急に緩やかに、緩やかかと思うと山側から激しく・・・という具合だ。（周りの人は風向計ばかり見ている私を見て「変な人だな」と思ったかもしれない）

函館山で景色よりも風向計に気を取られながらふと横を見ると、陸上競技の桐生祥秀選手に似た人がいた。彼を見たとき、ほんの少しの風が100メートル走では大きな影響を与えることを思い出した。調べてみると、彼は2015年に追い風3.3メートルで9秒87を出したが、風が強すぎて日本記録にはならず参考記録になっている。その後、彼は2017年9月に福井市で、日本記録として9秒98を出した。「風のリズムを読み切った審判員がいたことが大きかった」と当時報道されたが、この「風を読む」という言葉が面白い。

ところで、皆さんは選挙に関心をもっているだろうか。若い人には棄権することなく選挙というイベントを通して、新たな学び、新たな気づきをしてほしいが、選挙にも「風」があり、向きが数度にわたって変わったり、またその力が大きく変わったりする。このように、風を見るだけでなく我々は、風を起こすこともできるのである。



他にも「風」については、いろいろな話がある。本学には、人工光型の大型植物工場があるが、風がない屋内では野菜の育ちが悪いので、人工的に風を起こして栽培している。家庭の扇風機やエアコンは、方向や強さが変わるほうが、つまり「揺らぎ」があるほうが涼しいと感じる。風をうまく使えば節電ができる。

私自身のキャリアを振り返ってみると学生時や民間の会社員の時も、本学の教員となってからも、そして、法人役員になった今もなお、いろいろな「風」を見続けている。風を起こそうとしても起きなかったり、逆に思った以上に起きてしまったりしたこともある。こうして周囲の変化を予測する「風を読む」ことの大切さを学んできた。

さて、皆さんの今後の活躍と「風」について考えてほしい。皆さんがやりたいことに対して、追い風も吹けば向かい風も吹くことだろう。もし、追い風に乗っているなら油断しないほしい。いつ向かい風になるか分からない。もし、向かい風を感じたら少し耐えよう。いずれ追い風が必ず吹く。風向だけでなく風力も変わる。工夫すれば自ら風を起こすこともできるのだ。

外に出て「自然の風」を感じた時、この話を思い出し、皆さんが「人生の風」にどう対応していくかを考えるきっかけになれば、それは望外の幸せだ。

## 12月28日 大阪堺植物工場株式会社様と協定締結（12月26日）

本学の植物工場研究センター。全学から教員が参加して多くの研究成果を発表してきたが、最近になって、ビジネスとしてもかなりよくなってきた。それを担ってくださっているのが大阪堺植物工場株式会社（以下、OSP、代表取締役 山口利昭氏）。海外からの視察団や国内の高校生の修学旅行の見学なども増えている。また、栄養療法学専攻中心に多様な学生が参加してレシピコンテストなども実施している。

今回、次の展開として、キャンパス外に同社が第2の研究施設を整備し生産品目の多品種化・機能性食材の開発等の研究開発を行う。このため、産学官連携協定を締結した。来年在ら楽しみだ。

## 12月29日（1）全員広報宣言

個人的に振り返ってみた2018年の十大ニュースの一つ目。入試担当職員だけでなく広報課他の部署の職員の方にも高校訪問をお願いした。教員が出前講義に行ったときに入試ガイダンスキットを持参して配布できるようにした。以前はこういう活動をしなくても受験生は集まっていたと聞くが、今は公立大学でもそうはいかない。

また、デジタル発信を強化するだけでなく、その効果検証も行った。受験生がよく見るサイトから「授業体験WEEK」や「オープンキャンパス」など入試広報Webページのアクセス数も昨年に比べて格段に増えた。

中百舌鳥キャンパスで模擬試験があるときには応援の立看板も作った。教職員、そして卒業生が大学の近況を知れ



るようにメルマガで情報提供している。この活動を2019年にはもっと拡大してほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

### 12月30日 (2) Greater OPU を目指して

今年を振り返っての2件目。以前に米国に行ったときに Greater Pittsburgh というような使い方があったことを知った。ピッツバーグ市だけでなく、その周辺を含めた地域のことだと聞いた。また、Greater "組織名" という表現を使っているのを聞いて、「面白い使い方だなあ」と思った。

Greater OPU は、府大の教職員、学生に加えて、卒業生、保護者、産学官連携で交流している方々などネットワークを作って、ファン(支持者)を増やしたいために、ある意味勝手に使っている(あまり認知されていない)。

私のできることは、同窓会に出席すること、保護者との接点を増やすこと、海外からの来客になるべく会うこと、高校の先生や受験生との接点を増やすこと、共同研究先などとの講演会などに出席すること、などなど。写真を撮らせてもらってSNSに投稿することの許可を得てきた。多くの思い出がある。

有名私学のネットワークに比べると足元にも及ばないかもしれない。一步ずつでも進めたい。

### 12月31日 (3) 資格試験合格率向上のフォローアップ

今年を振り返る3件目。学生の資格試験のシーズンが近づいてきた。国家資格を目指している学生さんたちは健康に気をつけて準備を怠らないように。年によって問題の難易が変わり、合格率が全国的に変動すると聞いている。しかし、しっかり準備しておけばきっと合格してくれると信じている。

学長に就任した直後はあまり関心をもっていなかったが、この二年ほどすごく気になってデータをフォローしている。看護学類で127名全員が合格、総合リハビリテーション学類で78名全員が合格というのはすごく誇れる数字であるとともにこれからについては目標でもありプレッシャでもある。



◆国家資格合格率(いずれも新年のみ、2017年度実績)			
獣医師 97.8% (44名 全国96.9%)	看護師 100% (127名 全国96.3%)	保健師 96% (24名 全国85.6%)	助産師 100% (9名 全国99.4%)
理学療法士 100% (23名 全国87.7%)	作業療法士 100% (25名 全国83.9%)	管理栄養士 100% (30名 全国99.6%)	社会福祉士 78.3% (36名 全国54.6%)

▶特色ある広報アクション

※大・高専 全国広報官選 学長Facebook

高校生のけ「やりたいこと」検索サイト [FindOut!!]